■ 製品についてのサポートのご案内

ホームページで調べる



ハンディカムの最新サポート情報
（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など）
http://www.sony.co.jp/cam/support/

ハンディカムホームページ
http://www.sony.co.jp/cam
ハンディカムの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。

メモリースティック対応表
http://www.sony.co.jp/mstaiou
使用可能な"メモリースティック"を確認することができます。

電話で問い合わせる（おかけ間違いにご注意ください）



テクニカルインフォメーションセンター
ナビダイヤル 0570-00-0066
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）
携帯電話・PHSでのご利用は 0564-62-4979
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）
＜電話受付時間＞
月～金曜日　午前9時～午後8時
土、日曜日、祝日　午前9時～午後5時
お電話の際は、本機をお手元にご用意ください。

修理のお申し込み



指定宅配便での修理品のお引き取りから修理後の製品のお届けまでを一括して行います。テクニカルインフォメーションセンターへお電話いただくか、WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-repair/

■ カスタマー登録のご案内



カスタマー登録していただくと、安心、便利な各種サポートが受けられます。
詳しくは、同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/

登録後は登録者専用お問い合わせ窓口をご利用いただけます。
詳しくは下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cam/contact/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35　http://www.sony.co.jp/



この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan



SONY

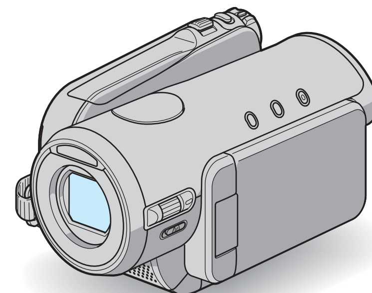
2-661-355-**03** (1)

デジタルHDビデオカメラレコーダー

HANDYCAM

取扱説明書

HDR-HC3



HDV　Mini DV Digital Video Cassette　MEMORY STICK™　InfoLITHIUM™ P SERIES　HDMI
HDV 1080i


警告 **電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

 安全のために

→124〜127ページも
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源コードに傷がないか、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラや充電器などの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにテクニカルインフォメーションセンターへご相談ください。

万一、異常が起きたら

**変な音・においがしたら
煙が出たら**

→

❶ **電源を切る**
❷ **電池を外す**
❸ **テクニカルインフォメーションセンターに連絡する**

裏表紙に**テクニカルインフォメーションセンターの連絡先**があります。

 万一、電池の液漏れが起きたら

❶ **すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。**
❷ **液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。**
❸ **液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。**
❹ **液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。**

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。



この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。



この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。



この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号


火災


感電

行為を禁止する記号


禁止


分解禁止


ぬれ手禁止

行為を指示する記号


プラグをコンセントから抜く


指示

電池について

「安全のために」の文中の「電池」とは、バッテリーパックも含みます。

使用前に必ずお読みください

お買い上げいただきありがとうございます。

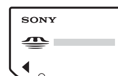
本機で使えるカセットについて

Mini DV マーク付きミニDVカセットが使えます。カセットメモリーには非対応です（詳しくは111ページ）。

本機で使える“メモリースティック”について

“メモリースティック”のサイズには2種類あります。本機では、MEMORY STICK DUO（“メモリースティック　デュオ”）、MEMORY STICK PRO DUO（“メモリースティック PRO　デュオ”）マーク付きの“メモリースティック　デュオ”が使えます（詳しくは113ページ）。

“メモリースティック　デュオ”
（本機で使用するサイズ）



“メモリースティック”
（本機では使用できません）

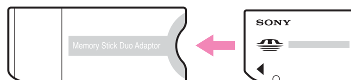


- “メモリースティック　デュオ”以外のメモリーカードは使用できません。
- “メモリースティック　PRO”、“メモリースティック　PRO　デュオ”は“メモリースティック　PRO”対応機器でのみ使用可能です。

“メモリースティック　デュオ”を“メモリースティック”対応機器で使用する場合

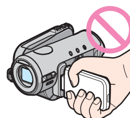
必ず“メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れてからお使いください。

メモリースティック　デュオ　アダプター



故障や破損の原因となるため、特にご注意ください。

- 次の部分をつかんで持たないでください。

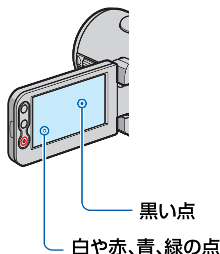


液晶画面

- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。「取り扱い上のご注意とお手入れ」もご覧ください（117ページ）。
- HDMIケーブル、D端子コンポーネントビデオケーブル、USBケーブル、i.LINKケーブルなどで接続する場合、端子の向きを確認してつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。

メニュー項目、液晶画面、ファインダーおよびレンズについてのご注意

- 灰色で表示されるメニュー項目は、その撮影/再生条件では使えません(同時に選べません)。
- 液晶画面やファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えなかったりすることがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。



- 液晶画面やファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影しないでください。故障の原因になります。夕暮れ時の太陽など光量の少ない場合は撮影できます。

録画/録音に際してのご注意

- 事前にためし撮りをして、正常な録画/録音を確認してください。
- 万一、ビデオカメラレコーダーや記録メディアなどの不具合により記録や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたがビデオで録画/録音したものは個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

他機での再生に際してのご注意

HDV規格で記録したテープは、DV規格のビデオカメラやミニDVデッキでは再生できません(青一色の画面になります)。

他機で再生する前に本機で再生して、テープの内容を確認することをおすすめします。

本書について

- 画像の例としてスチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。
- 記録メディアやアクセサリーの仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスとソニーで共同開発した、MTF測定システムを用いてその品質を管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。

さらに本機はT*コーティングを採用しており、不要な反射を抑え、忠実な色再現性を実現しております。

MTF=Modulation Transfer Functionの略。

コントラストの再現性を表す指標です。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

目次

文中のマークについて
HDV1080i HDV規格だけで使える機能です。
DV DV規格だけで使える機能です。



ハイビジョン映像を楽しもう

準備する



シンプル操作ー自動設定でかんたんに使う



撮る/見る

次のページへつづく➡

メニューで設定を変更する

ダビングや編集をする

パソコンとつなぐ

困ったときは

その他

次のページへつづく➡

安全のために 124

各部のなまえ・索引

HDV規格で撮ってみよう！

HDV規格で撮る醍醐味

とってもきれい

HDV規格では従来のテレビに比べて有効走査線数は約２倍以上、全体の画素数は約４倍以上となり、画質が飛躍的に向上しました。
本機はHDV規格に対応し、高精細で臨場感あふれるハイビジョン映像を撮影することができます。

HDV規格とは？

HDV規格とは、現在普及しているDV規格のカセットテープを使ってハイビジョンの映像を撮影･再生するための新しい映像規格です。

- **本機では、「HDV規格」の中で、有効走査線数1,080本を実現するHDV規格の1080i方式を採用しています。**記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。



有効走査線数1,080本

- 本書では、とくに説明する場合を除き、HDV1080i方式のことをHDVと書きます。

なぜHDV規格で撮るの？

映像の世界がデジタル方式へと移行していくなかで、大切な場面をHDV規格で撮影しておくことで後々まで高画質な映像をお楽しみいただくことができます。
従来のワイドテレビや4:3テレビでも本機のダウンコンバート機能によりHDV規格の画像をSD（標準）画質で再生できるので、ハイビジョンテレビをお持ちでないかたも将来に備えてHDV規格で撮影することをおすすめします。

- ダウンコンバートとは、HDV1080i方式非対応のテレビやビデオ機器と本機をつないだときに、HDV規格の映像をDV規格に変換して再生、編集を可能にする機能のことです。画質はSD（標準）画質になります。

HDV規格で撮影した画像を楽しもう！



ハイビジョンテレビで見る（40ページ）

HDV規格で撮影した画像を高精細で鮮やかなHD（ハイビジョン）画質で再生できます。

• HDV1080i方式（i.LINK）対応のテレビについては、112ページをご覧ください。

ワイドテレビ/4:3テレビで見る（40ページ）

HDV規格で撮影した画像を本機でダウンコンバートして、従来のテレビで見ることができます。画質はSD（標準）になります。

他のビデオ機器にダビングする（72ページ）

HDV1080i方式対応機器とつなぐ

i.LINKケーブルでつないでHD（ハイビジョン）画質でダビングができます。

HDV1080i方式以外の機器とつなぐ

HDV規格で撮影した画像を本機でダウンコンバートして、SD（標準）画質でダビングできます。

パソコンにつなぐ（82ページ）

“メモリースティック　デュオ”の静止画をパソコンに取り込む

82ページをご覧ください。

テープの動画をパソコンに取り込む

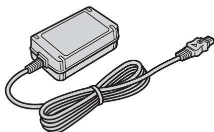
パソコンに取り込む規格（HDVまたはDV）によって、パソコンに必要な装備が異なります。詳しくは、85ページと下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cam/support/

準備1:付属品を確かめる

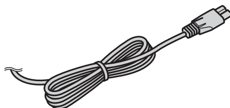
箱を開けたら、付属品がそろっているか確認してください。万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
(　)内は個数。

- ビデオカセット、"メモリースティック　デュオ"は別売です。本機で使えるカセットテープと"メモリースティック　デュオ"については3、111、113ページをご覧ください。

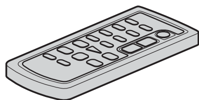
ACアダプター(1)(13ページ)



電源コード(1)(13ページ)

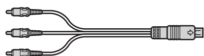


ワイヤレスリモコン(1)(38ページ)



ボタン型リチウム電池があらかじめ取り付けられています。

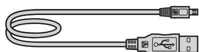
AV接続ケーブル(1)(40、72ページ)



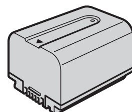
D端子コンポーネントビデオケーブル(1)(40ページ)



USBケーブル(1)(79、82ページ)



リチャージャブルバッテリーパック NP-FP60(1)(13、115ページ)



バッテリー端子カバー (1)

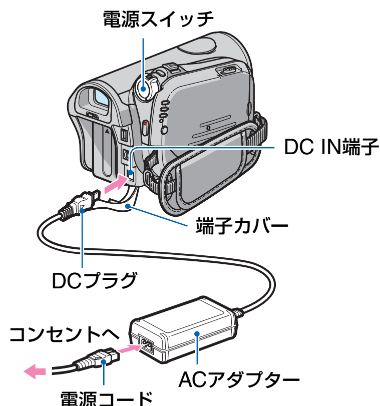
本機にあらかじめ取り付けられています。

取扱説明書 <本書> (1)

保証書(1)

準備 2:バッテリーを充電する

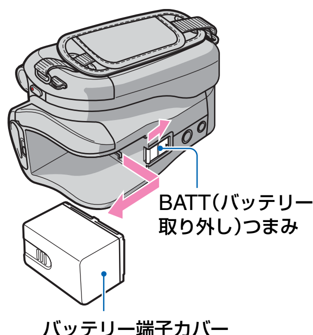
専用の“インフォリチウム”バッテリー(Pシリーズ)(115ページ)を本機に取り付けて充電します。



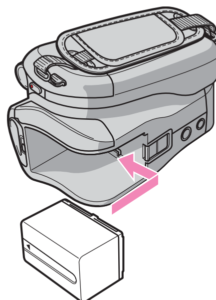
- 図のように接続して、コンセントからの電源で本機を使うこともできます。バッテリーを取り付けたままでもバッテリーは消耗しません。

1 バッテリーを取り付ける。

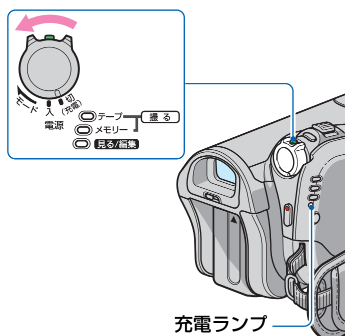
① BATT(バッテリー取り外し)つまみをずらしながら、バッテリー端子カバーを取り外す。



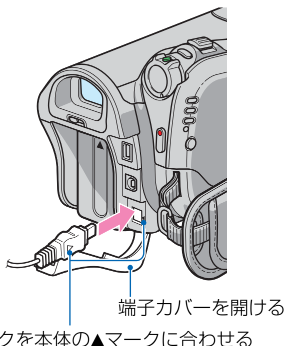
② バッテリーを「カチッ」というまで矢印の方向にずらして、取り付ける。



2 電源スイッチを矢印の方向へずらして、「切(充電)」(お買い上げ時の設定)にする。



3 DCプラグの▲マークを本体の▲マーク側にして、ACアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。



4 電源コードをACアダプターとコンセントにつなぐ。

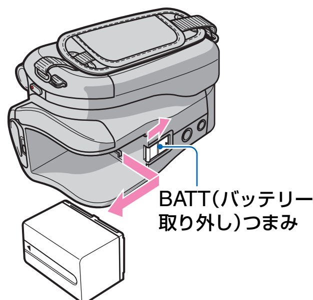
充電ランプが点灯し、充電が始まります。充電ランプが消えると、充電が終了します（満充電）。

5 ACアダプターを本機のDC IN端子から抜く。

DCプラグと本機を持って抜いてください。

バッテリーを取り外すには

電源スイッチを「切（充電）」にする。BATT（バッテリー取り外し）つまみをずらしながら、バッテリーを取り外す。



保管するときは

バッテリー端子を保護するため、バッテリー端子カバーを取り付けてください。長い間使わないときは、バッテリーを使い切ってから保管してください。（保管について詳しくは115ページをご覧ください。）

充電時間

使い切った状態からのおよその時間（分）。

バッテリー型名	満充電時間
NP-FP50	125
NP-FP60（付属）	135
NP-FP70	155
NP-FP71	170
NP-FP90	220

撮影可能時間

満充電からのおよその時間（分）。

HDV規格で撮影したとき

バッテリー型名	連続撮影時	実撮影時*
NP-FP50	60	30
	65	35
	65	35
NP-FP60（付属）	90	50
	100	55
	100	55
NP-FP70	125	65
	135	70
	135	70
NP-FP71	150	80
	165	90
	165	90
NP-FP90	230	125
	250	135
	250	135

DV規格で撮影したとき

バッテリー型名	連続撮影時	実撮影時*
NP-FP50	60	30
	65	35
	65	35
NP-FP60（付属）	95	50
	105	55
	105	55
NP-FP70	135	70
	145	80
	145	80
NP-FP71	160	85
	175	95
	175	95
NP-FP90	240	130
	260	140
	260	140

- それぞれの時間は、次の条件によるものです。
  上段：液晶画面バックライトが「入」のとき
  中段：液晶画面バックライトが「切」のとき
  下段：液晶画面を閉じてファインダーを使用したとき

* 実撮影時とは、録画スタンバイ、電源スイッチの切り換え、ズームなどを繰り返したときの時間です。

再生可能時間

満充電からのおよその時間（分）。

HDV規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶画面で再生*	液晶画面を閉じて再生
NP-FP50	75	80
NP-FP60（付属）	115	125
NP-FP70	160	175
NP-FP71	195	205
NP-FP90	290	310

DV規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶画面で再生*	液晶画面を閉じて再生
NP-FP50	85	95
NP-FP60（付属）	135	145
NP-FP70	185	200
NP-FP71	220	235
NP-FP90	335	355

* 液晶画面バックライトが「入」のとき

バッテリーについて

- バッテリーの交換は、電源スイッチを「切（充電）」にしてから行ってください。
- 次のとき、充電中の充電ランプが点滅したり、バッテリーインフォ（32ページ）が正しく表示されないことがあります。
  – バッテリーを正しく取り付けていないとき
  – バッテリーが故障しているとき
  – バッテリーが劣化しているとき（バッテリーインフォ表示のみ）
- 電源コードをコンセントから抜いても、ACアダプターが本機のDC IN端子につながれている限り、バッテリーからは電源供給されません。

次のページへつづく→

- ビデオライト（別売り）を取り付けたときは、バッテリーNP-FP60/NP-FP70/NP-FP71/NP-FP90のご使用をおすすめします。

充電/撮影/再生時間について

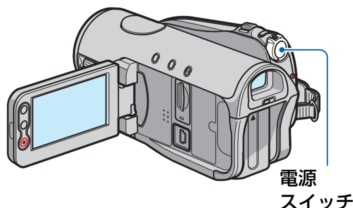
- 25℃（10℃～30℃が推奨）で使用したときの時間です。
- 低温の場所で使うと、撮影/再生時間はそれぞれ短くなります。
- 使用状態によって、撮影/再生可能時間が短くなります。

ACアダプターについて

- ACアダプターは手近なコンセントを使用してください。本機を使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- ACアダプターを壁との隙間などの狭い場所に設置して使用しないでください。
- ACアダプターのDCプラグやバッテリー端子を金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

準備 3:電源を入れて正しく持つ

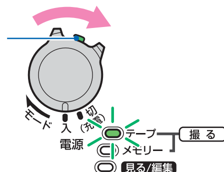
撮影や再生時は、電源スイッチを操作して、ランプを点灯させせます。
初めて電源を入れると自動的に[日時あわせ]画面になります(20ページ)。



1 電源スイッチを矢印の方向に繰り返しずらして、使用するモードのランプを点灯させる。

「撮る－テープ」または「撮る－メモリー」にしたときはレンズカバーが開きます。

「切(充電)」から電源を入れるときは、押しながら矢印の方向へずらす。



点灯させるランプ

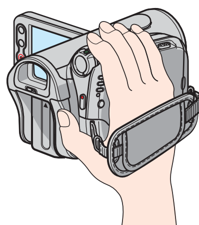
「撮る－テープ」:テープに撮影時

「撮る－メモリー」:"メモリースティック デュオ"に撮影時

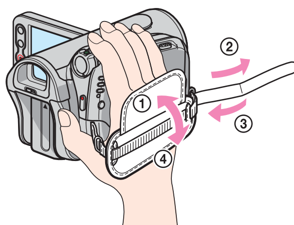
「見る/編集」:再生や編集時

- [日時あわせ](20ページ)を行った後で本機の電源を入れると、液晶画面に現在の日時が数秒間表示されます。

2 本機を正しく構える。



3 ベルトをしっかりと締める。



長さを調節できます。

電源を切るには

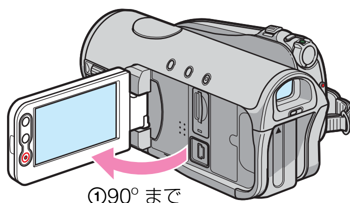
電源スイッチをずらして、「切(充電)」にする。

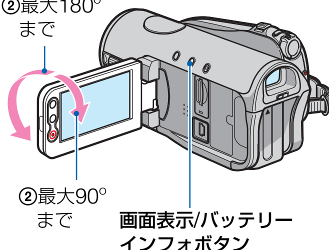
- お買い上げ時は、電源を入れて何もしない状態が約5分続くと、バッテリー消耗防止のため、自動的に電源が切れます([自動電源オフ]、67ページ)。
- お知らせメッセージが表示されたときは、その指示に従ってください(106ページ)。

準備 4:液晶画面とファインダーを調節する

液晶画面を見やすく調節する

液晶画面を90°まで開き(①)、見やすい角度に調節する(②)。





- 液晶画面を開閉するときや、角度を調節するときに、液晶画面の横にあるボタンを誤って押さないよう、ご注意ください。
- 液晶画面を①の状態からレンズ側に180°回転させると、外側に向けて本体に収められます。再生時に便利です。
- 液晶画面を閉じるときは、液晶画面を①の状態にしてから、本体に向けて閉じます。

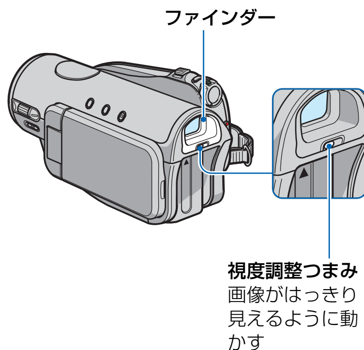
液晶画面バックライトを消してバッテリーを長持ちさせるには

画面表示/バッテリーインフォボタンを OFF が表示されるまで数秒間押したままにする。明るい場所で使うときや、バッテリーを長持ちさせるときに効果的です。録画される画像には影響ありません。
解除するにはもう1度 OFF が消えるまで押したままにする。

- 液晶画面の明るさは、[パネル･VF設定]－[パネル明るさ](65ページ)で調節できます。

ファインダーを見やすく調節する

バッテリー切れが心配なときや液晶画面で画像を見づらいときなどは、液晶画面を閉じて、ファインダーで画像を見ることもできます。

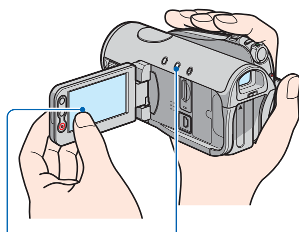


- ファインダーのバックライトの明るさは、メニューの[パネル･VF設定]－[VFバックライト]で設定できます(65ページ)。

準備 5：タッチパネルを操作する

撮影した画像を再生するときや（29ページ）、メニューで設定を変更するとき（46ページ）は、液晶画面をタッチして操作します。

液晶画面の背面を手で支えながら画面上のボタンを指で軽くタッチする（触れる）。



画面のボタンをタッチする

画面表示/バッテリーインフォボタン

- 液晶画面の横にあるボタンを押すときも同様に操作します。
- 液晶画面をタッチして操作するときに、液晶画面の横にあるボタンを誤って押さないようにご注意ください。
- 反応するボタンの位置がずれているときは、画面調節（キャリブレーション）してください（118ページ）。

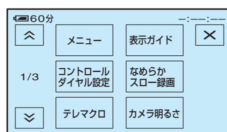
画面表示を消したいときは

画面表示/バッテリーインフォボタンを押すたびに、タイムコードなどの情報が、表示←→非表示と切り換わる。

画面表示を確認する（表示ガイド）

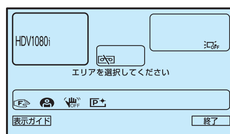
画面に出ている表示の意味（36ページ）を簡単に確認できます。

1 P.メニュー をタッチする。



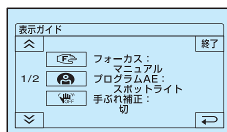
シンプル操作中は[メニュー]をタッチしてください（24ページ）。

2 [表示ガイド]をタッチする。



設定されている内容によって、表示項目が異なります。

3 確認したい表示が入っているエリアをタッチする。



エリアにある表示の意味が一覧で表示されます。確認したい表示が見つからないときは、[⌃]/[⌄]をタッチして表示させてください。
[↩]をタッチするとエリア選択画面に戻ります。

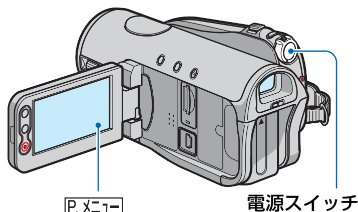
終了するには

[終了]をタッチする。

準備6:日付時刻を合わせる

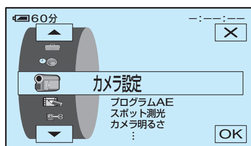
初めて電源を入れたときは日付、時刻を設定してください。設定しないと、電源を入れたり、電源スイッチを切り換えるたびに[日時あわせ]画面が表示されます。

- **3か月**近く使わないでおくと内蔵の充電式電池が放電して、日付、時刻の設定が解除されます。充電式電池を充電してから設定し直してください（119ページ）。

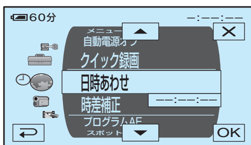


初めて時計を合わせるときは、手順**4**から操作してください。

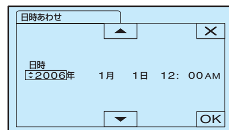
1 **P.メニュー→[メニュー]をタッチする。**



2 **▲/▼で 時間設定メニューを選び、OKをタッチする。**

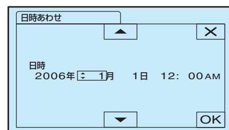


3 **▲/▼で[日時あわせ]を選び、OKをタッチする。**



4 **▲/▼で[年]を合わせ、OKをタッチする。**

2079年まで設定できます。



5 **同様に、[月]、[日]、時、分を合わせ、OKをタッチする。**

時計が動き始めます。
真夜中は12:00AM、正午は12:00PMです。

- 日付時刻は撮影時には表示されません。
自動的にテープに記録され、再生時に表示させることができます（[日時/カメラデータ表示]（シンプル操作時は[日時データ]のみ設定できます）、66ページ）。

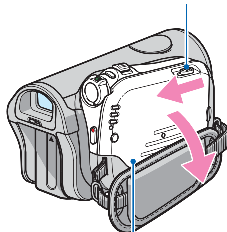
準備7：カセットや"メモリースティック デュオ"を入れる

カセットを入れる

Mini DV マーク付きミニDVカセットのみ使えます（111ページ）。

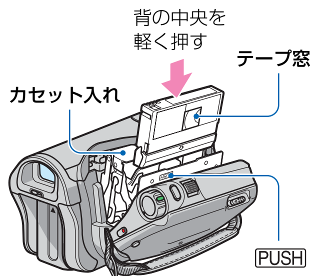
- [DV録画モード]によって、録画可能時間は異なります（64ページ）。DV

1 OPEN/EJECT つまみを矢印の方向にずらしたまま、カセットカバーを開ける。



カセット入れが自動的に出て開きます。

2 テープ窓を外側にして、カセットを入れ、PUSH マークを押す。



カセット入れが自動的に収納されます。

- カセット入れが引き込まれているときに DO NOT PUSH の刻印部分を押さないでください。無理に押し込むと故障の原因になります。

3 カセットカバーを手で閉める。

カセットを取り出すには

手順**1**と同じ操作でカセットカバーを開けて、カセットを取り出す。

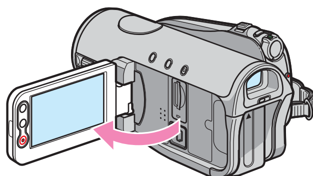
準備する

“メモリースティック　デュオ”を入れる

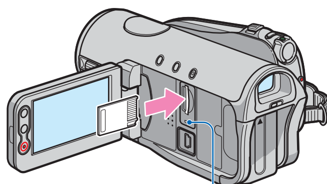
MEMORY STICK DUO、MEMORY STICK PRO DUO マーク付き“メモリースティック　デュオ”のみ使えます（113ページ）。

- 画質や画像サイズによって撮影可能枚数は異なります。撮影枚数については56ページをご覧ください。

1 液晶画面を開ける。



2 “メモリースティック　デュオ”を正しい向きに、「カチッ」というまで押し込む。



- 誤った向きで無理に入れると、“メモリースティック　デュオ”や“メモリースティック　デュオ”スロット、画像データが破損することがあります。

“メモリースティック　デュオ”を取り出すには

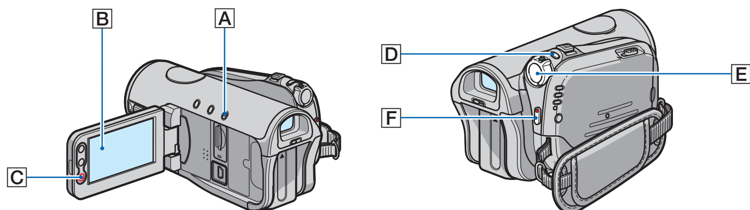
“メモリースティック　デュオ”を軽く1回押して取り出す。

- アクセスランプの点灯中や点滅中は、データの読み込みや書き込みを行っています。本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“メモリースティック　デュオ”やバッテリーを取り外したりしないでください。画像データが壊れることがあります。
- 出し入れ時には”メモリースティック　デュオ”の飛び出しにご注意ください。



かんたんに撮って見る(シンプル操作)

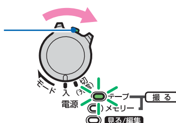
ほとんどの設定を自動化するので、細かい設定なしに簡単に撮影、再生できます。
また、文字も大きく見やすくなります。



動画を撮る

1 電源スイッチEで「撮るーテープ」ランプを点灯させる。

「切(充電)」から電源を入れるときのみ、押しながら矢印の方向へずらす。



2 シンプルボタンAを押す。

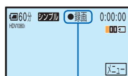




シンプル が液晶画面Bに表示される。

3 スタート/ストップボタンFまたはCを押して撮影を開始する。





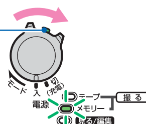
[スタンバイ]→[● 録画]

もう1度押すと、録画ストップ。

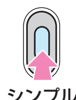
静止画を撮る

1 電源スイッチEで「撮る－メモリー」ランプを点灯させる。

「切(充電)」から電源を入れるときのみ、押しながら矢印の方向へずらす。



2 シンプルボタンAを押す。





シンプル が液晶画面Bに表示される。

3 フォトボタンDを押して撮影する。*



軽く押してピント合わせ　点滅→点灯　深く押して撮影

▮▮▮▮が消えると記録される。

* 静止画は"メモリースティック　デュオ"に、画質[ファイン]で記録されます。

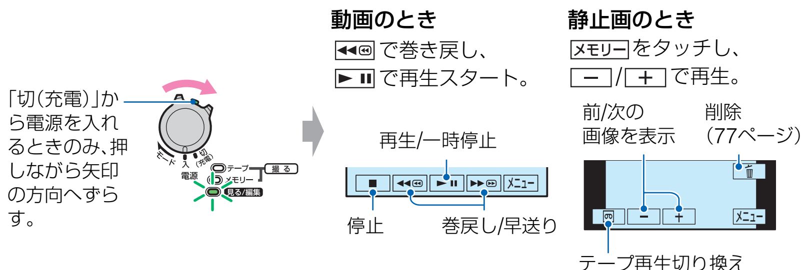
テープ撮影中に高画素の静止画を記録する(デュアル記録)

電源スイッチEを「撮る－テープ」にして、テープ撮影中にフォトボタンDを深く押す。
1度のテープ撮影中に、最大3枚の静止画を記憶できます。テープ撮影が終わると、記憶されていた静止画が"メモリースティック デュオ"に記録されます(30ページ)。

- テープ撮影を終了して"メモリースティック デュオ"への記録が完了するまで、本機から"メモリースティック デュオ"を抜かないでください。

撮影した動画/静止画を見る

電源スイッチEで「見る/編集」ランプを点灯させ、液晶画面Bをタッチして見る。



シンプル操作をやめるには

シンプルボタンAをもう一度押す。液晶画面のシンプル表示が消える。

シンプル操作中のメニュー設定

[メニュー]をタッチすると設定可能なメニューが表示されます。
詳しい設定方法は47ページをご覧ください。

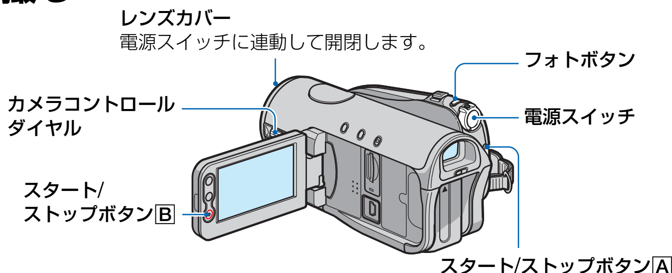
- ほとんどのメニュー項目はお買い上げ時の設定に自動で戻ります(48ページ)。
- シンプル操作中はP.メニューボタンは表示されません。
- 画像に効果を加えたり、いろいろな設定をしたいときはシンプル操作を解除してください。

シンプル操作中は使えないボタン

ほとんどの機能は自動設定されるため、次のボタン/ダイヤルは使えません。使用不能のボタンを押すと、「シンプル操作中は無効です」とメッセージが出ることもあります。

- 逆光補正ボタン(31ページ)
- 画面表示/バッテリーインフォボタンの長押し(18ページ)
- カメラコントロールダイヤル(31ページ)
- マニュアルボタン(31ページ)

撮る

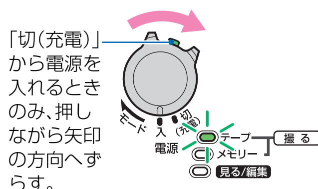


1 電源スイッチを矢印の方向に繰り返しずらして、使用するモードのランプを点灯させ、記録するメディアを選ぶ。

テープに動画を撮るとき：
「撮る－テープ」ランプを点灯

“メモリースティック　デュオ”に静止画を撮るとき：
「撮る－メモリー」ランプを点灯*

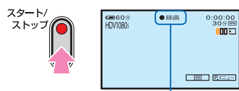
* お買い上げ時の設定では、画像の比率は 4:3 になります。



2 撮影を始める。

動画のとき

スタート/ストップボタンA（またはB）を押す。



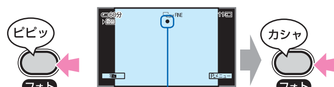
[スタンバイ]→[● 録画]

動画撮影を止めるには、スタート/ストップボタンをもう1度押す。

- お買い上げ時にはHDV規格で撮影するように設定されています（64ページ）。

静止画のとき

フォトボタンを軽く押してピントを合わせ、深く押す。



軽く押して　ピント合わせ　　点滅→点灯　　深く押して　撮影

「カシャ」と鳴り、▮▮▮▮が消えると記録される。

テープ撮影中に高画素の静止画を記録する（デュアル記録）

詳しくは、30ページをご覧ください。

“メモリースティック　デュオ”に記録した画像をすぐに確認する

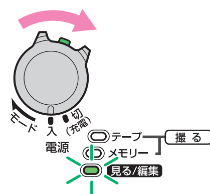
をタッチする。画像を消すには、

→[はい]をタッチする。

- 画像サイズについては、56ページをご覧ください。

見る

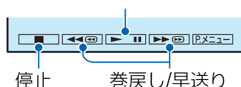
1 **電源スイッチを矢印の方向に繰り返しずらして、「見る/編集」ランプを点灯させる。**



2 **再生を始める。**

動画のとき

[⏪] をタッチして見たい位置まで巻戻し、[▶ II] をタッチして再生する。



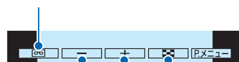
* タッチするたびに切り換わります。一時停止が３分以上続くと、自動的に停止します。

- テープ停止中で、画像が入っている"メモリースティック デュオ"が入っているときは、[■] が [メモリー] と表示されます。

静止画のとき

[メモリー] をタッチする。

最後に撮影した画像が表示される。



動画の音量を調節する

カメラコントロールダイヤルを回して調節する（31ページ）。

- メニューでも音量調整できます（64ページ）。

動画を見ながら場面を探す

再生中に [⏩] / [⏪] をタッチしたままにする（ピクチャーサーチ）。

早送り中に見るときは [⏩] を、巻戻し中は [⏪] をタッチしたままにする（高速アクセス）。

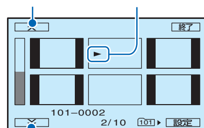
- テープは［ 変速再生］できます（62ページ）。

"メモリースティック　デュオ"の画像を一覧表示する（インデックス表示）

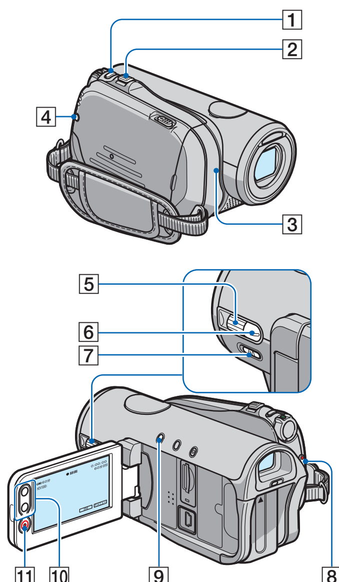
[▦] をタッチする。いずれかの画像をタッチすると1枚表示になる。

別フォルダの画像を見るときは、[▦] → [設定] →［再生フォルダ選択］をタッチし、[▲]/[▼] で選び [OK] をタッチする（58ページ）。

インデックス表示時の画面



撮る / 見るときに使う機能など

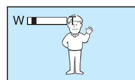


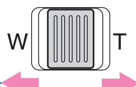
撮るとき

ズームする............................ 2 10

ズームレバー2を軽く動かすとゆっくり、さらに動かすと速くズームする。

広角：Wide（ワイド）







望遠：Telephoto（テレフォト）

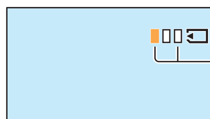
- 液晶画面の横のズームボタン10ではズームする速さを変えることはできません。
- ピント合わせに必要な被写体との距離は、広角は約1cm以上、望遠は約80cm以上です。
- 倍率が10倍を超えたときに、［デジタルズーム］（54ページ）できます。
- ズームレバーから指を離さずに操作してください。指を離すとズームレバーの操作音が記録されることがあります。

テープ撮影中に高画素の静止画を記録する（デュアル記録）............ 1 8 11

テープ撮影中に、"メモリースティック デュオ"に鮮明な画像を記録できる。

① スタート/ストップボタン8 11を押し、テープ撮影を開始する。

② フォトボタン 1 を深く押す。
1度のテープ撮影中に、最大3枚の静止画を記憶できる。

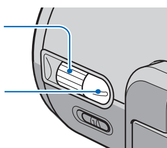


記憶枚数表示
記憶されるとオレンジ色に変わります。

③ スタート/ストップボタン8 11を押してテープ撮影を終了する。
記憶していた静止画が1枚ずつ表示され、"メモリースティック デュオ"に記録される。IIIIが消えると記録が完了する。

- 電源スイッチが「撮る－テープ」のときは、静止画の画像サイズは、HDV規格で撮影中は2.3Mで、DV規格で撮影中は1.7M（4:3）、または2.3M（16:9）で記録されます。
- デュアル記録したときは、テープ撮影を終了して"メモリースティック デュオ"への記録が完了するまで、本機から"メモリースティック デュオ"を抜かないでください。
- デュアル記録中は、フラッシュ撮影はできません。
- 撮影スタンバイ中は電源スイッチを「撮る－メモリー」にしたときと同様に、"メモリースティック デュオ"に静止画を記録できます。フラッシュ撮影も可能です。

ダイヤルで画像をマニュアル調節する（カメラコントロールダイヤル/マニュアルボタン）............................ 5 6



カメラコントロールダイヤル5に設定項目を割り当てて、手動でピントを合わせたり、一部のカメラ設定を調節する。詳しくは70ページをご覧ください。
再生時には、カメラコントロールダイヤルで音量調節を行うことができます（29ページ）。

- お買い上げ時は、[フォーカス]（52ページ）が割り当てられています。マニュアルボタンを押すと、自動設定（[オート]）から手動設定（[マニュアル]）に切り換わり、手動でピントを合わせることができます。

フラッシュを使う 4

（フラッシュ）ボタン4を繰り返し押して、お好みの設定を選ぶ。

表示なし（自動調節）：撮影状況により光量が足りないと判断した場合、自動的に発光する。

↓

**（強制発光）**：周囲の明るさに関係なく、常に発光する。

↓

（発光禁止）：常に発光しない。

- 内蔵フラッシュの推奨撮影距離は0.5m～2.5mです。
- フラッシュ表面に付着した汚れは取り除いて使ってください。光による熱で汚れが変色したり、貼り付くなどしてフラッシュが充分な量を発光できなくなることがあります。
- フラッシュランプはフラッシュ充電中に点滅し、充電が完了すると点灯に変わります。（電源スイッチが「撮る－テープ」のときで撮影スタンバイ中は、フラッシュ撮影に必要な充電をするため、少し時間がかかります）。
- テープ撮影中、フラッシュは使えません。
- 逆光時など明るい場所では、強制発光を行ってもフラッシュ効果が得られにくいことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）やフィルター（別売り）取り付け時は、フラッシュは発光しません。
- [フラッシュ設定]の[フラッシュレベル]で発光量を手動で変えたり、[赤目軽減]で目が赤く写るのを抑制したりできます（53ページ）。

暗い場所で撮る（NightShot）... 7

NIGHTSHOTスイッチ7を「入」にする。（ と[”NIGHTSHOT”]が表示される。）

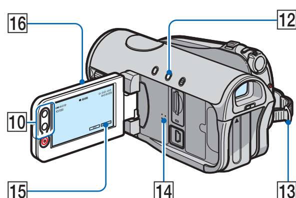
- さらに高感度で撮影するにはSuper NightShot（53ページ）、薄暗い場所でも明るくカラーで撮影するにはColor Slow Shutter（54ページ）が使えます。
- NightShotとSuper NightShotは赤外線を利用するため、赤外線発光部3を指などで覆わず、コンバージョンレンズ（別売り）は外してください。
- ピントが合いにくいときは、手動でピントを合わせてください（[フォーカス]、52ページ）。
- 明るい場所で使うと、故障の原因になります。

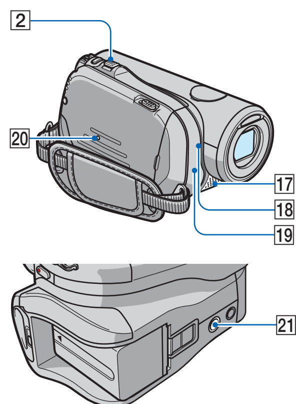
逆光を補正する 9

逆光補正ボタン9を押すと、が表示されて補正される。解除するには、もう1度押す。

- 電源を「切（充電）」にして12時間以上経つと、自動的にお買い上げ時の設定に戻ります。

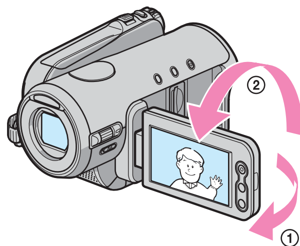
撮る/見る





自分撮り（対面撮影）する............... 16

液晶画面16を90°まで開き（①）、レンズ側に180°回す（②）。



- 液晶画面には、左右反転で映りますが、実際には左右正しく録画されます。

三脚を使って撮る 21

三脚（別売り、ネジの長さが5.5mm以下）を三脚用ネジ穴21に取り付ける。

ショルダーベルトを使う 13

ショルダーベルト（別売り）をショルダーベルト取り付け部13に取り付ける。

見るとき

再生ズームする........................ 2 10

画像を約1.1～5倍（静止画は約1.5～5倍）の範囲でズームできる。倍率はズームレバー2または液晶画面の横のズームボタン10で調整する。

① 拡大したい画像を表示する。
② T（望遠）で画像を拡大する。
③ 画面中央に表示したい部分をタッチする。
④ W（広角）/ T（望遠）で画像の大きさを調節する。

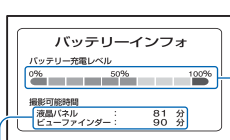
終了するには、［終了］をタッチする。

- 液晶画面の横のズームボタン10ではズームする速さを変えることはできません。

撮る/見る共通

バッテリーの残量を確認する（バッテリーインフォ）............................ 12

電源スイッチを「切（充電）」にしたあと、画面表示/バッテリーインフォボタン12を押すと、選択している録画フォーマットでの録画可能時間とバッテリーの情報が約7秒間表示される。情報が表示されている間に再度ボタンを押すと、最大20秒まで表示を延長できる。



操作音を消す（操作音）.................. 15

［操作音］（67ページ）で設定する。

お買い上げ時の設定に戻す（リセット）... 20

RESET（リセット）ボタン20を押すと、日時を含めすべての設定が解除される。
（パーソナルメニューに設定した内容は解除されません。）

その他の部分の名前とはたらき

14 スピーカー

再生時の音声が聞けます。

- 音量調節については、29ページをご覧ください。

17 内蔵ステレオマイク

- アクティブインターフェースシュー対応マイクをつないだときは、その音声が優先されます。

18 録画ランプ

録画時に赤く点灯します（67ページ）。
テープやバッテリーの残量が少なくなると点滅します。

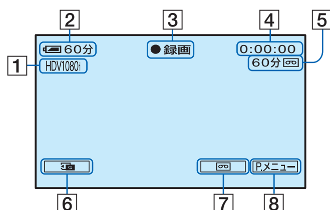
19 リモコン受光部

リモコン（38ページ）は、リモコン受光部に向けて操作します。

撮る／見るときの画面表示

( )内は参照ページ。
撮影中の画面表示は録画されません。

動画を撮影中



1 録画フォーマット（HDV1080iまたはDV）(64)

録画フォーマットがDVのときは、録画モード（SPまたはLP）も表示される。

2 バッテリー残量の目安

3 撮影状態（［スタンバイ］/［● 録画］）

4 撮影中：テープカウンター（時：分：秒）
再生中：タイムコード（時：分：秒：フレーム）

5 テープ残量の目安（67）

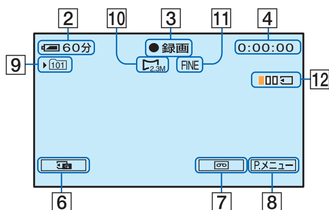
6 "メモリースティック デュオ"静止画レビューボタン（28）

"メモリースティック デュオ"が入っているときに表示されます。

7 エンドサーチ／レックレビュー画面切り換えボタン（37）

8 パーソナルメニューボタン（46）

静止画を同時撮影するとき（デュアル記録）



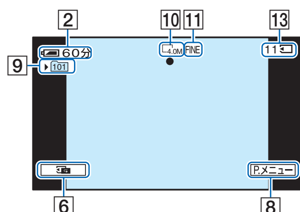
9 記録先のフォルダ（58）

10 画像サイズ（56）

11 画質（［FINE］または［STD］）（56）

12 記憶枚数表示（30）

静止画を撮影中

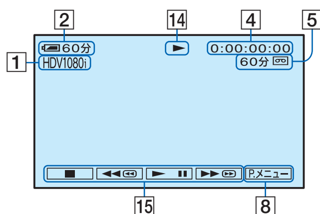


13 "メモリースティック デュオ"表示と記録可能なおよその枚数

撮影時のデータについて

撮影中の日付時刻と撮影条件を示したカメラデータが自動的に記録されます。これらのデータは、撮影中には表示されませんが、再生時に［日時/カメラデータ表示］として確認できます（66ページ）。

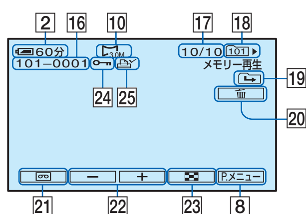
動画を再生中



14 テープ走行表示

15 ビデオ操作ボタン（29）

静止画を再生中



16 データファイル名

17 再生中の画像番号 / フォルダ内の合計枚数

18 再生フォルダ（58）

19 前後フォルダ表示

“メモリースティック　デュオ”内に複数のフォルダがあるとき、フォルダ内の最初/最後の画像になると表示される。

：［－］で前フォルダへ

：［＋］で次フォルダへ

：［－］/［＋］で前/次フォルダへ

20 画像消去ボタン（77）

21 テープ再生切り換えボタン（29）

22 前の画像 / 次の画像ボタン（29）

23 インデックス表示ボタン（29）

24 プロテクト（78）

25 プリントマーク（78）

撮る/見る

( )内は参照ページ。

設定を変更したときの表示

[表示ガイド]で、各表示の説明を液晶画面でも確認できます([表示ガイド]、19ページ)。

- 一部、[表示ガイド]で表示されないものがあります。

画面左上　画面右上

画面下　画面中央

画面左上

表示	意味
HDV1080i DV	録画フォーマット(64)
♪16b	音声モード(64)*
SP LP	録画モード(64)*
	セルフタイマー録画(54)
4:3	ワイド(16:9)切換(64)*
Q.REC	クイック録画(68)**
	インターバル静止画記録(61)
	フラッシュ(53)

画面右上

表示	意味
HDVIN DVIN	HDV入力/DV入力(76)
HDVOUT DVOUT	HDV出力/DV出力(41、74)
i.LINK	i.LINK接続(40、74、75)
→0←	ゼロセットメモリー(38)
	スライドショー(59)
	液晶バックライト 切(18)

画面中央

表示	意味
	Color Slow Shutter(54)
	PictBridge接続中(79)
	警告(105)
	NightShot(31)
S	Super NightShot(53)

画面下

表示	意味
AS	AEシフト(52)
WS	WBシフト(52)
	ピクチャーエフェクト(60)
	デジタルエフェクト(59)
	手動フォーカス(52)
	プログラムAE(50)
	シャープネス(51)
	逆光補正(31)
	ホワイトバランス(51)
	手ぶれ補正(55)
	ゼブラ(54)
	テレマクロ(53)
	カメラ色のこさ(52)
	コンバージョンレンズ(55)
	フレキシブルスポット測光(50)/カメラ明るさ(50)

* DV規格のときのみ設定できます。
** HDV規格のときのみ設定できます。

その他の表示

表示	意味
	お知らせメッセージ(106)

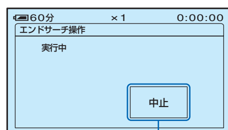
撮影を始めるテープ位置を頭出しする

電源スイッチを「撮る－テープ」にして操作してください（28ページ）。

最後に録画した場面を頭出しする（エンドサーチ）

カセットをいったん取り出すと、エンドサーチは働きません。

［テープ］→［→I］をタッチする。



中止するには
ここをタッチする

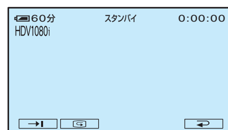
最後に録画した場面の約5秒間が再生され、録画終了した場面でスタンバイになる。

- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かない場合があります。
- メニューからも［エンドサーチ操作］できます。電源ランプの位置が「見る/編集」のときは、パーソナルメニュー（46ページ）にショートカットがあります。

テープを停止した場面を確認する（レックレビュー）

テープを停止させた場面を約2秒間再生し、確認できます。

［テープ］→［レックレビュー］をタッチする。

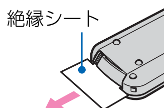


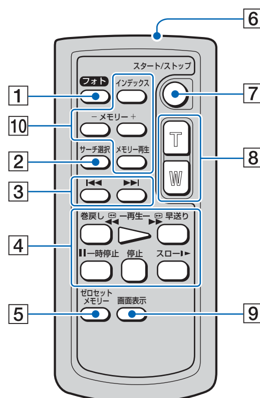
停止した部分が約2秒間再生され、スタンバイに戻る。

撮る/見る

リモコンで使う

絶縁シートを引き抜いてからリモコンを使ってください。





1 フォトボタン(28 ページ)
押したときの画像が静止画として"メモリースティック　デュオ"に記録されます。

2 サーチ選択ボタン(39 ページ)*

3 ⏮ ⏭ ボタン *

4 ビデオ操作ボタン(巻戻し、再生、早送り、一時停止、停止、スロー)
(29 ページ)

5 ゼロセットメモリーボタン *

6 リモコン発光部

7 スタート / ストップボタン
(24、28 ページ)

8 ズームボタン(30、32 ページ)

9 画面表示ボタン(19 ページ)

10 メモリー操作ボタン(インデックスボタン *、− / ＋ボタン、メモリー再生ボタン)(29 ページ)

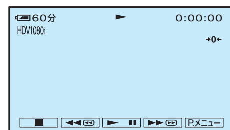
* シンプル操作中は働きません。

- 本体前面のリモコン受光部に向けて操作してください(33ページ)。
- 電池交換については、119ページをご覧ください。

見たい場面にすばやく戻す(ゼロセットメモリー)

1 再生中に後で頭出ししたい場面で、ゼロセットメモリーボタン5を押す。

テープカウンターが「0:00:00」になり、→0← が点灯する。



テープカウンターが表示されないときは、画面表示ボタン9を押す。

2 見終わったら、停止ボタン4を押す。

3 ◀◀巻戻しボタン4を押す。

「0:00:00」付近になると、自動的に停止する。

テープカウンターがタイムコード表示に戻り、ゼロセットメモリー表示が消える。

4 再生ボタン4を押す。

「0:00:00」の場面からもう1度再生する。

ゼロセットメモリーを解除するには

巻き戻す前に、ゼロセットメモリーボタン[5]をもう1度押す。

- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が生じることがあります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かないことがあります。

撮影日でテープを頭出しする（日付サーチ）

撮影日の変わり目を頭出しできます。

1 電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 サーチ選択ボタン[2]を押す。

3 ⏮（前の日付）/⏭（後の日付）ボタン[3]を押して頭出しする。



日付サーチを中止するには

停止ボタン[4]を押す。

- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かないことがあります。

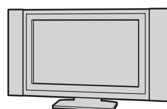
テレビにつないで見る

テレビの種類や接続する端子によって接続方法や再生される画質が異なります。
電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください（13ページ）。
また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

• はじめにシンプル操作を解除してください（26ページ）。

お使いのテレビの種類と付いている端子から、接続方法を選ぶ。

ハイビジョンテレビ

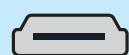


HD（ハイビジョン）画質*
• HDV規格で撮影した映像はそのままHDV（HD画質）で再生
• DV規格で撮影した映像はそのままDV（SD画質）で再生

コンポーネント（D端子）

音声端子

A
→ 41ページ

HDMI端子

B
→ 42ページ

i.LINK端子（HDV 1080i対応）

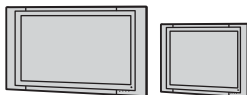
C
→ 42ページ

コンポーネント（ピン端子）

音声端子

D
→ 43ページ

ワイドテレビ/4:3テレビ



SD（標準）画質*
• HDV規格で撮影した映像をダウンコンバートして、DV（SD画質）で再生
• DV規格で撮影した映像はそのままDV（SD画質）で再生

コンポーネント（D端子）

音声端子

E
→ 43ページ

i.LINK端子

F
→ 44ページ

S（S1、S2）端子

映像音声端子

G
→ 44ページ

映像音声端子

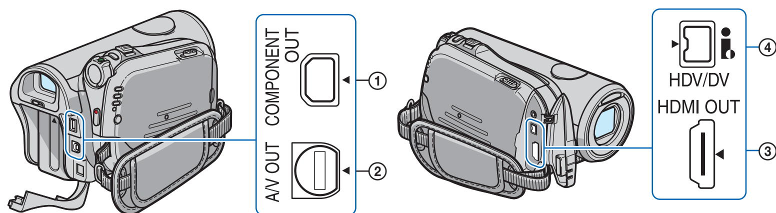
H
→ 44ページ

• 本機のメニュー設定は接続の前に行ってください。i.LINKケーブルにつないでから［ビデオ HDV/DV］や［i.LINK DV変換］の設定を変えると、テレビが映像信号を正しく認識できないことがあります。

* DV 規格で撮影した画像はどの接続でも SD（標準）画質で再生されます。

本機の端子について

端子カバーを開けて接続してください。



ハイビジョンテレビの接続方法

:信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定
A	①	D端子コンポーネントビデオケーブル(付属)	コンポーネント映像入力(D3/D4/D5)	基本設定 [ビデオ HDV/DV]→[オート](63ページ) [コンポーネント出力]→[D3](65ページ)
	②	AV接続ケーブル(付属)	(赤) (白) 音声 (黄)	

- D端子コンポーネントケーブルのみつないだ場合、音声は出力されません。音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子(赤と白)につないでください。

撮る/見る

:信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定
B	③	HDMIケーブル(別売り)	HDMI入力	基本設定 [ビデオ HDV/DV]→[オート](63ページ)

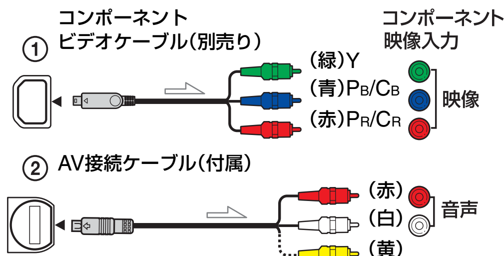
- **HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。**
- 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、HDMI出力端子から出力することはできません。
- i.LINKでDV入力された画像(75ページ)を出力することはできません。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。また、本機と接続機器の出力端子同士での接続はしないでください。故障の原因となります。

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定
C	④	i.LINKケーブル(別売り)	i.LINK	基本設定 [ビデオ HDV/DV]→[オート](63ページ) [i.LINK DV変換]→[切](65ページ)

- **テレビにはHDV1080i方式対応のi.LINK端子が必要です。詳しくはお使いのテレビの仕様をご確認ください。対応するソニー製機種の情報については、112ページまたは下記のURLをご覧ください。**
  http://www.sony.co.jp/cam/support
- お使いのテレビがHDV1080i方式に対応していない場合は、付属のD端子コンポーネントビデオケーブルとAV接続ケーブルで A の接続をしてください。
- テレビに本機を認識させるためにテレビ側の設定が必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

⇨ :信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定
D				基本設定 [ビデオ HDV/DV]→[オート](63ページ) [コンポーネント出力]→[D3](65ページ)



- コンポーネントケーブルのみつないだ場合、音声は出力されません。音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子(赤と白)につないでください。

ワイドテレビ/4:3テレビの接続方法

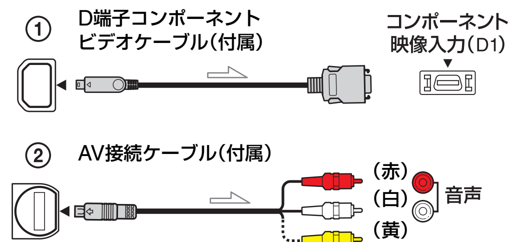
テレビ(ワイド/4:3)に合わせて画像の比率を変えるには

ご覧になるテレビに合わせて[TVタイプ]を変更してください(66ページ)。

- DV規格で記録したテープをワイド信号非対応の4:3テレビで再生する場合は、撮影時に[ワイド切換]を[4:3]に設定してから撮影してください(64ページ)。

⇨ :信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定
E				基本設定 [ビデオ HDV/DV]→[オート](63ページ) [コンポーネント出力]→[D1](65ページ) [TVタイプ]→[16:9]/[4:3]*(66ページ)



- D端子コンポーネントケーブルのみつないだ場合、音声は出力されません。音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子(赤と白)につないでください。

次のページへつづく➡

⇨：信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定
F	④	i.LINKケーブル（別売り）	i.LINK	基本設定 [ビデオ HDV/DV]→[オート]（63ページ） [i.LINK DV変換]→[入]（65ページ）
G	②	S映像ケーブル付きのAV接続ケーブル（別売り）	S（S1、S2）ビデオ、（赤）（白）音声、（黄）映像	基本設定 [ビデオ HDV/DV]→[オート]（63ページ） [TVタイプ]→[16:9]/[4:3]*（66ページ）
H	②	AV接続ケーブル（付属）	（赤）（白）音声、（黄）映像	基本設定 [ビデオ HDV/DV]→[オート]（63ページ） [TVタイプ]→[16:9]/[4:3]*（66ページ）

F
- テレビに本機を認識させるためにテレビ側の設定が必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

G
- S（S1、S2）映像端子のみつないだ場合、音声は出力されません。音声を出力するにはS映像ケーブル付きのAV接続ケーブルの白と赤のプラグも接続してください。
- AV接続ケーブル（接続 H ）に比べ、画像をより忠実に再現できます。
- 本機はS1映像端子対応のため、つなぐ端子がSまたはS2映像端子のときは画像が正しく表示されない場合があります。その場合、テレビの設定を変更することで改善されることがあります。テレビの取扱説明書もあわせてお読みください。

* お使いのテレビに合わせて設定してください。

- i.LINK以外の端子から画像を出力するときに、複数のケーブルでテレビをつないでいるときは、HDMI端子→コンポーネントビデオ端子→S（S1、S2）映像端子→映像/音声端子の順で優先されます。
- i.LINKについて詳しくは116ページをご覧ください。

HDMI (High Definition Multimedia Interface)とは

テレビ接続機器のデジタル映像/音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI端子とテレビを1本のケーブルで接続することで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。

ビデオ経由でテレビにつなぐには

ビデオの入力端子によって72ページで接続方法を選ぶ。ビデオの外部入力端子につなぎ、ビデオに入力切り換えスイッチがある場合は「外部入力」(ビデオ1、ビデオ2など)に切り換える。

モノラルテレビ(音声端子がひとつ)のときは

AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ(左音声)か赤いプラグ(右音声)のどちらかを音声入力へつなぐ。モノラル音声で聞くときは、市販の接続ケーブルを使ってください。

メニューの使いかた

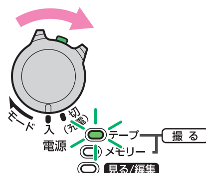
このページ以降のメニューは、下記の方法で操作してください。

1 電源スイッチを矢印の方向に繰り返しずらして、使用するモードのランプを点灯させる。

「撮る－テープ」ランプ：テープの設定

「撮る－メモリー」ランプ：
“メモリースティック　デュオ”の設定

「見る/編集」ランプ：見る/編集の設定



2 液晶画面をタッチして、項目を設定する。

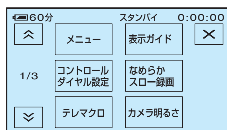
灰色に表示されるメニューは、使用できません。

■ パーソナルメニューのショートカットを使うときは

パーソナルメニューには、よく使うメニューへのショートカットが登録されています。

- パーソナルメニューはお好みの設定に変更できます（69ページ）。

① [P.メニュー] をタッチ。



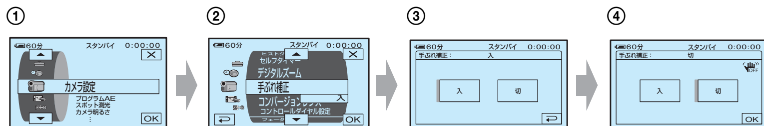
② 希望の項目をタッチ。
画面にないときは、[⌃]/[⌄] をタッチして表示させる。

③ 希望の設定にして、[OK] をタッチ。

■ メニューを使うときは

パーソナルメニューに登録されていないメニュー項目も設定できます。

① ② ③ ④



① [P.メニュー] →［メニュー］の順にタッチ。
メニューインデックス画面が表示される。

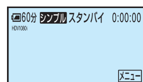
② 設定するメニューを選ぶ。
[▲]/[▼]をタッチして選び、[OK]をタッチして決定する。（手順③も同様の操作です。）

③ 設定する項目を選ぶ。
- 設定する項目をタッチしても選べます。

④ 希望の設定にする。
設定し終わったら、[OK]→[×]（閉じる）の順にタッチして、メニュー画面を消す。
設定を変更しないで戻るときは、[↩]をタッチ。

■ シンプル操作中にメニューを使うときは

シンプル操作中は[P.メニュー]は表示されません（26ページ）。



① [メニュー]をタッチ。
設定可能なメニューが表示される。

② 設定するメニューをタッチ。

③ 希望の設定にする。
設定し終わったら、[OK]をタッチ。
設定を変更しないで戻るときは、[↩]をタッチ。
- 通常のメニュー操作をするには、シンプル操作を解除する（26ページ）。

- カメラコントロールダイヤルでの設定については70ページをご覧ください。

メニュー一覧

ランプの点灯位置によって、使用可能(●)メニューが異なります。
シンプル操作時は、下記の設定に自動設定されます(24ページ)。

	テープ	メモリー	見る/編集	シンプル操作時
カメラ設定メニュー(50ページ)				
プログラムAE	●	●	–	オート
スポット測光	●	●	–	–
カメラ明るさ	●	●	–	オート
ホワイトバランス	●	●	–	オート
シャープネス	●	●	–	–
オートシャッター	●	–	–	入
AEシフト	●	●	–	切
カメラ色のこさ	●	●	–	–
WBシフト	●	●	–	–
スポットフォーカス	●	●	–	オート
フォーカス	●	●	–	オート
テレマクロ	●	●	–	切
フラッシュ設定	●	●	–	⚡*/切
SUPER NS	●	–	–	切
NS ライト	●	●	–	入
COLOR SLOW S	●	●	–	切
ゼブラ	●	●	–	切
ヒストグラム	●	●	–	切
セルフタイマー	●	●	–	●**
デジタルズーム	●	–	–	切
手ぶれ補正	●	–	–	入
コンバージョンレンズ	●	–	–	–*
コントロールダイヤル設定	●	●	–	–
メモリー設定メニュー(56ページ)				
静止画設定	–	●	●	ファイン/●*
全消去	–	–	●	●
フォーマット	–	●	●	–
ファイルナンバー	–	●	●	–*
フォルダ作成	–	●	●	–
記録フォルダ選択	–	●	●	–*
再生フォルダ選択	–	–	●	–*
ピクチャーアプリメニュー(59ページ)				
フェーダー	●	–	–	切
スライドショー	–	–	●	–
デジタルエフェクト	●	–	●	切
ピクチャーエフェクト	●	–	●	切
インターバル静止画記録	–	●	–	切
なめらかスロー録画	●	–	–	–
PictBridge プリント	–	–	●	–

* シンプル操作前の設定値が保持されます。
** 「撮る－テープ」のときは使えません。

	テープ	メモリー	見る/編集	シンプル操作時
USB機能選択	–	–	●	–
デモモード	●	–	–	入
編集/変速再生メニュー(62ページ)				
変速再生	–	–	●	–
録画操作	–	–	●	–
DVD作成	–	–	●	–
エンドサーチ操作	●	–	●	–
基本設定メニュー(63ページ)				
ビデオ HDV/DV	–	–	●	オート
録画フォーマット	●	–	–	●*
DV設定DV	●	–	●	SP*/16:9 ワイド*/ ♪16b */–*
音量	–	–	●	●*
バイリンガル	–	–	●	切
パネル･VF設定	●	●	●	–/ノーマル/ – / ノーマル
コンポーネント出力	●	●	●	D3*
i.LINK DV変換	●	–	●	切*
TVタイプ	●	●	●	16:9*
表示ガイド	●	●	●	●
ステータスチェック	●	–	●	–
ガイドフレーム	●	●	–	切
日時/カメラデータ表示	–	–	●	●
残量表示	●	–	●	オート
リモコン	●	●	●	入
録画ランプ	●	●	–	入
操作音	●	●	●	●*
画面表示出力	●	●	●	パネル
メニュー操作方向	●	●	●	ノーマル*
自動電源オフ	●	●	●	5分後
キャリブレーション	–	–	●	–
クイック録画HDV1080i	●	–	–	切
時間設定メニュー(68ページ)				
日時あわせ	●	●	●	●*
時差補正	●	●	●	–*

カメラ設定メニュー

撮影状況に合わせるための設定（カメラ明るさ/ホワイトバランス/手ぶれ補正など）

▶は、お買い上げ時の設定。
（　）内の表示が画面に出ます。
操作方法は46ページをご覧ください。

プログラム AE

場面に合わせて、効果的な画像で撮影できます。

▶オート
プログラムAEを使わずに、自動的に効果的な画像になる。

スポットライト*（ ）
スポットライトを浴びている人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぐ。



ソフトポートレート（ ）
背景をぼかして、前にいる人物や花などをソフトに引き立る。



ビーチ&スキー*（ ）
照り返しの強い砂浜やゲレンデで、人物が陰にならなくする。



サンセット&ムーン（ ）**
夕焼けや夜景、花火などを雰囲気たっぷりに表現する。



風景（ ）**
遠景まではっきり撮影できる。ガラスや金網越しに撮るときも、向こうの被写体にピントが合うようになる。

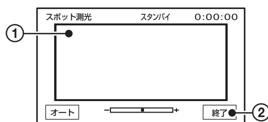


* 近くのものにピントが合わないように設定されます。
** 遠景のみにピントが合うように設定されます。

- 電源を「切（充電）」にして12時間以上経つと、自動的に［オート］に戻ります。

スポット測光（フレキシブルスポット測光）

被写体が最適な明るさで映るように画面全体の明るさを調節し、固定できます。舞台上の人物の撮影など、被写体と背景のコントラストが強いときに使います。



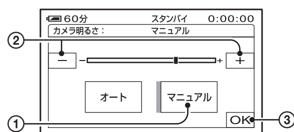
① 画面枠内の明るさを調節したいポイントをタッチ。
　 が表示される。
② ［終了］をタッチ。

自動調節に戻すには、［オート］→［終了］をタッチ。

- フレキシブルスポット測光中は、［カメラ明るさ］は自動的に［マニュアル］になります。
- 電源を「切（充電）」にして12時間以上経つと、自動的に［オート］に戻ります。

カメラ明るさ

画像の明るさを手動で固定できます。例えば、日中の屋内撮影時に壁側で明るさを固定すれば、窓際の人物が逆光で暗く映るのを防げます。



① [マニュアル]をタッチ。
-▭+ が表示される。
② [－]/[＋]で明るさ調節。
③ [OK]をタッチ。

自動調節に戻すには、[オート]→[OK]をタッチ。

- カメラコントロールダイヤルで、手動で設定を調節することもできます（70ページ）。
- 電源を「切（充電）」にして12時間以上経つと、自動的に[オート]に戻ります。

ホワイトバランス

撮影する場面に合わせて色合いを調節できます。

▶オート
自動調節されます。

屋外（☀）
次の撮影環境に合った色合いになる。
– 屋外
– 夜景やネオン、花火など
– 日の出、日没など
– 昼光色蛍光灯の下

屋内（☼）
次の撮影環境に合った色合いになる。
– 屋内
– パーティー会場やスタジオなど照明条件が変化する場所
– スタジオなどのビデオライトの下、ナトリウムランプや電球色蛍光灯の下

ワンプッシュ（◭）
光源に合わせてホワイトバランスを固定する。
① [ワンプッシュ]をタッチ。
② 被写体を照らす照明条件と同じところに白い紙などを置き、画面いっぱいに映す。
③ [◭]をタッチ。
◭が速い点滅に変わり、ホワイトバランスが調節される。終わると点灯に変わる。
- ◭の速い点滅中は、本機に強い衝撃を与えないでください。
- ◭の遅い点滅は、設定できなかった場合を表します。
- [OK]をタッチ後も◭が点滅するときは、[オート]にしてください。

- [オート]でバッテリーを交換したときや、[カメラ明るさ]設定時に屋内外を移動したときは、白っぽい被写体に向けて[オート]で約10秒間撮影すると、より良い色合いになります。
- [ワンプッシュ]設定中に、[プログラムAE]の効果を変えたり、屋外と屋内を行き来したりしたときは、再び[ワンプッシュ]の手順を行ってください。
- 白色や昼白色の蛍光灯下では、[オート]または[ワンプッシュ]にしてください。
- 電源を「切（充電）」にして12時間以上経つと、自動的に[オート]に戻ります。

シャープネス

[－]/[＋]で画像輪郭をやわらかくするか、くっきりさせるかを調節して撮影できます。お買い上げ時の設定以外にすると、◨が表示されます。



やわらかな画像に　　くっきりした画像に

オートシャッター

[入]（お買い上げ時の設定）のとき、明るい場所では電気的にシャッタースピードを調節して撮影します。

メニューで設定を変更する

AE シフト

[−]（暗く）/[＋]（明るく）で露出をお好みに合わせて調節できます。お買い上げの設定以外にすると、AS と設定した数値が表示されます。

- 白い被写体や逆光のときは[＋]、黒い被写体や暗い場所のときは[−]をタッチすることをおすすめします。
- ［カメラ明るさ］が［オート］のときに使うと、明るさを明るめ/暗めに設定できます。
- カメラコントロールダイヤルで、手動で設定を調節することもできます（70ページ）。

カメラ色のこさ

[−]/[＋]で画像の色の濃淡をお好みに合わせて調節できます。お買い上げの設定以外にすると、が表示されます。



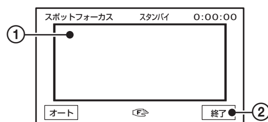
WB シフト（ホワイトバランスシフト）

[−]/[＋]でホワイトバランスをお好みに合わせて調節できます。お買い上げの設定以外にすると、WS と設定した数値が表示されます。

- 数値を下げると画像が青味がかり、数値を上げると赤味がかります。
- カメラコントロールダイヤルで、手動で設定を調節することもできます（70ページ）。

スポットフォーカス

画面中央から外れた被写体を基準にして、ピントを合わせられます。



① 画面枠内の被写体にタッチ。
が表示される。

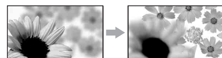
② ［終了］をタッチ。

自動ピント合わせに戻すには、手順①で［オート］→［終了］をタッチ。

- スポットフォーカス中は、［フォーカス］が自動的に［マニュアル］になります。
- 電源を「切（充電）」にして12時間以上経つと、自動的に［オート］に戻ります。

フォーカス

手動でピントを合わせられます。ピントを合わせる被写体を意図的に変えるときにも使えます。



① ［マニュアル］をタッチ。
が表示される。

② [←]（近くにピント合わせ）/[→]（遠くにピント合わせ）をタッチしてピント調節。それ以上近くにピントを合わせられないときは が、それ以上遠くにピントを合わせられないときは が表示される。

③ [OK]をタッチ。

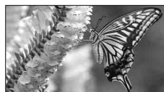
自動ピント合わせに戻すには、手順①で［オート］→[OK]をタッチ。

- ピントは、始めにズームをT側（望遠）でピントを合わせてから、W側（広角）に戻してゆくと合わせやすくなります。接写時は、逆にズームをW側（広角）いっぱいにしてピントを合わせます。
- ピント合わせに必要な被写体との距離は、広角は約1cm以上、望遠は約80cm以上です。

- 電源を「切（充電）」にして12時間以上経つと、自動的に[オート]に戻ります。
- カメラコントロールダイヤルでも手動でピントを合わせることができます（70ページ）。

テレマクロ

背景をぼかして、被写体をより際立たせることができます。花や昆虫など小さいものを撮るときに便利です。
[入]（T🌷）にするとズーム（30ページ）が自動で望遠（T側）になり、約37cmまでの近接撮影ができます。



解除するには、[切]をタッチ。またはズームを広角（W側）にする。

- 被写体が遠いときはピントが合いにくく、ピントが合うまでに時間がかかる場合があります。
- ピントが合いにくいときは、手動でピントを合わせてください（[フォーカス]、52ページ）。

フラッシュ設定

本機の内蔵フラッシュ、または本機に対応している外付けフラッシュ（別売り）をお使いのとき設定できます。

■ フラッシュレベル

明るい（⚡+）
発光量が増える。

▶ノーマル（⚡）

暗い（⚡−）
発光量が減る。

■ 赤目軽減

撮影前に予備発光して、目が赤く光るのを抑制します。

[入]に設定して⚡（フラッシュ）ボタン（31ページ）を繰り返し押し、お好みの設定を選びます。

（自動赤目軽減）：自動でフラッシュ撮影するときのみ、予備発光し、撮影時に発光する。
↓
 ⚡（強制赤目軽減）：常に予備発光し、撮影時に発光する。
↓
（発光禁止）：常に発光しない。

- 赤目軽減で撮影しても、効果が現れにくいことがあります。

SUPER NS（Super NightShot）

あらかじめ、NIGHTSHOTスイッチ（31ページ）を「入」にした状態で、[入]に設定すると、暗い場所でNightshotの最大16倍の感度で撮影できます。
S◉と["SUPER NIGHTSHOT"]が表示されます。

解除するには、[切]をタッチ。またはNIGHTSHOTスイッチを「切」にする。

- 明るい場所で使うと、故障の原因になります。
- 赤外線発光部を指などで覆わないでください（31ページ）。
- コンバージョンレンズ（別売り）は外してください。
- ピントが合いにくいときは、手動でピントを合わせてください（[フォーカス]、52ページ）。
- シャッタースピードが明るさによって変わり、画像の動きが遅くなることがあります。

NS ライト（NightShot ライト）

[入]（お買い上げ時の設定）のとき、NightShot（31ページ）と[SUPER NS]（53ページ）撮影時に、赤外線（不可視）を発光する[NSライト]で、よりはっきりした画像を撮影できます。

次のページへつづく➡

- 赤外線発光部を指などで覆わないでください(31ページ)。
- コンバージョンレンズ(別売り)は外してください。
- ライトが届く範囲は約3メートルです。

COLOR SLOW S (Color Slow Shutter)

[入]に設定すると、薄暗い場所でも明るくカラーで撮影できます。
と[COLOR SLOW SHUTTER]が表示されます。

解除するには、[切]をタッチ。

- ピントが合いにくいときは、手動でピント合わせしてください([フォーカス]、52ページ)。
- シャッタースピードが明るさによって変わり、画像の動きが遅くなることがあります。

ゼブラ

画面に映る画像の中で、設定した輝度レベル部分にしま模様が表示されます。明るさを調節するときの目安にすると便利です。お買い上げ時の設定以外にすると、が表示されます。ゼブラは記録されません。

▶切
表示しない。

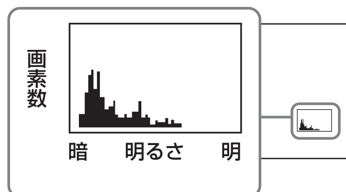
70
輝度レベルが約70IREの部分に表示

100
輝度レベルが約100IRE以上の部分に表示

- 100IRE以上の部分は白とびすることがあります。
- IREとは輝度の単位です。

ヒストグラム

[入]に設定すると、ヒストグラム(画像の明るさの分布を表した図(グラフ))が表示されます。明るさを調節するときの目安にすると便利です。ヒストグラムを見ながら、[カメラ明るさ]や[AEシフト]を調節することができます。テープや"メモリースティック　デュオ"にヒストグラムは記録されません。



- グラフの左側は画面の暗い部分、右側は明るい部分を示します。

セルフタイマー

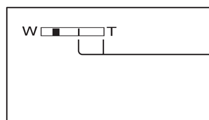
約10秒後に撮影を開始できます。

[入]でが表示されている状態で、動画のときはスタート/ストップボタン、静止画のときはフォトボタンを押す。
秒読みを停止するには[リセット]をタッチ。
解除するには、[切]をタッチ。

- リモコンのスタート/ストップボタンまたはフォトボタンでも操作できます(38ページ)。

デジタルズーム

テープ撮影時に、10倍光学ズーム(お買い上げ時の設定)を超えてデジタルズームになったときの最大倍率を設定します。デジタル処理のため画質は劣化します。



ラインよりT側がデジタルズームになります。倍率を選ぶと表示されます。

▶切
10倍光学ズームのみ

20×
10倍光学ズーム～最大20倍までのデジタルズーム

80×
10倍光学ズーム～最大80倍までのデジタルズーム

手ぶれ補正

お買い上げ時の設定は[入]のため、手ぶれ補正を使って撮影できます。三脚（別売り）を利用するときは、[切]（ ）にすると自然な画像になります。

コンバージョンレンズ

コンバージョンレンズ（別売り）を使用するときに設定すると、それぞれのレンズに最適な手ぶれ補正を使って撮影できます。

▶切
コンバージョンレンズ（別売り）を使用しない。

ワイドコンバージョン（ ）
ワイドコンバージョンレンズ（別売り）を使用する。

テレコンバージョン（ ）
テレコンバージョンレンズ（別売り）を使用する。

コントロールダイヤル設定

カメラコントロールダイヤルに設定項目を割り当てると、割り当てた項目を手動で調節することができます。

▶フォーカス
[フォーカス]（52ページ）を割り当てます。

カメラ明るさ
[カメラ明るさ]（50ページ）を割り当てます。

AEシフト
[AEシフト]（52ページ）を割り当てます。

WBシフト
[WBシフト]（52ページ）を割り当てます。

- カメラコントロールダイヤルについては、70ページをご覧ください。

メモリー設定メニュー

"メモリースティック　デュオ"に関する設定(画質/画像サイズ/全消去/フォルダ作成など)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は46ページをご覧ください。

静止画設定

■ 画質

▶ファイン(FINE)
高画質で記録する。

スタンダード(STD)
標準の画質で記録する。

- シンプル操作中は[ファイン]に設定されます。

■ 画像サイズ

▶4.0M(4.0M)
鮮明な画像を撮影する。

3.0M(3.0M)
鮮明な画像をワイド(16:9)で撮影する。

1.9M(1.9M)
比較的きれいな画像をたくさん撮影する。

VGA(0.3M)(VGA)
たくさんの枚数を撮影する。

- 電源スイッチが「撮る－メモリー」のときのみ設定できます。
- ワイド(16:9)で撮影した静止画をお店でプリントするときは、注文時に「ハイビジョンサイズ」とご指定ください。ご指定がない場合、画像の左右が切れてプリントされます。

"メモリースティック　デュオ"の容量(MB)と撮影可能枚数(枚)

電源スイッチが「撮る－メモリー」のとき

	4.0M 2304×1728 4.0M	3.0M 2304×1296 3.0M	1.9M 1600×1200 1.9M	VGA 640×480 VGA
16MB	7	10	16	96
	18	24	37	240
32MB	15	20	32	190
	37	48	75	485
64MB	31	41	65	390
	75	98	150	980
128MB	63	83	130	780
	150	195	300	1970
256MB	110	150	235	1400
	270	355	540	3550
512MB	230	305	480	2850
	550	720	1100	7200
1GB	475	620	980	5900
	1100	1450	2250	14500
2GB	970	1250	2000	12000
	2300	3000	4650	30000

- それぞれの数値は次の設定によるものです。
上段は画質が[ファイン]のとき
下段は画質が[スタンダード]のとき
- ソニー製"メモリースティック　デュオ"使用時。枚数は、撮影環境によって変わります。

電源スイッチが「撮る－テープ」のとき*

	2.3M 2016×1134 2.3M	1.7M 1512×1134 1.7M
16MB	13	17
	32	40
32MB	27	36
	65	85
64MB	54	72
	130	170
128MB	105	145
	260	340
256MB	195	260
	470	590
512MB	400	530
	960	1200
1GB	820	1050
	1950	2450
2GB	1650	2200
	4000	5000

* 画像サイズは撮影画像が HDV 規格、または DV 規格(16:9)のときは 2.3M、DV 規格(4:3)のときは 1.7M に固定されます。

- それぞれの数値は次の設定によるものです。
  上段は画質が[ファイン]のとき
  下段は画質が[スタンダード]のとき
- ソニー製"メモリースティック　デュオ"使用時。枚数は、撮影環境によって変わります。

電源スイッチが「見る/編集」のとき*

	1.2M 1440×810 1.2M	VGA 640×480 VGA	0.2M 640×360 0.2M
16MB	25	96	115
	60	240	240
32MB	51	190	240
	120	485	485
64MB	100	390	490
	240	980	980
128MB	205	780	980
	490	1970	1970
256MB	370	1400	1750
	890	3550	3550
512MB	760	2850	3600
	1800	7200	7200
1GB	1550	5900	7300
	3650	14500	14500
2GB	3150	12000	15000
	7500	30000	30000

* 画像サイズは再生画像が HDV 規格のときは 1.2M、DV 規格(16:9)のときは 0.2M、DV 規格(4:3)のときは VGA(0.3M)に固定されます。

- それぞれの数値は次の設定によるものです。
  上段は画質が[ファイン]のとき
  下段は画質が[スタンダード]のとき
- ソニー製"メモリースティック　デュオ"使用時。枚数は、撮影環境によって変わります。

画像1枚のおよその容量(kB)

4:3のとき

4.0M	1.9M	1.7M	VGA
1980	960	860	150
830	420	370	60

ワイド(16:9)のとき

3.0M	2.3M	1.2M	0.2M
1500	1150	610	130
640	480	260	60

- それぞれの数値は次の設定によるものです。
  上段は画質が[ファイン]のとき
  下段は画質が[スタンダード]のとき

全消去

プロテクトのかかっていない“メモリースティック　デュオ”内または選択フォルダ内の全画像を消します。

① [全ファイル]か[フォルダ内]を選ぶ。
  [全ファイル]：“メモリースティック　デュオ”内のすべての画像を消去。
  [フォルダ内]：選択しているフォルダ内のすべての画像を消去。
② [はい]を2回→[X]をタッチ。

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック　デュオ”は、誤消去防止を解除する（113ページ）。
- 全消去しても、フォルダは消去されません。
- [全消去中です]が表示されているとき、次の操作はしないでください。
  – 電源スイッチ/ボタン操作
  – “メモリースティック　デュオ”の取り出し

フォーマット

“メモリースティック　デュオ”はお買い上げ時にフォーマット済みのため、フォーマットする必要はありません。

フォーマットを実行するには、[はい]を2回→[X]をタッチ。
フォーマットされて、すべての画像が消去されます。

- [フォーマット中です]が表示されているとき、次の操作はしないでください。
  – 電源スイッチ/ボタン操作
  – “メモリースティック　デュオ”の取り出し
- 新しく作成したフォルダやプロテクトのかかっている画像もすべて消去されます。

ファイルナンバー

▶連番
“メモリースティック　デュオ”を取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。フォルダを新しく作成、または記録先フォルダを変更した場合はリセットされる。

リセット
“メモリースティック　デュオ”ごとに、ファイル番号を0001から付ける。

フォルダ作成

“メモリースティック　デュオ”内に、新フォルダ（102MSDCF～999MSDCFまで）を作成できます。1つのフォルダが9,999枚になると、自動的に新フォルダを作成します。

[はい]→[X]をタッチ。

- 1度作成した新フォルダは、本機で削除できません。“メモリースティック　デュオ”をフォーマットするか（58ページ）、パソコンなどで削除してください。
- フォルダが増えると、“メモリースティック　デュオ”の残量が減ることもあります。

記録フォルダ選択

[▼]/[▲]で記録するフォルダを選んで[OK]をタッチ。

- お買い上げ時の設定では、ファイルは「101MSDCF」に記録されます。
- いったん画像を記録すると、そのとき選ばれている記録先フォルダが、再生フォルダに設定されます。

再生フォルダ選択

[▼]/[▲]で再生するフォルダを選んで[OK]をタッチ。

ピクチャーアプリメニュー

画像への特殊効果追加や、応用的な撮影/再生機能（スライドショー/ピクチャーエフェクト/なめらかスロー録画など）

▶は、お買い上げ時の設定。
（　）内の表示が画面に出ます。
操作方法は46ページをご覧ください。

フェーダー

場面間に、効果を入れながら、つなぎ撮りできます。

① スタンバイ中（フェードインのとき）または録画中（フェードアウトのとき）に使いたい効果を選んで、OK をタッチ。
② スタート/ストップボタンを押す。
フェーダー表示が点灯に変わり、終了後消える。

操作開始前に解除するには①で［切］をタッチ。
1度スタート/ストップボタンを押すと、設定は解除されます。



フェードアウト　　フェードイン

ホワイトフェーダー



ブラックフェーダー



モザイクフェーダー



モノトーンフェーダー

フェードイン時は白黒→カラーに、フェードアウト時はカラー→白黒になる。

スライドショー

“メモリースティック　デュオ”内の全画像、またはフォルダ内の全画像を自動再生（スライドショー）できます。

① 設定 →［再生フォルダ選択］をタッチ。
② ［全ファイル（all）］か［フォルダ内（1）］を選び、OK をタッチ。
［フォルダ内（1）］を選ぶと、［再生フォルダ選択］（58ページ）で選んだフォルダ内の画像を自動再生する。
③ ［繰り返し設定］をタッチ。
④ ［入］または［切］を選び、OK をタッチ。
［入］（↻）に設定すると、スライドショーを繰り返し、［切］に設定すると、スライドショーを1度だけで終了する。
⑤ ［終了］→［スタート］をタッチ。

中止するには［終了］を、一時停止するには［ポーズ］をタッチ。

［スタート］をタッチする前に、－ / ＋ でスライドショーを始める画像を選べます。

デジタルエフェクト

演出を加えて画像を撮影したり、見たりできます。

① 設定する効果を選ぶ。
［スチル］では、選択された画像が静止画として記憶される。
② － / ＋ で効果を調節して OK をタッチ。

効果	調節内容
シネマチックエフェクト*	調整不要
スチル	背景の静止画の写り具合
フラッシュ	フラッシュの間隔
トレイル	残像時間

メニューで設定を変更する

効果	調節内容
スローシャッター*	シャッタースピード(1は1/30、2は1/15、3は1/8、4は1/4)
オールドムービー*	調節不要

* テープ撮影時のみ使えます。

③ OK をタッチ。
D✦ が表示される。

解除するには手順①で[切]をタッチ。

▶切
デジタルエフェクトを使わない。

シネマチックエフェクト
画質を調整し、映画のように撮影する。

スチル
記憶済みの静止画に、動画を重ねて撮影する。



フラッシュ(フラッシュモーション)
コマ送り撮影をする。

トレイル
残像が尾を引くように撮影する。

スローシャッター
シャッタースピードが遅くなる。暗い場所での撮影向き。
- 自動でピントが合いにくいため、三脚などに固定して、手動でピントを合わせてください([フォーカス]、52ページ)。

オールドムービー
昔の映画のようなセピア色の画像にする。

- [シネマチックエフェクト]を設定してテープ記録している間は、他のデジタルエフェクトに切り換えられません。
- 効果を加えて再生している画像を本機でテープに記録することはできません。
- 外部入力している画像に、効果を加えることはできません。また、再生画像にデジタルエフェクトを加えても i HDV/DV端子(i.LINK)からは出力されません。
- 効果を加えた画像を、"メモリースティック デュオ"に取り込んだり(77ページ)、他のビデオ/DVD機器などに録画したり(72ページ)できます。
- [デジタルエフェクト]中は "メモリースティック デュオ"静止画レビューボタン は使えません。

ピクチャーエフェクト

特殊効果を加えて撮影したり、見たりできます。P✦ が表示されます。

▶切
ピクチャーエフェクトを使わない。

ソフトスキントーン*
肌をなめらかに美しく見せます。

ネガアート
ネガフィルムのような画像。



セピア
古い写真のような画像。

モノトーン
白黒の画像。

ソラリ
明暗がはっきりして、イラストのような画像。



パステル*
淡い色の画像。



モザイク*
タイルを組み合わせたような画像。

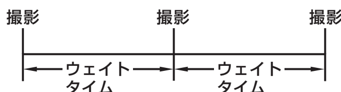


* テープ撮影時のみ設定できます。

- 外部入力している画像に効果追加はできません。また、再生画像にピクチャーエフェクトを加えても HDV/DV端子(i.LINK)からは出力されません。
- 効果を加えた画像を、"メモリースティック デュオ"に取り込んだり(77ページ)、他のビデオ/DVD機器などに録画したり(72ページ)できます。

インターバル静止画記録

一定時間ごとに"メモリースティック デュオ"へ静止画を記録します。雲の動きや日照変化などを定点観測撮影時に便利です。



① [設定]→希望のウェイトタイム(1分、5分、10分)→[OK]→[入]→[OK]→[X]をタッチ。
② フォトボタンを深く押す。
が点滅から点灯に変わり、インターバル静止画記録が始まる。

解除するには①で[切]にする。

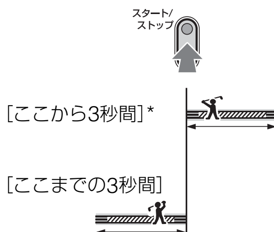
なめらかスロー録画

通常撮影では見ることができない高速な動作、現象を、なめらかなスローモーション映像として撮影します。ゴルフ、テニスなどの速い動きの撮影時に便利です。

[なめらかスロー録画]画面で、スタート/ストップボタンを押す。

約3秒間の録画が、約12秒間のスローモーション映像として記録されます。[テープに録画中]が消えると記録が完了します。

[設定]をタッチすると、スタート/ストップボタンを押して記録を開始するタイミングを下記の設定から選択できます。



* お買い上げ時の設定は[ここから 3 秒間]です。
- 音声は記録されません。

解除するには[終了]をタッチ。

PictBridge プリント

79ページをご覧ください。

USB 機能選択

USBケーブルで本機とパソコンをつないで、パソコンの画像を見たり(82ページ)、PictBridge対応のプリンターと接続する(79ページ)ときに使います。

▶**パソコン接続メモリースティック**
"メモリースティック デュオ"に記録した画像をパソコンで見たり、パソコンに取り込むときに選択します。

PictBridge プリント
本機とPictBridge対応のプリンターを直接つないで、プリントするときに選択します(79ページ)。

デモモード

お買い上げ時の設定は[入]のため、カセットと“メモリースティック　デュオ”両方を取り出し、電源スイッチを「撮る－テープ」にすると約10分後に本機の機能のデモンストレーションを見ることができます。

- 次のいずれかを行うと、デモンストレーションを中断できます。
  - デモンストレーション中に画面をタッチ（約10分後に再開します）。
  - カセットか“メモリースティック　デュオ”を入れる。
  - 電源スイッチを「撮る－テープ」以外にする。

編集/変速再生メニュー

編集/変速再生の設定（変速再生/エンドサーチ操作など）

▶は、お買い上げ時の設定。
（　）内の表示が画面に出ます。
操作方法は46ページをご覧ください。

変速再生

テープの動画再生時に変速再生できます。

① 再生中に、下記のボタンをタッチ。

再生方法	タッチするボタン
逆方向に再生*	◀II< （コマ送り）
スロー再生**	スロー I▶ 逆方向には： ◀II< （コマ送り）→ スロー I▶
コマ送り	一時停止中に >II▶ （コマ送り） 逆方向へはコマ送り中に：◀II< （コマ送り）

* 画面上下や中央に横じまが入ることがありますが、故障ではありません。
** i HDV/DV端子（i.LINK）から出力される画像は、なめらかにスロー再生されません。

② ↩ → ✕ をタッチ。

通常再生に戻すには、▶ II （再生/一時停止）を2回タッチ（「コマ送り」は1回）。

- 音声は出ません。また、映像がモザイク状に残ることがあります。
- HDV規格の場合、一時停止や変速再生している映像を i HDV/DV端子（i.LINK）から出力することはできません。
- HDV規格のテープでは、次のとき画面が乱れます。
  - ピクチャーサーチ中
  - 逆方向再生中
- HDV規格では、逆方向へのスロー再生、逆方向へのコマ送りはできません。

録画操作

75ページをご覧ください。

DVD 作成

本機をソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズに接続すると、テープに録画した画像を簡単にDVDに書き込むことができます(おまかせ「Click to DVD」)(87ページ)。

- DVDに取り込まれる画像はSD(標準)画質になります。

エンドサーチ操作

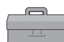
実行

最後に撮影した場面の約5秒間が再生され、自動的に止まる。

中止

エンドサーチを中止する。

- カセットを取り出すと、エンドサーチ操作はできなくなります。

基本設定メニュー

テープ撮影時の設定や、各種基本設定(録画モード/音声モード/パネル・VF設定/画面表示出力/クイック録画など)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は46ページをご覧ください。

ビデオ HDV/DV

再生するときの信号を選びます。通常は[オート]に設定してください。
i.LINKケーブル接続時は HDV/DV端子(i.LINK)から入力/出力する信号を選びます。ここで選択した信号をテープに記録/再生します。

▶オート

テープ再生時、自動でHDV/DV規格の信号を切り換えて、再生する。
i.LINK接続時は、自動でHDV/DV規格の信号に切り換えて、HDV/DV端子(i.LINK)から入出力して、記録/再生する。

HDV

テープ再生時、HDV規格で記録された部分のみ再生する。
i.LINK接続時はHDV規格の信号のみを HDV/DV端子(i.LINK)から入出力して、記録/再生する。また、パソコンなどと接続するときに選ぶ。

DV

テープ再生時、DV規格で記録された部分のみ再生する。
i.LINK接続時はDV規格の信号のみを HDV/DV端子(i.LINK)から入出力して、記録/再生する。また、パソコンなどと接続するときに選ぶ。

- 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。
- [オート]を選ぶと、HDVとDVの信号が切り換わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。

- [i.LINK DV変換]が[入]になっているときは、次の信号が出力されます。
  – [オート]のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号はそのまま出力されます。
  – [HDV]のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号の部分は出力されません。
  – [DV]のときは、DV信号はそのまま出力され、HDV信号の部分は出力されません。

録画フォーマット

撮影する録画規格を選択できます。

▶HDV1080i（HDV1080i）
HDV規格の1080i方式で撮影する。

DV（DV）
DV規格で撮影する。

- 撮影中の画像をi.LINK出力するときは、[i.LINK DV変換]もあわせて設定してください。

DV 設定 DV

DV規格で撮影するときに選ぶことができます。

■ 録画モード

▶SP（SP）
テープへSP（標準）モードで録画する。

LP（LP）
テープへSPモードの1.5倍の録画時間で長時間録画する。

- LPモードで録画したテープを他機で再生すると、モザイク状のノイズが現れたり、音声が途切れたりすることがあります。
- テープの途中でSP/LPモードを切り換えると、画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

■ ワイド切換

つなぐテレビの画像の比率に合った画像サイズで撮影できます。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

▶16:9　ワイド
ワイド（16:9）テレビ画面いっぱいに映るように撮影する。

4:3（4:3）
4:3テレビ画面いっぱいに映るように撮影する。

- 再生時に接続するテレビに合わせて[TVタイプ]を正しく設定してください（66ページ）。

■ 音声モード

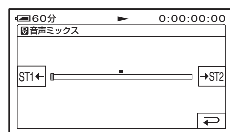
▶12BIT
テープへ12ビット（2つのステレオ音声）で記録する。

16BIT（♪16b）
テープへ16ビット（高音質で1つのステレオ音声）で記録する。

- HDV規格のときは、自動的に[16BIT]で記録されます。

■ 音声ミックス

他機でアフレコや4CHマイク記録したテープの音声を再生時に確認できます。



ST1/ST2で撮影時の音声（ST1：ステレオ1）とアフレコした音声（ST2：ステレオ2）の音声バランスを調整し、OKをタッチ。

- お買い上げ時は、ステレオ1の音のみが出る設定になっています。
- 調整したバランスは、電源を「切（充電）」にして12時間以上経つと、自動的にお買い上げ時の設定に戻ります。

音量

［－］/［＋］をタッチして調節します。（29ページ）

- カメラコントロールダイヤルでも調節できます（70ページ）。

バイリンガル

他機で二重音声（またはステレオ音声）で記録したテープを、本機で再生するときの音声が選べます。

▶切

主＋副音声（またはステレオ音声）で再生する。

メイン

主音声（または左音声）で再生する。

サブ

副音声（または右音声）で再生する。

- 本機は二重音声を再生できますが、記録はできません。
- 電源を「切（充電）」にして12時間以上経つと、自動的に［切］に戻ります。

パネル・VF 設定

設定を変更しても録画される画像に影響ありません。

■ パネル明るさ

液晶画面の明るさを調節できます。

① [−]/[＋] で調節する。

② [OK] をタッチ。

- 液晶画面バックライトを消すこともできます（18ページ）。

■ パネルバックライトレベル

液晶画面バックライトの明るさを調節できます。

▶ノーマル

通常の設定（標準の明るさ）。

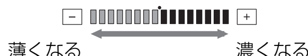
明るい

画面が暗いと感じたときに選ぶ。

- コンセントにつないで使うと、設定は自動的に［明るい］になります。
- ［明るい］を選ぶと、バッテリー撮影可能時間が若干短くなります。

■ パネル色のこさ

[−]/[＋] で液晶画面の濃さを調節できます。



薄くなる　　濃くなる

■ VFバックライト

ファインダーの明るさを調節できます。

▶ノーマル

通常の設定（標準の明るさ）。

明るい

ファインダーが暗いと感じたときに選ぶ。

- コンセントにつないで使うと、設定は自動的に［明るい］になります。
- ［明るい］を選ぶと、バッテリー撮影可能時間が若干短くなります。

コンポーネント出力

D端子のあるテレビとつなぐときに選びます。

D1

D1端子があるテレビとつなぐときに選ぶ。

▶D3

D3/D4/D5端子があるテレビとつなぐときに選ぶ。

i.LINK DV 変換

HDV規格の信号をDV規格に変換して HDV/DV端子（i.LINK）から出力します。

▶切

［録画フォーマット］と［ビデオ HDV/DV］の設定に従って、HDV/DV端子（i.LINK）から信号を出力する。

入

HDV/DV端子（i.LINK）から出力される信号は、HDV規格の場合はDV変換され、

DV規格の場合はそのままDV規格で出力する。

- i.LINK入力については、[ビデオ HDV/DV]をご覧ください(63ページ)。
- 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。

TV タイプ

テレビで見るときに、使用するテレビにあわせて信号の変換が必要です。撮影した画像は下記のように再生されます。

▶16:9

ワイドテレビで再生するときに選ぶ。

HDV規格画像
DV(16:9)規格画像　**DV(4:3)規格画像**




4:3

4:3テレビで再生するときに選ぶ。

HDV規格画像
DV(16:9)規格画像　**DV(4:3)規格画像**




- i.LINKの出力には無効です。
- ID-1対応テレビやテレビのS(S1、S2)映像入力端子につないで再生する場合、[TVタイプ]を[16:9]に設定してください。テレビが自動的に再生画像の比率に切り換わります。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

表示ガイド

19ページをご覧ください。

ステータスチェック

次の項目の設定値を確認できます。

– [コンポーネント出力](65ページ)
– [i.LINK DV変換](65ページ)
– [TVタイプ](66ページ)
– HDMI出力(81ページ)
– [ビデオ HDV/DV](電源スイッチが「見る/編集」のとき)(63ページ)

ガイドフレーム

[入]にすると、フレームを表示して、被写体が水平、垂直になっているかを確認できます。
フレームは記録されません。画面表示/バッテリーインフォボタンを押すと、フレームを消せます。

- ガイドフレームの交差点に被写体を置くと、バランスの良い構図になります。

日時/カメラデータ表示

撮影時に自動的に記録された情報(日時やカメラデータ)を再生時に表示できます。

▶**切**

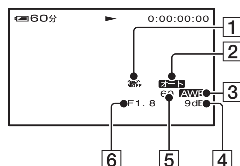
日時やカメラデータを表示しない。

日時データ

日付、時刻を表示。

カメラデータ(下記)

カメラデータを表示。



1 手ぶれ補正
2 明るさ調節
3 ホワイトバランス

4 ゲイン
5 シャッタースピード
6 絞り値

- "メモリースティック　デュオ"の静止画再生時は、露出補正値（0EV）とシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- フラッシュを使って撮影した画像は、ϟ が表示されます。
- [日時データ]のときは、同じエリアに日時が表示されます。日時、時刻を設定せずに撮影すると、[---- -- --]と[--:--:--]が表示されます。
- シンプル操作時はメニュー項目名称が[日時/カメラデータ表示]から[日時データ表示]に変わり、[日時データ]のみ設定できます。

残量表示

▶オート
次のときにテープ残量を約8秒間表示する。
- カセットが入った状態で電源スイッチを「見る/編集」か「撮る－テープ」にしたとき
- ▶ ‖（再生/一時停止）をタッチしたとき

入
テープ残量を常に表示する。

リモコン

お買い上げ時の設定は[入]のため、付属のワイヤレスリモコン（38ページ）が使えます。

- [切]に設定すると、他機のリモコンによる誤動作を防げます。

録画ランプ

[切]に設定すると、本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しないようにできます（お買い上げ時の設定は[入]）。

操作音

▶入
撮影スタート/ストップ時、タッチパネルでの操作時などにメロディが鳴る。

切
操作音を出さない。

画面表示出力

▶パネル
タイムコードなどの画面表示を液晶画面とファインダーに出す。

ビデオ出力/パネル
画面表示をテレビ画面、液晶画面、ファインダーに出す。

メニュー操作方向

▶ノーマル
▲ をタッチするとメニュー項目が下に回転する。

逆方向
▲ をタッチするとメニュー項目が上に回転する。

自動電源オフ

▶5分後
何も操作しない状態が約5分以上続くと、自動的に電源が切れる。

なし
自動的に電源は切れない。

- コンセントにつないで使うと自動的に[なし]になります。

キャリブレーション

118ページをご覧ください。

クイック録画 HDV1080i

[入]に設定すると、電源スイッチが「切(充電)」の状態から録画を再開するときに、撮影開始までの時間を少し短縮することができます。

▶切

撮影開始までの時間は少しかかるが、つなぎめがきれいに撮れる。

入(Q.REC)

電源スイッチが「切(充電)」の状態からの撮影開始時間を短縮できる。録画チャンスを逃したくないときに選ぶ。

- [入]にすると、場面と場面の間が一瞬止まります。(パソコンでの編集をおすすめします。)
- 撮影スタンバイの状態が約3分以上続くと、自動的にドラムの回転が止まり、スタンバイ状態が解除されます。これはテープを保護し、バッテリーの消耗を防ぐためです。録画を再開するには、もう1度スタート/ストップボタンを押してください。

時間設定メニュー

(日時あわせ/時差補正)

操作方法は46ページをご覧ください。

日時あわせ

20ページをご覧ください。

時差補正

海外で使うときは、[－]/[＋]で時差を設定し、現地時刻に合わせる。
時差を0に設定すると元の設定に戻る。

パーソナルメニューを変更する

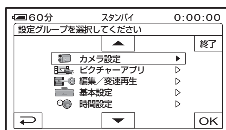
希望のメニュー項目を、電源ランプの位置ごとに、パーソナルメニューに登録できます。よく使う項目を登録しておくと便利です。

項目を追加する

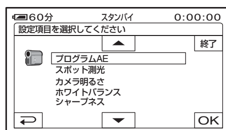
電源ランプの位置ごとに、最大28項目まで登録できます。登録数がいっぱいのときは、不要な項目を削除してください。

1 P.メニュー→[P.メニュー設定]→[追加]をタッチ。

画面にないときは、[⌃]/[⌄]をタッチして表示させる。



2 [▲]/[▼]で設定項目を選び、[OK]をタッチ。



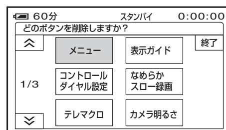
3 [▲]/[▼]で項目を選び、[OK]→[はい]→[X]をタッチ。

項目がパーソナルメニューの最後に追加される。

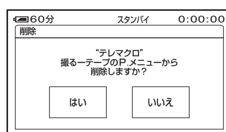
項目を削除する

1 P.メニュー→[P.メニュー設定]→[削除]をタッチ。

画面にないときは、[⌃]/[⌄]をタッチして表示させる。



2 削除する項目をタッチ。



3 [はい]→[X]をタッチ。

- [メニュー]と[P.メニュー設定]は削除できません。

表示位置を並べ替える

1 P.メニュー→[P.メニュー設定]→[並べ替え]をタッチ。

画面にないときは、[⌃]/[⌄]をタッチして表示させる。

2 移動する項目をタッチ。

次のページへつづく→

3 [▲]/[▼]で項目を移動する。

4 [OK]をタッチ。

続けて並べ替えるときは手順**2**～**4**を行う。

5 [終了]→[✕]をタッチ。

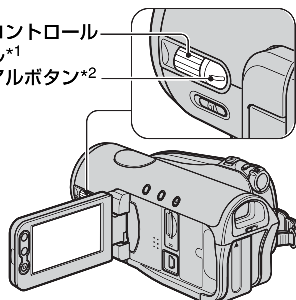
- [P.メニュー設定]は並べ替えられません。

お買い上げ時の設定に戻す（リセット）

[P.メニュー]→[P.メニュー設定]→[リセット]→[はい]→[はい]→[✕]をタッチ。

画面にないときは、[⌃]/[⌄]をタッチして表示させる。

カメラコントロールダイヤルを使う



*1 割り当てられた設定項目を手動調節できます。

*2 押すと、カメラコントロールダイヤルに割り当てられた設定項目を、自動/手動と切り換えます。

カメラコントロールダイヤルに設定項目を割り当てると、ダイヤル操作で下記の項目の設定を行うことができます。ダイヤル操作で設定する内容は、メニュー画面で行う設定と同じです。お買い上げ時は[フォーカス]に割り当てられています。

設定できる項目

– [フォーカス]（52ページ）
– [カメラ明るさ]（50ページ）
– [AEシフト]（52ページ）
– [WBシフト]（52ページ）

- 撮影中に、カメラコントロールダイヤルとマニュアルボタンだけで設定できるので、便利です。
- 再生時（電源ボタンが「見る/編集」のとき）、カメラコントロールダイヤルで再生音量を調節できます（29ページ）。

カメラコントロールダイヤルで設定する

ここでは例として、[フォーカス]の設定を手動で調節する方法を説明します。他の項目の設定方法も同じです。

1 **本機の電源スイッチを「撮る－テープ」か「撮る－メモリー」にする。**

2 **マニュアルボタンを押す。**

画面に設定を行う項目のマークが表示される。



- マークの種類・表示位置については、36ページをご覧ください。

3 **カメラコントロールダイヤルを上下に回して、設定する。**

［フォーカス］では、手動でピントを合わせる。

自動設定（［オート］）に戻したいときは、もう1度マニュアルボタンを押す。

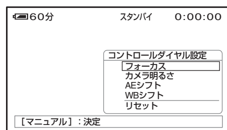
カメラコントロールダイヤルに割り当てる設定項目を変更する

カメラコントロールダイヤルに割り当てる設定項目を変更するには、メニュー画面の［コントロールダイヤル設定］から設定項目を選択します（55ページ）。また、下記のような手順でも割り当てることができます。

1 **本機の電源スイッチを「撮る－テープ」か「撮る－メモリー」にする。**

2 **マニュアルボタンを数秒間押し続ける。**

［コントロールダイヤル設定］画面が表示される。



3 **カメラコントロールダイヤルを上下に回して、割り当てたい設定項目を選択する。**

4 **マニュアルボタンを押す。**

メッセージが表示され、選択した項目の設定ができる。



- いったん設定内容を固定したあと、別の項目の設定を行っても、先に行った設定の内容はそのまま保持されます。ただし、［AEシフト］を手動設定したあとで［カメラ明るさ］を設定した場合、［AEシフト］の効果は無効になります。
- 手順**3**で［リセット］を選択すると、手動設定した項目が、すべてお買い上げ時の設定に戻ります。また、カメラコントロールダイヤルに割り当てられる設定項目は、［フォーカス］に戻ります。

他のビデオ/DVD機器などにダビングする

電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください（13ページ）。
また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続する

ビデオ/DVD機器の種類や接続する端子によって、接続方法や取り込まれる画質が異なります。

⇒：信号の流れ

本機の端子	必要なケーブル	接続する端子	接続する機器
①	i.LINKケーブル（別売り） 接続する機器には、HDV1080i方式対応のi.LINK端子が必要です。	i.LINK	HDV1080i方式対応機器 →HD画質*1
①	i.LINKケーブル（別売り）	i.LINK	i.LINK端子付きのAV機器 →SD画質*1
②	S映像ケーブル付きのAV接続ケーブル（別売り） （赤） （白） （黄）	S(S1,S2)ビデオ 音声 映像	S（S1、S2）映像端子付きのAV機器 →SD画質*1
②	AV接続ケーブル（付属） （赤） （白） （黄）	音声 映像	映像、音声端子付きのAV機器*2 →SD画質*1

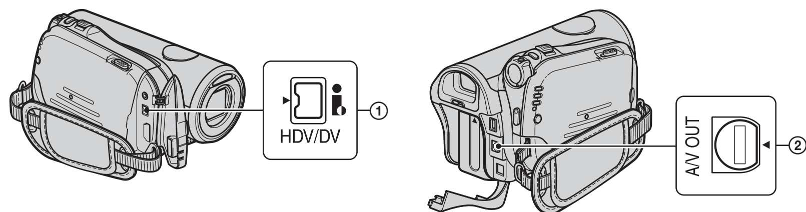
*1 DV規格で撮影した画像は、どの接続でもSD（標準）画質でダビングされます。

*2 モノラル（ひとつの音声入力）の場合は、AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ（左音声）または赤いプラグ（右音声）を音声入力へつないでください。

- HDMIケーブルを使ってのダビングはできません。

本機の端子について

端子カバーを開けて接続してください。



i.LINKケーブル(別売り)でつなぐときは

ダビングされる画像の規格(HDVまたはDV)は、撮影した画像や相手機器が対応している規格によって異なります。下記の表でダビングしたい規格を選び、必要なメニュー設定を行ってください。

- メニュー設定を変える前に、i.LINKケーブルを抜いてください。つないでから設定を変えると、ビデオ/DVD機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。

<table>
<tr><th rowspan="2">ダビングしたい規格</th><th rowspan="2">本機で撮影した画像の規格</th><th colspan="2">相手機器の対応規格</th><th colspan="2">メニュー設定</th></tr>
<tr><th>HDV規格*1</th><th>DV規格</th><th>[ビデオ HDV/DV]
(63ページ)</th><th>[i.LINK DV変換]
(65ページ)</th></tr>
<tr><td>HDV画像をHDVでダビング</td><td>HDV</td><td>HDV</td><td>—*3</td><td rowspan="3">[オート]</td><td>[切]</td></tr>
<tr><td>HDV画像をDVに変換してダビング</td><td>HDV</td><td>DV</td><td>DV</td><td>[入]</td></tr>
<tr><td>DV画像をDVでダビング</td><td>DV</td><td>DV</td><td>DV</td><td>[切]</td></tr>
<tr><td colspan="6">HDV規格とDV規格が混在したテープのときは</td></tr>
<tr><td>HDV、DVどちらもDVに変換してダビング</td><td>HDV/DV</td><td>DV</td><td>DV</td><td>[オート]</td><td>[入]</td></tr>
<tr><td rowspan="2">HDV規格で撮影した部分のみダビング</td><td>HDV</td><td>HDV</td><td>—*3</td><td rowspan="2">[HDV]</td><td rowspan="2">[切]</td></tr>
<tr><td>DV</td><td>—*2</td><td>—*3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">DV規格で撮影した部分のみダビング</td><td>HDV</td><td>—*2</td><td>—*2</td><td rowspan="2">[DV]</td><td rowspan="2">[切]</td></tr>
<tr><td>DV</td><td>DV</td><td>DV</td></tr>
</table>

*1 HDV1080i方式に対応している機器です。

*2 無記録部分としてダビングします(画像、音声は記録されません)。

*3 画像を認識できません(無記録状態になります)。

- [ビデオ HDV/DV]が[オート]のときは、HDVとDVの信号が切り換わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。

次のページへつづく➡

- 録画側にHDR-HC3を使用する場合は、再生側、録画側とも[ビデオ HDV/DV]を[オート]にしてください(63ページ)。
- 再生側と録画側の両方にHDR-HC3などのHDV1080i方式対応機器を使用して、i.LINKケーブルで接続したときは、録画を一時停止または停止したあとで再開すると、スムーズにつながりません。
- AV接続ケーブルでつなぐときは、[画面表示出力]を[パネル](お買い上げ時の設定)にしてください(67ページ)。

S(S1、S2)端子つきのAV接続ケーブル(別売り)でつなぐときは

映像プラグ(黄色)のかわりにS(S1、S2)映像端子を接続してください。AV接続ケーブルでの接続に比べ、画像をより忠実に再現できます。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。S映像ケーブルのみをつないだ場合、音声は出力されません。

ダビングする

1 本機(再生側)の準備をする。

撮影済みのカセットを入れる。
電源スイッチを「見る/編集」にする。

再生機器(テレビなど)に合わせて、[TVタイプ]を設定してください(66ページ)。

2 ビデオ(録画側)の準備をする。

ビデオは録画用カセット、DVDレコーダーは録画用DVDを入れる。

入力切り換えスイッチがある場合は「入力」(ビデオ1、ビデオ2入力など)にする。

3 本機とビデオ/DVD機器などをつなぐ。

接続について詳しくは、72ページをご覧ください。

4 本機で再生を始め、ビデオ/DVD機器などで録画する。

詳しくは、ビデオ/DVD機器などの取扱説明書をご覧ください。

5 ダビングが終わったら、ビデオ/DVD機器の録画を停止し、本機の再生を停止する。

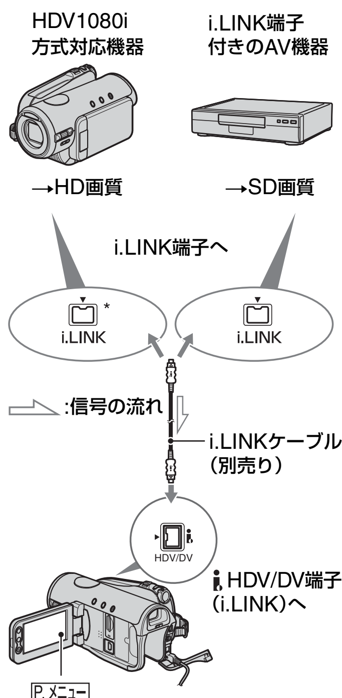
- AV接続ケーブルでつないで日時やカメラデータなどをダビングしたいときは、それらを表示させてください(66ページ)。
- HDV/DV端子(i.LINK)接続では、次のものは録画されません。
  – 画面表示

– [ピクチャーエフェクト](60ページ)/[デジタルエフェクト](59ページ)を加えた画像
– 他機で付けたタイトル
- HDV規格の場合は、再生一時停止中の画像や変速再生している画像は HDV/DV端子(i.LINK)から出力されません。
- i.LINKケーブル接続時は、次のことにご注意ください。
  – 再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
  – ご使用する機器やアプリケーションなどによっては日時やカメラデータが表示、記録されないことがあります。
  – 映像または音声のみを記録することはできません。
- i.LINKケーブルで接続してDV規格でダビングするとき、DVDレコーダー側から本機の操作が可能と説明されている機器でも操作ができない場合があります。DVDレコーダーの入力モードを「DV」に切り換えるなどして映像の入出力が可能なときは、「ダビングする」の手順でダビングしてください。
- ソニー製DVDレコーダーとのi.LINKケーブル接続について詳しくは、下記のURLをご覧ください(2006年4月現在)。
  http://www.sony.jp/products/i-link/
- i.LINKケーブル接続時は、デジタル信号でやりとりをするので画質・音質の劣化がほとんどありません。
- i.LINKケーブル接続時は、出力される信号の規格(HDVOUT i.LINK またはDVOUT i.LINK)が本機の液晶画面に表示されます。

ビデオの画像を本機で録画する i.LINK

ビデオの画像を本機のテープや"メモリースティック デュオ"に録画できます。
"メモリースティック デュオ"には静止画として記録できます。
あらかじめ、本機に録画用テープまたは"メモリースティック デュオ"を入れておいてください。本機とビデオをi.LINKケーブルでつなぎます。本機の電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください(13ページ)。また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

- この操作にはi.LINKケーブルが必要です。



* HDV1080i 方式の i.LINK 端子が必要です。

ダビングや編集をする

動画を録画する

1 本機の電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 本機の入力信号を設定する。

HDV対応機器から録画するときには[ビデオ HDV/DV]を[オート]にする。DV対応機器から録画するときには[ビデオ HDV/DV]を[DV]または[オート]にする（63ページ）。

3 ビデオを再生機としてつなぐ。

- i.LINKケーブル接続時は、入力される信号の規格（HDVIN i.LINK またはDV IN i.LINK）が本機の液晶画面に表示されます。（再生側の画面にも表示されることがありますが、録画はされません。）

4 ビデオにダビングするカセットを入れる。

5 本機で録画操作する。

P.メニュー→[録画操作]→[録画ポーズ]をタッチ。
選択したい項目が画面にないときは、⌃/⌄をタッチして表示させる。

6 ビデオを再生する。

再生側の画像が本機の画面に映ります。

7 録画を開始したい画面で[録画スタート]をタッチ。

8 録画を止める。

■（停止）または[録画ポーズ]をタッチ。

9 ⮐→✕をタッチ。

- テレビ放送などの番組をi HDV/DV端子（i.LINK）から録画することはできません。
- DV機器から画像を録画するとき、HDV規格で録画することはできません。
- 接続時は、次のことにご注意ください。
  - 再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
  - 映像または音声のみを記録することはできません。
  - 録画を一時停止または停止したあとで再開すると、スムーズにつながりません。
- 4：3の映像信号を入力すると、本機の画面には左右が黒く表示されます。

静止画を記録する

1 「動画を録画する」の手順1～4を行う。

2 ビデオを再生する。

再生側の画像が本機の液晶画面に映ります。

3 記録したい場面でフォトボタンを軽く押し、画像を確認したら深く押す。

テープの画像を"メモリースティック　デュオ"に取り込む

静止画を"メモリースティック　デュオ"に記録できます。あらかじめ録画済みのテープと"メモリースティック　デュオ"を入れておいてください。

1 電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 場面を探して、取り込む。

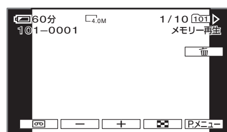
[▶ II]（再生）をタッチしてテープを再生し、取り込む場面でフォトボタンを軽く押し、画面を確認して深く押す。

- テープに記録された日時と"メモリースティック デュオ"に取り込んだときの日時が記録されます。本機ではテープに記録されたときの日時が表示されます。テープに記録されたカメラデータは記録できません。
- 再生している画像がHDV規格のとき、画像サイズは1.2Mになります。再生している画像がDV規格でワイド（16:9）のとき、画像サイズは0.2Mに、4:3のときはVGA（0.3M）になります（57ページ）。
- 再生ズームを使用中は、取り込むことはできません（32ページ）。

"メモリースティック　デュオ"の画像を消す

1 電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 [メモリー]をタッチ。



3 [−]/[＋]で削除する画像を表示させる。

- すべての画像を消去するには、メニューの［全消去］（58ページ）で削除します。

4 [削除]→［はい］をタッチ。

- いったん削除した画像は元に戻せません。

- インデックス表示画面（29ページ）で、[設定]→［削除］→削除する画像→[OK]→［はい］をタッチしても画像を削除できます。6枚ずつ画像を一覧できるので、消す画像を簡単に探せます。
- "メモリースティック　デュオ"が誤消去防止になっているとき（113ページ）やプロテクトされている画像（78ページ）は削除できません。

“メモリースティック　デュオ”の画像にマークをつける(プリントマーク/プロテクト)

誤消去防止スイッチ付きの“メモリースティック　デュオ”のときは、あらかじめ誤消去防止を解除してください(113ページ)。

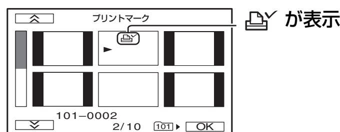
静止画にプリント用のマークを付ける(プリントマーク)

本機はプリントする画像を選択できるDPOF(Digital Print Order Format)規格に対応のため、マークを付けると、プリント時に選び直す必要がありません(プリント枚数は指定できません)。

1 電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 [メモリー] → [画像] → [設定] → [プリントマーク]をタッチ。

3 プリントマークを付ける画像をタッチ。



4 [OK] → [終了]をタッチ。

- プリントマークを外すには、手順**3**で、外す画像をもう1度タッチ。
- 他機でプリントマークを付けた画像が“メモリースティック　デュオ”に入っているときに本機でプリントマークを付けると、他機でプリントマークをつけた画像の情報が変更される場合があります。

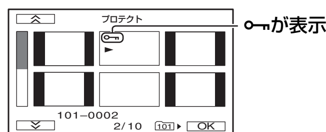
記録した画像を保護する(プロテクト)

画像に誤消去防止(プロテクト)指定できます。

1 電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 [メモリー] → [画像] → [設定] → [プロテクト]をタッチ。

3 プロテクトする画像をタッチ。



4 [OK] → [終了]をタッチ。

- プロテクトを外すには、手順**3**で外す画像をもう1度タッチ。

記録した画像を印刷する(PictBridge 対応プリンター)

PictBridge対応のプリンターを使えば、本機で撮影した静止画をパソコン無しで印刷できます。

PictBridge

本機と付属のACアダプターを使って、電源はコンセントから取ってください。

あらかじめ、本機に静止画を記録した"メモリースティック デュオ"を入れて、プリンターの電源を入れてください。

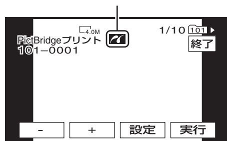
本機とプリンターを接続する

1 本機の電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 USBケーブルで本機の⏚(USB)端子とプリンターをつなぐ。液晶画面に自動で[USB機能選択]が表示される。

3 [PictBridge プリント]をタッチ。

本機とプリンターの接続が完了すると画面に (PictBridge接続中)が表示される。



"メモリースティック デュオ"に記録されている画像が表示される。

- 次の順番で操作しても同じです。
  - P.メニュー→[メニュー]→ ピクチャーアプリ→[USB機能選択]→[PictBridge プリント]をタッチ。
  - P.メニュー→[メニュー]→ ピクチャーアプリ→[PictBridge プリント]をタッチ。
- PictBridge規格未対応機器との接続は、動作保証いたしません。

印刷する

1 [−]/[+]で印刷する画像を選ぶ。

2 [設定]→[印刷部数]をタッチ。

3 [−]/[+]で印刷部数を設定する。

1枚の静止画で最大20枚まで印刷部数を設定できる。

4 [OK]→[終了]をタッチ。

日時を入れて印刷するには、[設定]→[日付/時刻]→[年月日]または[日時分]→[OK]をタッチ。

5 [実行]→[はい]をタッチ。

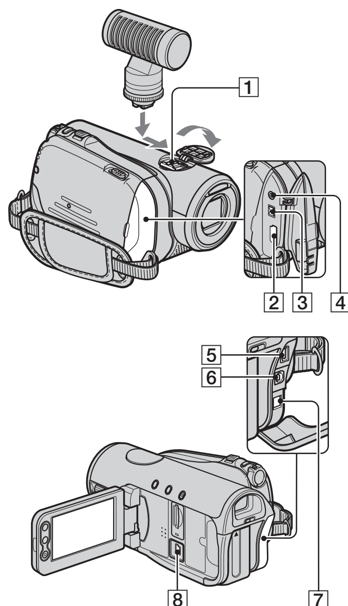
印刷が完了すると[プリント中です]の表示が消え、画像選択画面に戻る。

印刷終了後、[終了]をタッチ。

- プリンターの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 画面に が表示中に次の操作をすると、正常な処理が行われません。
  - 電源スイッチを切り換える。
  - プリンターからUSBケーブルを抜く。
  - 本機から"メモリースティック デュオ"を抜く。

- プリンターが動作しなくなった場合は、USBケーブルを抜いてプリンターの電源を入れ直してから、操作をやり直してください。
- プリンターによっては、画像の上下左右が切れる場合があります。特に画像がワイド(16:9)のときは、左右が大きく切れる場合があります。
- プリンターによっては、日時印刷に対応していないものがあります。プリンターの取扱説明書をご覧ください。
- 本機以外の機器で撮影した画像の印刷に関しては保証いたしません。
- PictBridge(ピクトブリッジ)とは、カメラ映像機器工業会(CIPA)で制定された統一規格のことです。メーカーや機種に関係なく、ビデオカメラやデジタルスチルカメラを直接プリンターに接続し、パソコンを使わずに画像を印刷できます。

外部機器をつなぐ端子について



1… シューカバーを開ける

2 ～ 7… 端子カバーを開ける

8… 液晶パネルを開ける

1 アクティブインターフェースシュー 

専用マイクやフラッシュなどを使用時、本機から電源供給し、本機の電源スイッチに連動して、接続機器の電源入/切ができます。お使いになるアクセサリーの取扱説明書をあわせてご覧ください。

- 外部機器を接続するときは、シューカバーを開けてください。
- 接続機器が外れにくい構造になっています。取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、ネジを確実に締め付けてください。取り外すときは、ネジをゆるめ、上から押しながら外してください。
- 外部機器と接続すると、バッテリーの消耗は早くなります。
- フラッシュ（別売り）を付けたまま動画を撮影するときは、充電音が録音されないように、フラッシュの電源を切ってください。
- 別売りのフラッシュと内蔵フラッシュは同時に使えません。
- 外部マイク（別売り）を接続すると、内蔵ステレオマイク（33ページ）より優先されます。

2 HDMI OUT 端子（出力のみ対応）（41ページ）

- モニターが対応している映像信号を読み取り、最適な出力形式を自動的に選択し、出力します。
- ［ステータスチェック］でHDMI出力の設定値を確認できます（66ページ）。

3 HDV/DV 端子（i.LINK）（41、73、87ページ）

4 LANC 端子（青色）

- ビデオ機器と周辺機器をつなぎ、テープ走行などをコントロールできます。

5 COMPONENT OUT 端子（コンポーネント出力）（41 ページ）

6 A/V OUT 端子（出力のみ対応）（41、73ページ）

7 DC IN 端子（13 ページ）

8 (USB)端子（79、82 ページ）

パソコンと接続する

本機とパソコンを接続して、次の操作を行うことができます。

"メモリースティック　デュオ"の静止画を取り込む
→82ページ

テープの動画をHDV規格で取り込む
→85ページ

テープの動画をDV規格で取り込む
→85ページ

接続について

本機とパソコンをつなぐには、次の2つの方法があります。

－USBケーブルでつなぐ
"メモリースティック　デュオ"の画像を取り込むとき

－i.LINKケーブルでつなぐ
テープの画像を取り込むとき

パソコン接続時のご注意

- USBケーブルやi.LINKケーブルなどで本機とパソコンを接続する場合、端子の向きを確認してからつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。
- 次の操作はできません。
  - USBケーブルで接続してテープの画像をパソコンに取り込む。
  - i.LINKケーブルで接続して"メモリースティック　デュオ"の画像をパソコンに取り込む。
- USBケーブルをパソコンから外すときは、正しい手順で操作してください(84ページ)。

静止画をパソコンに取り込む

パソコン環境について

Windowsをお使いの場合

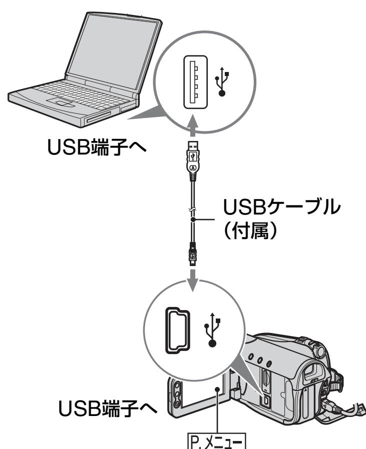
- 対応OS：Windows 2000 Professional/Windows Millennium Edition/Windows XP Home Edition/Windows XP Professional
  上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です。
  上記のOS内でもアップグレードした場合は動作保証いたしません。
- CPU：MMX Pentium 200MHz以上
- その他必要な装置：USB端子標準装備

Macintoshをお使いの場合

- 対応OS：Mac OS 9.1/9.2/Mac OS X（v10.1/v10.2/v10.3/v10.4）
- その他必要な装置：USB端子標準装備

USBケーブルでつなぐ

- パソコンの標準ドライバで動作するので、ソフトウェアのインストールは不要です。
- パソコンにメモリースティック　スロットがある場合は、画像を保存した"メモリースティック　デュオ"をメモリースティック　デュオ　アダプター(別売り)に入れてから、パソコンのメモリースティック　スロットに差し込んで画像を取り込むこともできます。
- "メモリースティック PRO デュオ"をお使いの際にパソコンが"メモリースティック PRO デュオ"に対応していない場合は、パソコンのメモリースティック　スロットを使用せずに本機をUSBケーブルでつないでください。



- この段階では、まだ本機とパソコンをつながないでください。
- 本機の電源を入れる前に、本機とパソコンをUSBケーブルでつなぐと、本機がパソコンに認識されない場合があります。
- 推奨するつなぎかたについては85ページをご覧ください。

1 パソコンの電源を入れる。

使用中のアプリケーションは、終了させておいてください。

Windows 2000/ Windows XPをお使いの場合

Administrator権限・コンピューターの管理者でログオンしてください。

2 本機に"メモリースティック デュオ"を入れる。

3 本機の電源を準備する。

電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください（13ページ）。

4 本機の電源スイッチを「見る/編集」にする。

5 USBケーブルで本機の⇕（USB）端子とパソコンをつなぐ。

液晶画面に自動で［USB機能選択］が表示される。

6 ［パソコン接続メモリースティック］をタッチ。

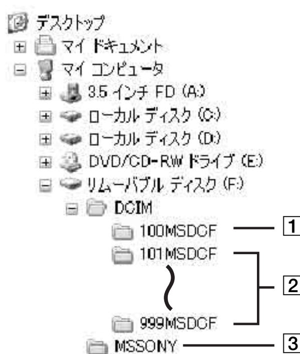
初回は、パソコンが本機を認識するのに時間がかかることがあります。

- ピクチャーアプリメニューの［USB機能選択］からも選択することができます。
- シンプル操作中はUSBケーブルをつなぐと設定できます。

画像を取り込む

Windowsパソコンのとき

［マイコンピュータ］内に表示される［リムーバブルディスク］アイコンをダブルクリックし、フォルダ内の画像をパソコンのハードディスクへコピーする。



1 フォルダ作成機能がない他のビデオカメラレコーダーで撮影した静止画が入っているフォルダ(再生のみ可能)

2 本機の画像フォルダ(新しくフォルダを作成していない場合は[101MSDCF]のみ)

3 フォルダ作成機能がない他のビデオカメラレコーダーで撮影した動画が入っているフォルダ(再生のみ可能)

フォルダ名	ファイル名	意味
101MSDCF (~999MSDCF)	DSC0□□ □□.JPG	静止画 ファイル

ファイル名の□□□□には、0001〜9999までの数字が入ります。

Macintoshパソコンのとき

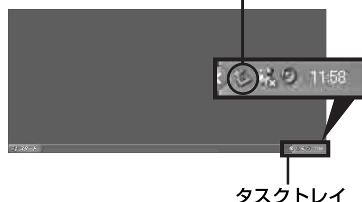
ドライブアイコンをダブルクリックし、取り込みたい画像ファイルをパソコンのハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップする。

USBケーブルを外す

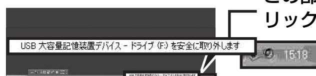
Windowsパソコンのとき

本機の液晶画面に[USB接続]と表示されたときは、次のようにUSBケーブルを外してください。

① 画面右下にあるタスクトレイの中の、[ハードウェアの安全な取り外し]アイコンをクリックする。



② [USB 大容量記憶装置デバイス－ドライブを安全に取り外します(停止します)]をクリックする。



③ [OK]をクリックする。

④ 本機とパソコンから USB ケーブルを外す。

本機の液晶画面に[USB接続]と表示されていないときは、手順④のみ行ってください。

- 正しい手順でUSBケーブルを外さないと、“メモリースティック　デュオ”内のファイルが正常に更新されない場合があります。また“メモリースティック　デュオ”の故障の原因になります。

Macintoshパソコンのとき

① パソコンで使用中のアプリケーションを終了させる。

② パソコンの画面にあるドライブアイコンを[ゴミ箱]にドラッグ&ドロップする。

③ 本機とパソコンからUSBケーブルを外す。

- Mac OS Xをお使いの場合は、パソコンの電源を切ってから、USBケーブルを外し、本機から"メモリースティック　デュオ"を取り出してください。
- 本機のアクセスランプが点灯中はUSBケーブルを抜かないでください。
- 本機の電源を切るときは、本機からUSBケーブルを外してから切ってください。

推奨するつなぎかた

本機を正しく動作させるためには、次のようにつないでください。

- パソコンのUSB端子に、USBケーブルで本機をつなぎ、他のUSB端子には何もつながない。
- USBキーボードとマウスが標準でついているパソコンの場合、キーボードをUSB端子につないだ状態で、本機をUSBケーブルで別のUSB端子につなぐ。
- 1台のパソコンに2台以上のUSB機器をつないだ場合の動作は保証していません。
- USBケーブルは、必ずパソコンのUSB端子につないでください。キーボードやUSBハブなどを経由してつないでいる場合の動作は保証していません。
- パソコンのUSB端子にUSBケーブルがつながれていることを確認してください。
- 推奨環境のすべてのパソコンについての動作を保証するものではありません。

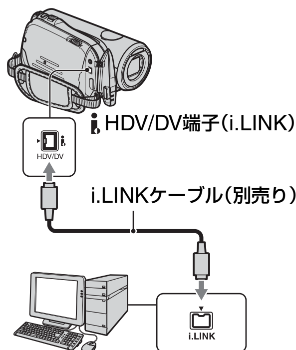
テープの動画をパソコンに取り込む i.LINK

i.LINKケーブルで本機とパソコンをつなぎます。

お手持ちのパソコンにi.LINK端子が装備されていて、ビデオ信号の取り込みができる編集ソフトウェア(編集ソフトウェアは付属していません)がインストールされている必要があります。撮影した画像やパソコンに取り込まれる規格(HDVまたはDV)によって、必要なソフトウェアが次の通り異なります。

パソコンに取り込まれる規格	撮影画像の規格	必要なソフトウェア
HDV	HDV	HDV規格の信号取り込み可能の編集ソフトウェア
DV	HDV	DV規格の信号取り込み可能の編集ソフトウェア
DV	DV	DV規格の信号取り込み可能の編集ソフトウェア

- この操作にはi.LINKケーブルが必要です。USBケーブルは使用できません。
- 画像の取り込み方法について詳しくは、ソフトウェアの説明書をご覧ください。
- パソコンの推奨環境については、お使いになるソフトウェアの説明書をご覧ください。
- 使用するパソコンのソフトウェアによっては、正しく働かない場合があります。



パソコン接続時のご注意

- i.LINKケーブルは先にパソコンとつないでから、本機とつないでください。先に本機とつなぐと、静電気の発生などにより、本機の故障の原因となります。
- 次の場合、パソコンが本機を正しく認識できなかったり、パソコンがハングアップしたりすることがあります。
  - 本機の画面上に表示されている規格（HDVまたはDV）の信号が扱えないパソコンに入出力する。
  - i.LINKケーブル接続中に、基本設定メニューの［ビデオ HDV/DV］と［i.LINK DV変換］の設定を変える。
  - 電源スイッチが「撮る－テープ」でi.LINKケーブル接続中に、基本設定メニューの［録画フォーマット］の設定を変える。
  - i.LINKケーブル接続中に、本機の電源スイッチを切り換える。
- i.LINKケーブル接続時は、本機の画面に入出力信号の規格（HDVまたはDV）が表示されます。

動画を取り込むときは

本機の電源は付属のACアダプターを使ってください。

① 編集ソフトウェア（編集ソフトウェアは付属していません）を用意する。
編集ソフトウェアについては下記の URL をご覧下さい。
http://www.sony.co.jp/cam/support/

- ソフトウェアの仕様や特徴、最新情報に関しては、各社の公式サイト等をご確認ください。

② パソコンの電源を入れる。
本機にテープを入れ、カメラの電源スイッチを［見る / 編集］にします。

③ 本機のメニューを設定する。
撮影画像や取り込まれる規格によってメニュー設定が異なります。

パソコンに取り込まれる規格	メニュー設定*	撮影画像の規格
HDV	［ビデオ HDV/DV］→［HDV］ ［i.LINK DV変換］→［切］	HDV
DV	［ビデオ HDV/DV］→［HDV］ ［i.LINK DV変換］→［入］	HDV
DV	［ビデオ HDV/DV］→［DV］ ［i.LINK DV変換］→［切］	DV

* メニュー設定について、［ビデオ HDV/DV］は63ページ、［i.LINK DV変換］は65ページをご覧ください。

④ i.LINK ケーブルでカメラとパソコンをつないで取り込む。

- HDV規格に取り込みをおこなっても認識しない場合は編集ソフトウェアがHDV規格に対応していない可能性がありますので手順③でDV規格へ変換して取り込みを行ってください。
- DVDに取り込まれる画像はSD（標準）画質となります。
- DV規格で記録したテープをHDV規格でパソコンに取り込むことはできません。
- 本機を「Click to DVD Ver.2.3」以降がインストールされているソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズとつなぐと、テープの画像からDVDを作成することができます（87ページ）。DVDに取り込まれる画像はSD（標準）画質になります。

パソコンから本機にHDV規格で取り込むときは

基本設定メニューの[ビデオ HDV/DV]を[HDV]に、[i.LINK DV変換]を[切]にする(63、65ページ)。

パソコンから本機にDV規格で取り込むときは

基本設定メニューの[ビデオ HDV/DV]を[DV]にする(63ページ)。

DVDを作る(おまかせ「Click to DVD」) i.LINK

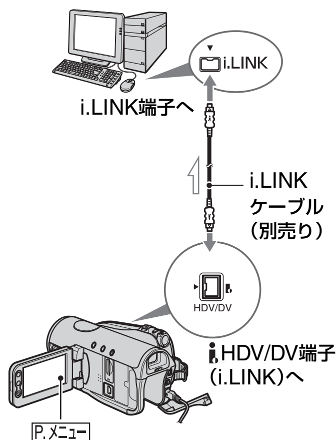
あらかじめ「Click to DVD」がインストールされているソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズ*にi.LINKケーブルで本機をつなぐと、テープの画像からDVDを作成することができます。画像の取り込みからDVDへの書き込みまで、すべて自動で行います。

ここでは、テープ1本をそのままDVDに取り込む手順を説明します。

使用できるパソコン、動作環境や「Click to DVD」や「Click to DVD Ver.2.3」以降へのアップグレードについて、詳しくは下記のURLをご覧ください。

http://vcl.vaio.sony.co.jp/

* パソコンのDVDドライブがDVDに書き込み対応で、ソニーオリジナルソフトウェア「Click to DVD Ver.2.3」以降がインストールされている必要があります。



:信号の流れ

- DVDに取り込まれるHDV規格の画像は、ダウンコンバートされてSD(標準)画質になります(HD(ハイビジョン)画質ではありません)。
- この機能はi.LINKケーブルで接続した場合のみ使えます。USBケーブルは使えません。

パソコンとつなぐ

おまかせ「Click to DVD」機能を初めて使うときは

おまかせ「Click to DVD」機能を使うと、本機をパソコンに接続すれば、簡単な操作でDVDを作成できます。この機能を使うときは、あらかじめパソコンの「Click to DVD おまかせサーバー」を起動する必要があります。

① パソコンの電源を入れる。

② スタートメニューをクリックし、[すべてのプログラム]を選ぶ。

③ 表示されたプログラムの中から[Click to DVD]を選び、「Click to DVD おまかせサーバー」をクリックする。
「Click to DVD おまかせサーバー」が起動する。

- 「Click to DVD おまかせサーバー」は、1度起動すると、2回目以降はパソコンの電源を入れるだけで自動的に起動します。
- 「Click to DVD おまかせサーバー」は、Windows XPのユーザーごとに起動の設定がされます。

1 パソコンの電源を入れる。

i.LINKを使うアプリケーションが起動しているときは、終了しておいてください。

2 本機の電源を準備する。

DVDの作成には時間がかかるので、付属のACアダプターを使ってください。

3 本機の電源スイッチを「見る/編集」にする。

4 本機の液晶画面で P.メニュー →[メニュー]→ 基本設定→[i.LINK DV変換]→[入]→ OK をタッチ。

5 録画済みのカセットを入れる。

6 i.LINKケーブルで、本機とパソコンをつなぐ(87ページ)。

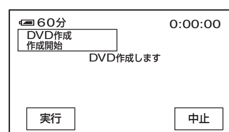
- 接続するときは、端子の向きを確認してからつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。

7 本機の液晶画面で P.メニュー →[メニュー]→ 編集/変速再生→[DVD作成]→ OK をタッチ。

パソコンに「Click to DVD」画面が表示されます。

8 パソコンのディスクドライブに書き込み用DVDをセットする。

9 本機の液晶画面で[実行]をタッチ。

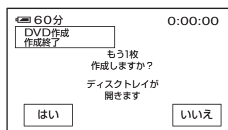


パソコンの作業状況が本機画面に表示されます。
取り込み:本機からテープの画像を取り込む。
変換: 取り込んだ画像をMPEG2方式に変換する。

書き込み：変換されたテープの画像をDVDに書き込む。

- すでに書き込まれているDVD-RW/+RWを使うと、[書き込み済みディスクです記録されているデータは消去されます]が表示されます。[実行]をタッチすると書き込み済みのデータは消去され、新しいデータを書き込みます。

10 DVD作成を終了するには、本機の液晶画面で[いいえ]をタッチ。



パソコンのディスクトレイが自動的に開きます。
同じ内容のDVDをもう1枚作成するときは、[はい]をタッチします。ディスクトレイが自動的に開きます。新しい書き込み用DVDをディスクドライブにセットして手順**9**、**10**を行ってください。

DVD作成を途中でやめるには

本機の液晶画面で[中止]をタッチ。

- 本機画面に[終了処理中です]と表示されているときはDVD作成を中止できません。
- 画像を取り込むまで、i.LINKケーブルを抜いたり、本機の電源スイッチを切り換えたりしないでください。
- 本機画面に[変換]、[書き込み]が表示されているときはすでに画像の取り込みは終了しています。i.LINKケーブルを抜いたり、本機の電源を切っても、パソコンはDVD作成を続けます。
- 次のときはパソコンは画像の取り込みを中止し、その時点までのDVDを作成します。詳しくは「Click to DVD」のヘルプをご覧ください。
  – テープの途中に10秒以上の無記録部分がある
  – テープの日付データが先の画像よりも前の日付になっている
  – ワイド（16:9）と4:3の画像が混在している
- 次のときは、DVD作成の操作をすることはできません。
  – テープ走行中
  – "メモリースティック　デュオ"に画像を記録中
  – パソコンから「Click to DVD」を起動させたとき

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

全体操作/シンプル操作について

電源が入らない。

- 充電されたバッテリーを取り付ける（13ページ）。
- ACアダプターをコンセントに差し込む（13ページ）。

電源が入っているのに操作できない。

- 電源（バッテリーまたはACアダプターの電源コード）を取り外し、約1分後に電源を取り付け直す。
- RESET（リセット）ボタン（33ページ）を先のとがったもので押す。（パーソナルメニュー項目以外のすべての設定が解除される。）

ボタンが操作できない。

- シンプル操作中は使えるボタンが限られます（26ページ）。

シンプル操作/通常操作に切り換えられない。

- 撮影中とUSBケーブルを使って他機と通信中は、シンプル操作から通常操作への切り換えはできません。

シンプル操作にすると、設定が変わる。

- シンプル操作に設定すると、本機の一部の設定はお買い上げ時の設定に戻る（24、48ページ）。

デモモードに切り換わらない。

- カセットと"メモリースティック　デュオ"を取り出す（21ページ）。

本体があたたかくなる。

- 本機使用中に本体があたたかくなることがありますが、故障ではありません。

バッテリー/電源について

電源が途中で切れる。

- お買い上げ時の設定では、操作しない状態が約5分以上続くと、自動的に電源が切れる（自動電源オフ）。[自動電源オフ]の設定を変更する（67ページ）か、もう1度電源を入れる（17ページ）、またはACアダプターを使用する。
- バッテリーを充電する（13ページ）。

バッテリーの充電中、充電ランプが点灯しない。

- 電源スイッチを「切（充電）」にする（13ページ）。
- バッテリーを正しく取り付け直す（13ページ）。
- コンセントにプラグを正しく差し込む。
- すでに充電が完了している（13ページ）。

バッテリーの充電中、充電ランプが点滅する。

- バッテリーを正しく取り付け直す（13ページ）。それでも点滅するときは、故障のおそれがあるため、コンセントからプラグを抜き、テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。

バッテリー残量が充分あるのに電源がすぐ切れる。

- 残量表示にズレが生じている、または充電が不充分。満充電し直すと残量が正しく表示される（13ページ）。

バッテリー残量が正しく表示されない。

- 周囲の温度が極端に高い/低い、または充電が不充分。故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも正しく表示されないときは、寿命のため、新しいバッテリーに交換する（13、115ページ）。
- 使用状況や環境によっては正しく表示されません。液晶画面を開閉したときは正しい残量時間を表示するまで約1分かかります。

バッテリーの消耗が早い。

- 周囲の温度が極端に高い/低い、または充電が不充分。故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも消耗が早いときは、寿命のため、新しいバッテリーに交換する（13、115ページ）。

ACアダプターを使用中、本機に不具合が生じる。

- 電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから、もう1度電源をつなぐ。

液晶画面/ファインダーについて

液晶画面またはファインダーに見慣れない画面が現れる。

- ［デモモード］になっている（62ページ）。液晶画面のどこかをタッチする、またはカセットや"メモリースティック　デュオ"を入れる。

見慣れない表示が出る。

- 警告表示またはお知らせメッセージです（105ページ）。

液晶画面に画像が残る。

- 電源を入れた状態でバッテリーを外したり、DCプラグを抜いたためで、故障ではありません。

液晶画面バックライトを「切」にできない。

- シンプル操作中は画面表示/バッテリーインフォボタンを長押しする操作はできません（24ページ）。

画面表示を消すことができない。

- [ⓘ]を消すことはできません。[ⓘ]をタッチしてお知らせメッセージを確認する（105ページ）。

タッチパネルのボタンが表示されない。

- 液晶画面を軽くタッチする。
- 画面表示/バッテリーインフォボタン（またはリモコンの画面表示ボタン）を押す（19ページ）。

タッチパネルのボタンが操作できない/正しく操作できない。

- 画面を調節（[キャリブレーション]）する（118ページ）。

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度調整つまみを画像がはっきり見えるように動かす（18ページ）。

ファインダーの画像が消えている。

- 液晶画面を閉じる。液晶画面が開いているとファインダーには画像は映りません（18ページ）。

カセットについて

カセットが取り出せない。

- 電源（バッテリーやACアダプター）が正しく接続されているか確認する（13ページ）。
- バッテリーを外して、もう1度取り付ける（13ページ）。
- 充電されたバッテリーを取り付ける（13ページ）。
- 本機が結露しかけている（117ページ）。

カセットメモリー付きカセットで、カセットメモリー表示やタイトル表示が出ない。

- 本機は、カセットメモリーに対応していないため、表示されません。

テープ残量表示が出ない。

- 常に表示させたいときは、[テープ残量表示]を[入]にする（67ページ）。

テープの巻き戻し、早送り時の音が大きい。

- ACアダプター使用時は、バッテリー使用時より高速になるため音が大きくなります。故障ではありません。

"メモリースティック デュオ"について

操作を受け付けない。

- 電源スイッチを「撮る－メモリー」または「見る/編集」にする（17ページ）。
- "メモリースティック デュオ"を入れる（22ページ）。
- パソコンでフォーマットした"メモリースティック デュオ"を入れている場合は、本機でフォーマットしなおす（58ページ）。

"メモリースティック デュオ"の画像を消去できない。

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"は、誤消去防止を解除する（113ページ）。
- プロテクトを解除する（78ページ）。
- インデックス表示で一度に消せる画像は100枚までになります。

"メモリースティック デュオ"の画像を全消去できない。

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"は、誤消去防止を解除する（113ページ）。
- プロテクトを解除する（78ページ）。

"メモリースティック デュオ"をフォーマットできない。

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"は、誤消去防止を解除する（113ページ）。

プロテクトが実行できない。

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"は、誤消去防止を解除する（113ページ）。
- インデックス表示にしてから、プロテクトを実行し直す（78ページ）。

プリントマークが実行できない。

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"は、誤消去防止を解除する（113ページ）。
- インデックス表示にしてから、プリントマークを実行し直す（78ページ）。
- プリントマークは1,000枚以上付けられません。

次のページへつづく→

データファイル名が正しくない。

- ディレクトリー構造が規格に準拠しないと、ファイル名のみ表示されることがある。
- ファイルが壊れている。ソニー製“メモリースティック　デュオ”をお使いのときは、下記のホームページをご覧ください。
  メモリースティック　データ復旧サービス
  http://www.sony.co.jp/Products/mssupport/datarescue/jp.html
- 本機で対応しているファイル形式を使う（113ページ）。

データファイル名が点滅している。

- ファイルが壊れている。ソニー製“メモリースティック　デュオ”をお使いのときは、下記のホームページをご覧ください。
  メモリースティック　データ復旧サービス
  http://www.sony.co.jp/Products/mssupport/datarescue/jp.html
- 本機で対応しているファイル形式を使う（113ページ）。

撮影について

「撮影時の画像調節について」（95ページ）、「“メモリースティック　デュオ”について」（93ページ）もご覧ください。

スタート/ストップボタンを押しても、テープが走行しない。

- 電源スイッチを「撮る－テープ」にする（28ページ）。
- テープが最後まで行っている。巻き戻すか、新しいカセットを入れる。
- カセットの誤消去防止ツマミをRECにする。または新しいカセットを入れる（111ページ）。
- 結露でテープがヘッドドラムに貼り付いている。カセットを取り出して、約1時間してから入れ直す（117ページ）。

“メモリースティック　デュオ”に撮影できない。

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック　デュオ”は、誤消去防止を解除する（113ページ）。
- メモリー容量いっぱいの場合は、不要な画像を消す（77ページ）。
- 本機で“メモリースティック　デュオ”をフォーマットし直すか（58ページ）、別の“メモリースティック　デュオ”を入れる（22ページ）。
- 本機では“メモリースティック　デュオ”に動画を記録することはできません。
- 電源スイッチが「撮る－テープ」で、次の設定のときは“メモリースティック　デュオ”に静止画を記録することはできません。
  – [ピクチャーエフェクト]
  – [デジタルエフェクト]
  – [フェーダー]実行中
  – [なめらかスロー録画]

電源スイッチの位置により画角が異なる。

- 「撮る－メモリー」のときの画角は「撮る－テープ」のときより広くなる。

テープできれいにつなぎ撮りできない。

- エンドサーチする（37ページ）。
- カセットを取り出さない（電源を切ってもきれいにつなぎ撮りできます）。
- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させない。
- 同じテープにSPとLPの両モードを混ぜてつなぎ撮りしない。DV
- LPモードでつなぎ撮りしない。DV
- ［クイック録画］が［入］のときは、きれいにつなぎ撮りできません（68ページ）。HDV1080i

静止画撮影時にシャッター音が出ない。

- ［操作音］を［入］にする（67ページ）。

フラッシュが発光しない。

- テープ撮影中、フラッシュ撮影はできません。
- コンバージョンレンズ（別売り）やフィルター（別売り）取り付け時は、本機のフラッシュ発光部がさえぎられるため、内蔵フラッシュは発光しません。
- 自動調節や⊙（自動赤目軽減）にしていても、次の設定のときフラッシュは自動発光しません。
  – ［プログラムAE］の［スポットライト］、［サンセット＆ムーン］または［風景］
  – ［スポット測光］
- 別売りのフラッシュの電源が入っていない。または、正しく取り付けられていない。

エンドサーチができない。

- 撮影後にカセットを取り出さない（37ページ）。
- カセットを入れてからエンドサーチするまでに、1回も撮影していない。

エンドサーチが誤動作する。

- テープの始めや途中に無記録部分があるためで、故障ではありません。

撮影時の画像調節について

「メニュー操作について」（100ページ）もご覧ください。

オートフォーカスができない。

- ［フォーカス］を［オート］にする（52ページ）。
- オートフォーカスが働きにくい状態のときは、手動でピントを合わせる（52ページ）。

[手ぶれ補正]ができない。

- [手ぶれ補正]を[入]にする（55ページ）。
- [なめらかスロー録画]中は[手ぶれ補正]は働きません。

逆光補正ができない。

- 次の設定にすると、逆光補正は解除されます。
  – [カメラ明るさ]の[マニュアル]
  – [スポット測光]
- シンプル操作中は、逆光補正ができません（26ページ）。

[フラッシュレベル]を変更できない。

- シンプル操作中は、[フラッシュレベル]（53ページ）を変更できません。

[デジタルズーム]ができない。

- [テレマクロ]中は[デジタルズーム]は働きません。

画面に白や赤、青、緑の点が出ることがある。

- [スローシャッター]、[SUPER NS]、[COLOR SLOW S]のときに出る現象で、故障ではありません。

画面を横切る被写体が曲がって見える。

- フォーカルプレーンと呼ばれる現象で、故障ではありません。撮像素子（CMOSセンサー）の画像信号を読み出す方法の性質により、撮影条件によっては、非常に速く画面を横切る被写体が少しゆがんで見えることがあります。

画像の色が正しくない。

- NightShotを解除する（31ページ）。

画面が白すぎて画像が見えない。

- 逆光補正を解除する（31ページ）。
- NightShotを解除する（31ページ）。

画面が暗すぎて画像が見えない。

- 画面表示/バッテリーインフォボタンを数秒間押したままにして、バックライトを点灯する（18ページ）。

画像が明るくなる、横帯が現れる、色が変化する。

- 蛍光灯･ナトリウム灯･水銀灯など放電管による照明下ではこのような症状が現れることがありますが、故障ではありません。[プログラムAE]（50ページ）を解除すると症状が軽減されます。

テレビやパソコンの画面を撮影すると黒い帯が出る。

- [手ぶれ補正]を[切]にする(55ページ)。

再生について

「"メモリースティック　デュオ"について」(93ページ)もご覧ください。

テープ再生ができない。

- 電源スイッチを「見る/編集」にする。
- テープを巻き戻す(29ページ)。

逆方向に変速再生ができない。

- HDV規格で記録したテープではできません。

"メモリースティック　デュオ"が正しい画像サイズや比率で再生できない。

- 他機で撮影した画像は、正しい画像サイズで表示されないことがあります。故障ではありません。

"メモリースティック　デュオ"の画像データが再生できない。

- 他機で"メモリースティック　デュオ"に記録した動画を本機で見ることはできません。
- パソコンでフォルダやファイル名を変更、または画像加工すると、再生できない場合があります(ファイル名が点滅)。故障ではありません(114ページ)。
- 他機で撮影した画像は、再生できないことがあります。故障ではありません(114ページ)。

画像に横線が入る、画像がぼけたり、映らなかったりする。

- ビデオヘッドが汚れているので、別売りのクリーニングカセットできれいにする(117ページ)。

他機で4CHマイク記録した音声が聞こえない。DV

- [音声ミックス]を調整する(64ページ)。

細かい模様がちらつく、斜めの線がギザギザになる。

- [シャープネス]で［ー］側に調整する(51ページ)。

困ったときは

音声が小さい。または聞こえない。

- ［バイリンガル］を［切］にする（65ページ）。
- 音量を大きくする（29ページ）。
- ［ 音声ミックス］を［ST2］側（アフレコ音声）から最適な音声になるまで調節する（64ページ）。
- S映像プラグまたはD端子コンポーネントビデオケーブルだけでつないでいるため。AV接続ケーブルの白と赤のプラグもあわせてつなぐ（40ページ）。
- なめらかスロー録画で記録した箇所には音声が記録されません。

画像や音声が途切れる。

- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、故障ではありません。

画像が一瞬静止画になる、音声が途切れる。

- テープやビデオヘッドに付着物があるときに起こる症状です（117ページ）。
- ソニー製のミニDVカセットを使用する。

［－ － －］が表示される。

- 日付時刻を設定しないで録画したテープを再生している。
- テープの無記録部分を再生している。
- テープに傷やノイズがあると、日時やカメラデータを読めません。

ノイズが現れ、画面上に PAL または 50i と表示される。

- テープに記録されているTVカラーシステムがPALなど、本機のカラーシステム（NTSC）と違うため（110ページ）。故障ではありません。

日付サーチが正しく操作できない。

- 日付を変更したときは、2分以上撮影する。撮影時間が短いと正しく検出されない場合があります。
- テープの始めや途中に無記録部分があると、日付サーチが正しく働かないことがあります。故障ではありません。

エンドサーチ、レックレビューのときに画像が出ない。

- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、故障ではありません。

i.LINKケーブルでテレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- テレビがHDV1080i方式に対応していない場合は、HD（ハイビジョン）画質で見ることはできません（40ページ）。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- HDV規格で撮影した映像をダウンコンバートしてDV（SD画質）で再生する（65ページ）。
- 他の接続ケーブルで接続して再生する（40ページ）。

D端子コンポーネントビデオケーブルでテレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- 接続する機器に合わせて 基本設定メニューの［コンポーネント出力］を正しく設定する（65ページ）。
- D端子コンポーネントビデオケーブルだけでつないでいるため。AV接続ケーブルの白と赤のプラグも合わせてつなぐ（40ページ）。

HDMIケーブルでテレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、HDMI出力端子から出力することはできません。
- i.LINKでDV入力された画像（75ページ）を出力することはできません。
- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、HDMIケーブルを抜き差しするか本機の電源を入れ直す。

4:3テレビにつないで再生したら上下に黒い帯が入って画像がつぶれて見える。

- ワイド（16:9）で撮影したテープを4:3テレビで見るときに起こる現象で、 基本設定メニューの［TVタイプ］を設定して再生する（66ページ）。

画面上に♪4ch-12bが表示される。

- 他機で4CHマイク記録されたテープを再生しているときに表示されます。本機は4CHマイク記録には対応していません。

リモコンについて

付属のワイヤレスリモコンが操作できない。

- ［リモコン］を［入］にする（67ページ）。
- リモコンと本機リモコン受光部の間にある障害物を取り除く。
- 本機のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていると、リモコン操作できないことがある。
- 電池を交換する。電池の＋極と－極を正しく入れる（119ページ）。
- コンバージョンレンズ（別売り）を付けていると、リモコン受光部を妨げることがあるため、コンバージョンレンズを外す。

リモコン操作中にほかのビデオが誤動作する。

- ビデオのリモコンスイッチをVTR2以外のモードに切り換える。
- 黒い紙でビデオのリモコン受光部をふさぐ。

メニュー操作について

メニュー項目が灰色で表示される。

- その撮影/再生条件では選択できません。

P.メニューが表示されない。

- シンプル操作中は使用可能なメニューが限られます。シンプル操作を解除する（26ページ）。

[プログラムAE]ができない。

- 次の設定のとき、[プログラムAE]はできません。
  – NightShot
  – [デジタルエフェクト]の[オールドムービー]または[シネマチックエフェクト]
  – [COLOR SLOW S]
  – [テレマクロ]

[スポット測光]ができない。

- 次の設定のとき、[スポット測光]はできません。
  – NightShot
  – [デジタルエフェクト]の[シネマチックエフェクト]
  – [COLOR SLOW S]
- [プログラムAE]を設定すると[スポット測光]は[オート]に戻る。

[カメラ明るさ]を手動で調節できない。

- 次の設定のとき、手動で明るさを調節できません。
  – NightShot
  – [COLOR SLOW S]
  – [デジタルエフェクト]の[シネマチックエフェクト]
- [プログラムAE]を設定すると[カメラ明るさ]は[オート]に戻る。

[ホワイトバランス]を調節できない。

- NightShotのときは、[ホワイトバランス]は調節できません。

[シャープネス]が調節できない。

- [デジタルエフェクト]の[シネマチックエフェクト]中は、[シャープネス]は調整できません。

[AEシフト]が操作できない。

- 次の設定のとき、[AEシフト]はできません。
  – [デジタルエフェクト]の[シネマチックエフェクト]
  – [カメラ明るさ]が[マニュアル]のとき

[スポットフォーカス]ができない。

- [プログラムAE]中は、[スポットフォーカス]はできません。

[テレマクロ]ができない。

- 次の設定のとき、[テレマクロ]はできません。
  – [プログラムAE]
  – テープに動画を録画中

[COLOR SLOW S]が正しくできない。

- まったく光のない場所では、[COLOR SLOW S]が正しく働かないときがあるため、NightShotまたは[SUPER NS]で撮影する。
- 次の設定のとき、[COLOR SLOW S]は働きません。
  – [フェーダー]
  – [デジタルエフェクト]
  – [プログラムAE]
  – [カメラ明るさ]が[マニュアル]のとき
  – [スポット測光]
  – NightShot

[ヒストグラム]が表示されない。

- 日付時刻表示中は[ヒストグラム]は表示されません。
- 下記の場合、⊘が表示されて[ヒストグラム]は表示されません。
  – [デジタルズーム]中
  – [デジタルエフェクト]中

[フェーダー]ができない。

- 次の設定のとき、[フェーダー]はできません。
  – [セルフタイマー]
  – [SUPER NS]
  – [COLOR SLOW S]
  – [デジタルエフェクト]

[デジタルエフェクト]ができない。

- 次の設定のとき、[デジタルエフェクト]はできません。
  – [SUPER NS]
  – [COLOR SLOW S]
  – [フェーダー]

次のページへつづく➡

- 次の設定のとき、[オールドムービー]は働きません。
  – [ピクチャーエフェクト]
  – [プログラムAE]
  – [DV設定]の[ワイド切換]が[4:3]のとき
- 次の設定のとき、[シネマチックエフェクト]は働きません。
  – [カメラ明るさ]が[マニュアル]のとき
  – [AEシフト]が0以外のとき
  – [ピクチャーエフェクト]
  – [DV設定]の[ワイド切換]が[4:3]のとき
  – [プログラムAE]
  – [スポット測光]

[ピクチャーエフェクト]ができない。

- [デジタルエフェクト]の[オールドムービー]または[シネマチックエフェクト]中は、[ピクチャーエフェクト]はできません。

[なめらかスロー録画]ができない。

- 次の設定のとき、[なめらかスロー録画]はできません。
  – [SUPER NS]
  – [COLOR SLOW S]
  – [デジタルエフェクト]
  – [ピクチャーエフェクト]
- エンドサーチ中は[なめらかスロー録画]はできません。

ダビング、編集、外部機器接続について

つないだ機器（外部入力）の映像が拡大できない。

- 外部入力している画像は本機でズームできません。

つないだ機器の画面にタイムコードなどが表示される。

- AV接続ケーブルを使って接続するときは、メニューの[画面表示出力]を[パネル]にする（67ページ）。

AV接続ケーブルを使ってダビングができない。

- AV接続ケーブルでつないだ機器から外部入力することはできません。
- AV接続ケーブルが正しくつながれていない。
  AV接続ケーブルが他機の入力端子へつながれているか確認する。

ダビング編集中、i.LINKケーブルを接続しているのに、モニターに画像が出ない。

- 接続する機器に合わせて 基本設定メニューの[ビデオ HDV/DV]を正しく設定する（63ページ）。

追加録音（アフレコ）できない。

- 本機ではアフレコすることはできません。

HDMIケーブルを使ってダビングができない。

- HDMIケーブルを使ってのダビングはできません。

他機でアフレコした音声が聞こえない。DV

- ［音声ミックス］を［ST1］（オリジナルテープ音声）側から最適な音声になるまで調節する（64ページ）。

テープから“メモリースティック　デュオ”へ静止画を取り込めない。

- 繰り返しダビングしているなど記録状態の悪いテープは、録画できなかったり、乱れた画像が記録されたりすることがあります。

パソコンとの接続について

本機がパソコンに認識されない。USB i.LINK

- パソコンと本機からケーブルを抜き、もう1度しっかりと差し込む。
- キーボード、マウス以外で、パソコンの（USB）端子につながれている他の機器を取り外す。
- パソコンと本機からケーブルを抜き、パソコンを再起動させてから、正しい手順でもう1度パソコンと本機をつなぐ。

パソコンで本機が映している映像が見られない。i.LINK

- ケーブルを抜き、本機の電源を入れてから、もう1度つなぐ。

テープの画像がパソコン画面に表示されない。i.LINK

- ケーブルを抜き、本機の電源を入れてから、もう1度つなぐ。
- USBケーブルでは取り込めないため、i.LINKケーブルでつなぐ。

“メモリースティック　デュオ”の画像がパソコン画面で見られない。USB

- “メモリースティック　デュオ”の向きを確かめて、本機に奥までしっかりと入れる。
- i.LINKケーブルでは取り込めないため、USBケーブルで取り込む。
- 本機の電源スイッチを「見る/編集」にして［USB機能選択］を［パソコン接続メモリースティック］にする（61ページ）。
- テープ再生中や編集中など、本機を操作していると“メモリースティック　デュオ”はパソコンに認識されません。本機の操作を終了してから、もう1度パソコンとつなぐ。

パソコンがハングアップする i.LINK

- 接続する機器に合わせて、基本設定メニューの［ビデオ HDV/DV］を正しく設定する。シンプル操作中は、シンプル操作を解除してからメニューを操作する（26ページ）。
- パソコンと本機からケーブルを抜き、パソコンを再起動してから正しい手順でもう1度パソコンと本機をつなぐ（82ページ）。

［リムーバルディスク］がパソコン画面に表示されない。USB

- 本機の電源スイッチを「見る/編集」にして［USB機能選択］を［パソコン接続メモリースティック］にする（61ページ）。
- 本機に“メモリースティック　デュオ”を入れる。
- キーボード、マウス、本機以外で、パソコンの（USB）端子につながれている他の機器を取り外す。
- テープ再生中や編集中など、本機を操作していると“メモリースティック　デュオ”はパソコンに認識されません。本機の操作を終了してから、もう1度パソコンとつなぐ。

Windowsパソコンに画像の転送ができない。USB

- 次の手順で、“メモリースティック　デュオ”の画像をパソコンに表示する。
  1. ［マイコンピュータ］をダブルクリックする。
  2. 新しく認識された［リムーバブルディスク］のアイコンをダブルクリックする。
     表示されるまで時間がかかることがあります。
  3. 画像ファイルをダブルクリックする。

ソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズにインストールされているソフトウェア「DVgate」を使ってDV規格の画像の編集をしようとすると、本機を認識しない。DV

- 「DVgate/DVgate Motion/DVgate Still」のバージョンが
  DVgate Ver.2.2.00/01
  DVgate Ver.2.1.xx
  DVgate Ver.2.0.xx
  DVgate Motion Ver.1.4.xx/DVgate Still Ver.1.2.xx
  に該当する場合は、本機との接続について詳しくは、下記のホームページをご覧ください。
  ハンディカムホームページ「サポート＆修理」
  http://www.sony.co.jp/cam/support/

ソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズにインストールされているソフトウェア「DVgate Plus Ver.1.3」を使ってHDV規格で撮影した画像の編集ができない。HDV1080i

- 「DVgate Plus Ver.1.3.XX」を「DVgate Plus Ver.2.0」にアップグレードする必要があります。詳しくは下記のホームページをご覧ください。
  http://vcl.vaio.sony.co.jp/

警告表示とお知らせメッセージ

自己診断表示/警告表示

液晶画面またはファインダーに、次のように表示されます。
お客様自身で対応できる場合でも、2、3回繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

C:（またはE:）□□:□□（自己診断表示）

C:04:□□

- "インフォリチウム"以外のバッテリーが使われている。必ず"インフォリチウム"バッテリーを使う（115ページ）。
- ACアダプターのDCプラグを本機のDC IN端子にしっかりつなぐ（13ページ）。

C:21:□□

- 結露している。カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す（117ページ）。

C:22:□□

- ビデオヘッドが汚れている。別売りのクリーニングカセットできれいにする（117ページ）。

C:31:□□/C:32:□□

- 上記以外の症状になっている。カセットを入れ直し、もう1度操作し直す。ただし、本機が結露気味のときは、この操作をしないでください（117ページ）。
- 電源をいったん取り外し、取り付け直してからもう1度操作し直す。
- カセットを交換する。リセットボタン（33ページ）を押してからもう1度操作し直す。

E:61:□□/E:62:□□/E:91:□□

- 修理が必要なため、テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にご連絡いただき、Eから始まる数字すべてをお知らせください。

101-1001（ファイル関連の警告）

- ファイルが壊れている。
- 扱えないファイル（113ページ）。

（バッテリー残量に関する警告）

- バッテリー残量が少ない。
- 使用状況や環境、バッテリーパックによっては、バッテリー残量が約5～10分でも警告表示が点滅することがある。

（結露の警告）*

- カセットを取り出し、電源を外して、カセット入れを開けたまま、約1時間放置する（117ページ）。

（"メモリースティック　デュオ"関連の警告）

- "メモリースティック デュオ"が入っていない（22ページ）。

（"メモリースティック　デュオ"フォーマット関連の警告）*

- "メモリースティック　デュオ"が壊れている。
- "メモリースティック　デュオ"が正しくフォーマットされていない（58、113ページ）。

（非対応"メモリースティック　デュオ"関連の警告）*

- 本機では使えない"メモリースティック　デュオ"を入れた（113ページ）。

(テープ関連の警告)

遅い点滅

- テープ残量が5分を切った。
- カセットが入っていない。*
- カセットが誤消去防止状態になっている(111ページ)。*

速い点滅

- テープが終わっている。*

⏏(テープを取り出す必要がある警告)*

遅い点滅

- カセットが誤消去防止状態になっている(111ページ)。

速い点滅

- 結露している(117ページ)。
- 自己診断表示が表示されている(105ページ)。

(画像消去に関する警告)*

- 画像が消去できないようになっている(78ページ)。

(“メモリースティック デュオ”誤消去防止に関する警告)*

- “メモリースティック デュオ”が誤消去防止状態になっている(113ページ)。

(フラッシュ関連の警告)

遅い点滅

- 充電中

速い点滅

- 自己診断表示が表示されている(105ページ)。*
- フラッシュに異常がある。

(手ぶれ警告)

- 光量不足のため、手ぶれが起こりやすい状況になっているので、フラッシュを使う。
- 手ぶれが起こりやすくなっているので、本機を両手でしっかりと固定して撮影する。ただし、手ぶれマークは消えません。

* 警告表示が出るときに、「操作音」が鳴ります(67 ページ)。

お知らせメッセージの説明

お知らせメッセージが表示されたときは、その指示に従ってください。

- [OK]が表示されているときは、タッチすると、メッセージが[ⓘ]になることがあります。[ⓘ]をタッチすると、再びメッセージが表示されます。

■ バッテリー/電源

“インフォリチウム”バッテリーを使ってください(115ページ)

ACアダプタを交換、または挿しなおしてください(13ページ)

バッテリーを取りかえてください
(13、115ページ)

このバッテリーは古くなりました　取りかえてください(115ページ)

⏏電源を取り付けなおしてください
(13ページ)

■ 結露

[結露アイコン]⏏結露しています カセットを取り出してください（117ページ）

[結露アイコン]結露しています 約1時間放置してください（117ページ）

■ カセット/テープ

[カセットアイコン]カセットを入れてください（21ページ）

⏏カセットを入れなおしてください（21ページ）

- テープの損傷などがないかも確認する。

[カセットアイコン]⏏カセットの誤消去防止ツマミを確認してください（111ページ）

[カセットアイコン]テープが終わっています（21、29ページ）

- テープを巻き戻すか交換する。

■ "メモリースティック　デュオ"

[メモリースティックアイコン] メモリースティックを入れてください（22ページ）

[メモリースティックアイコン] メモリースティックを入れなおしてください（22、113ページ）

- "メモリースティック　デュオ"を2、3回入れ直す。それでも表示されるときは"メモリースティック　デュオ"が壊れている可能性があるので交換する。

読み出し専用のメモリースティックです

- 書き込みができる"メモリースティック　デュオ"を入れる。

[?] 非対応のメモリースティックです

- 本機では使えない"メモリースティック　デュオ"が入っている（113ページ）。

[メモリースティックアイコン] このメモリースティックはフォーマットが違います

- "メモリースティック　デュオ"のフォーマットを確認し、必要ならばフォーマットする（58、113ページ）。

このメモリースティックは空き容量がたりません　これ以上は記録できません

- 不要な画像を消す（77ページ）。

[メモリースティックアイコン] [鍵アイコン]メモリースティックの誤消去防止ツマミを確認してください（113ページ）

再生できません　メモリースティックを入れなおしてください（22ページ）

記録できません　メモリースティックを入れなおしてください（22ページ）

ファイルがありません

- "メモリースティック　デュオ"になにも記録されていない、または認識できる画像がない。

メモリースティックのフォルダがいっぱいです

- 作成できるフォルダは、999MSDCFまでです。本機でフォルダ消去はできません。
- フォーマットするか（58ページ）、パソコンで不要なフォルダを消去する。

メモリースティックに静止画記録できない状態です（94ページ）

■ デュアル記録

動画録画中の撮影可能枚数を超えました　録画中はメモリースティックを抜かないでください

- 撮影可能枚数(3枚)を超えているときフォトキーを押すと表示される(30ページ)。

静止画の記録ができませんでした

- デュアル記録したときは、テープ撮影を終了して"メモリースティック　デュオ"への記録が完了するまで、本機から"メモリースティック　デュオ"を抜かないでください(30ページ)。

■ PictBridge対応プリンター

接続先を確認してください

- プリンターの電源を入れなおし、USBケーブルをいったん抜いてからもう1度つなぐ。

PictBridge対応プリンターと接続してください

- プリンターの電源を入れなおし、USBケーブルをいったん抜いてからもう1度つなぐ。

異常が確認されました　中止してください

- プリンターを確認する。

プリントできません　プリンターを確認してください

- プリンターの電源を入れなおし、USBケーブルをいったん抜いてからもう1度つなぐ。

■ フラッシュ

充電中です　静止画記録はできません

- フラッシュの充電中に静止画記録しようとしている。

レンズアクセサリーが装着されています　フラッシュ発光できません(31ページ)

■ レンズカバー

レンズカバーが開ききっていません　電源を入れなおしてください(17ページ)

レンズカバーを閉じられませんでした　レンズカバーを閉じたい場合は電源を入れなおしてください(17ページ)

■ その他

コピープロテクトされています　記録できません(111ページ)

非対応のフォーマットです

- 対応していないフォーマットのため、再生できません。

この"ビデオ HDV/DV"設定では表示できない信号です。表示するには設定を変更してください。

- 再生や信号入力を停止するか、[ビデオ HDV/DV]設定を変更してください(63ページ)。

⊗ ヘッドが汚れています　クリーニングカセットを使ってください
（117ページ）

シンプル操作に設定できません
（90ページ）

シンプル操作を解除できません
（90ページ）

音声を出力するにはAV接続ケーブル（付属）の白と赤のプラグ（音声）も接続してください（40ページ）

海外で使う

電源について

本機は、海外でも使えます。
付属のACアダプターは、全世界の電源（AC100V～240V、50/60Hz）で使えます。また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国や地域では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器（トラベルコンバーター）は使わないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米	主にヨーロッパなど
使用する変換プラグアダプター	不要	

HDV規格で記録した再生画像をHDV規格で見るには HDV1080i

HDV規格で記録した再生画像をHDV規格で見るには、HDV1080i方式対応のテレビ（またはモニター）とコンポーネントケーブル、AV接続ケーブルが必要です。
HDV1080i方式に対応している主な国、地域は、「テレビ方式がNTSCの国、地域」を参照してください。

DV規格で記録した再生画像をDV規格で見るには DV

DV規格で記録した再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC、下記参照）で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）と接続ケーブルが必要です。

テレビ方式がNTSCの国、地域（五十音順）

アメリカ合衆国、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、カナダ、キューバ、グアテマラ、グアム、コスタリカ、コロンビア、サモア、スリナム、セントルシア、大韓民国、台湾、チリ、ドミニカ、トリニダード･トバゴ、ニカラグア、日本、ハイチ、パナマ、バミューダ、バルバドス、フィリピン、プエルトリコ、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、ホンジュラス、ミクロネシア、ミャンマー、メキシコ など

時差補正機能ついて

海外で使うとき、時間設定メニューの[時差補正]を選ぶと、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせられます（68ページ）。

HDV規格と記録・再生について

本機は、HDV規格とDV規格の両方の記録機能を搭載したビデオカメラレコーダーです。本機は、ミニDVカセットのみ使えます。

Mini DV マーク付きカセットを使ってください。

本機は、カセットメモリー非対応です。

HDV規格とは

DVカセットにデジタルハイディフィニション(HD)映像の記録・再生ができるように開発されたビデオ方式です。

本機では、有効走査線数1,080本のインターレース方式(1080i、画素数1,440×1,080ドット)を採用しています。

記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。

デジタルインターフェースにi.LINKを採用し、HDVに対応するテレビやパーソナルコンピューターとのデジタル接続が可能です。

- HDV映像信号の圧縮方式は、BSデジタルや地上デジタルのハイビジョン放送やブルーレイディスクレコーダーなどで採用されているMPEG2方式です。

再生について

DV規格とHDV規格の1080i方式の両方を再生できます。

本機ではHDV規格の720/30pで記録した画像を再生できますが、i.LINK端子(i HDV/DV端子)から出力することはできません。

無記録部分を作らないために

テープを再生したときは、次の撮影の前にエンドサーチ(37ページ)を行って撮影終了位置に戻します。

著作権保護信号について

■ 再生するとき

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

■ 記録するとき

著作権保護のための信号が記録されている映像音声は本機で記録することはできません。このような映像音声を記録しようとすると、液晶画面またはファインダーに[コピープロテクトされています　記録できません]が表示されます。なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

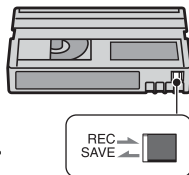
取り扱い上のご注意

■ 長い間使わないときは

本機からカセットを取り出して保管してください。

■ 間違って消さないために

カセットの背にある誤消去防止ツマミをSAVEの矢印のほうへずらします。

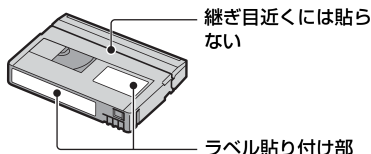


REC：録画できる。
SAVE：録画できない。
(誤消去防止状態)

■ ラベルは指定の位置に

カセットにラベルは、指定の位置に正しく貼ってください。指定以外の位置に貼ると故障の原因になります。

その他

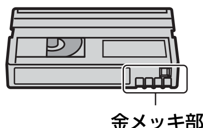


■ カセットの使用後は

必ずテープを巻き戻してください(画像や音声が乱れる原因となります)。巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

■ 金メッキ端子のお手入れ

カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、テープ残量表示などが正しく表示されないことがあります。カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。



HDV1080i方式(i.LINK)対応のテレビについて HDV1080i

HDV規格で記録した再生画像を見るには、ハイビジョン対応テレビ(D3端子付きまたはHDMI端子付き)をおすすめします。

また、HDV1080i方式(i.LINK)対応のテレビと本機を接続するときは、i.LINKケーブルでつなぐことをおすすめします。(表参照)

お手持ちのテレビがHDV1080i方式(i.LINK)に対応しているかどうかについては、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

HDV1080i方式(i.LINK)対応のソニー製テレビの型名
KDL-L42HX2, KDL-L32HX2, KDL-L28HX2, KDL-L32RX2, KDL-L26RX2, KDL-L23RX2, KDL-L40HVX, KDL-L32HVX, KDL-L26HVX, KDX-46Q005, KDX-40Q005, KDL-46X1000, KDL-40X1000, KDE-P61HX2N, KDE-P50HX2N, KDE-P42HX2N, KDE-P61HX2, KDE-P55HX2, KDE-P50HX2, KDE-P42HX2, KDE-P42HV2, KDE-P37HV2, KDE-P32HV2, KDE-P50HVX, KDE-P42HVX, KDE-P37HVX, KD-36HR500, KD-32HR500, KD-28HR500, KD-28HR500B, KDS-70Q006など

2006年2月1日現在
(発売予定のモデルも含む)
最新の情報は裏表紙の「デジタルハンディカムの最新サポート情報」のホームページをご覧ください。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”(“Memory Stick”)は小さくて軽いのに、フロッピーディスクより大容量のIC記録メディアです。
本機は、標準の“メモリースティック”の約半分の大きさの“メモリースティック デュオ”のみ使えます。ただし、すべての“メモリースティック デュオ”の動作を保証するものではありません。

“メモリースティック”の種類	記録/再生
メモリースティック(マジックゲート非対応)	–
メモリースティック デュオ*1(マジックゲート非対応)	○
マジックゲート メモリースティック	–
メモリースティック デュオ*1(マジックゲート対応)	○*2*3
マジックゲート メモリースティック デュオ*1	○*3
メモリースティック PRO	–
メモリースティック PRO デュオ*1	○*2*3

*1 標準の約半分大のサイズです。

*2 高速データ転送に対応した“メモリースティック”です。転送速度はお使いになる機器により異なります。

*3 “マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能を使ったデータは記録/再生できません。

- 静止画の圧縮形式:本機は、撮影した静止画データをJPEG(Joint Photographic Experts Group)方式で圧縮/記録しています。ファイル拡張子は「.JPG」です。
- 静止画の画像のデータファイル名:
  - 本機の画面表示:101-0001
  - パソコンの画面表示:DSC00001.JPG
- パソコン(Windows OS/Mac OS)でフォーマット(初期化)した“メモリースティック”は、本機での動作を保証いたしません。
- お使いの“メモリースティック”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。

誤消去防止スイッチ付き“メモリースティック デュオ”では

先の細いものでスライドさせて、「LOCK」にすると、記録されているデータを誤って消去しないようにできます。

取り扱い上のご注意

次の場合、画像ファイルが破壊されることがあります。破壊された場合、内容の補償については、ご容赦ください。

- 画像ファイルを読み込み中や、“メモリースティック デュオ”にデータを書き込み中(アクセスランプが点灯中および点滅中)に、“メモリースティック デュオ”を取り出したり、本機の電源を切ったりした場合
- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合

大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップを取っておくことをおすすめします。

■ 取り扱いについて

次のことを守ってください。

- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- “メモリースティック デュオ”本体およびメモリースティック デュオ アダプターにラベルなどは貼らないでください。
- 持ち運びや保管の際は、“メモリースティック デュオ”に付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。

次のページへつづく➡

- 水にぬらさないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込む恐れがあります。
- "メモリースティック　デュオ"スロットには、"メモリースティック　デュオ"以外は入れないでください。故障の原因となります。

■ 使用場所について

次の場所での使用や保管は避けてください。

- 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

■ メモリースティック　デュオ　アダプターの使用について

"メモリースティック　デュオ"をメモリースティック　デュオ アダプターに挿入すると、標準の"メモリースティック"対応機器でもご使用になれます。

- "メモリースティック　デュオ"を"メモリースティック"対応機器でお使いの場合は、必ず"メモリースティック　デュオ"をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れてからお使いください。
- "メモリースティック　デュオ"をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れるときは、正しい挿入方向をご確認の上、奥まで差し込んでください。差し込みかたが不充分だと正常に動作しない場合があります。また、逆向きで無理に入れると、メモリースティック　デュオ　アダプターが破損し故障の原因となります。
- メモリースティック　デュオ　アダプターに"メモリースティック　デュオ"が装着されない状態で、"メモリースティック"対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

■ "メモリースティック　PRO　デュオ"についてのご注意

- 本機で動作確認されている"メモリースティック　PRO　デュオ"は2GBまでです。
- 使用可能な"メモリースティック　デュオ"の最新情報についてはホームページ上の「メモリースティック対応表」をご確認ください(裏表紙)。

画像の互換性について

- 本機は(社)電子情報技術産業協会にて制定された統一規格"Design rule for Camera File system"に対応しています。
- 統一規格に対応していない機器(DCR-TRV900、DSC-D700/D770)で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用した"メモリースティック　デュオ"が本機で使えないときは、58ページの手順にしたがい本機でフォーマット(初期化)をしてください。フォーマットすると"メモリースティック　デュオ"に記録してあるデータはすべて消去されますので、ご注意ください。
- 次の場合、正しく画像を再生できないことがあります。
  – パソコンで加工した画像データ
  – 他機で撮影した画像データ

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーについて

本機は"インフォリチウム"バッテリー(Pシリーズ)のみ使用できます。それ以外のバッテリーは使えません。"インフォリチウム"バッテリーPシリーズには InfoLITHIUM P SERIES マークがついています。

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーとは?

"インフォリチウム"バッテリーは、本機や別売りのACアダプター/チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
"インフォリチウム"バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。
別売りのACアダプター/チャージャーを使うと、使用可能時間や充電終了時間も計算して表示します。

充電について

- 本機を使う前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10〜30℃の範囲で、充電ランプが消えるまで充電することをおすすめします。これ以外では効率の良い充電ができないことがあります。
- 充電終了後は、ACアダプターを本機のDC IN端子から抜くか、バッテリーを取り外してください。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が10℃未満になるとバッテリーの性能が低下するため、使える時間が短くなります。安心してより長い時間使うために、次のことをおすすめします。
  – バッテリーをポケットなどに入れてあたたかくしておき、撮影の直前、本機に取り付ける。
  – 高容量バッテリー「NP-FP71/FP90(別売り)」を使う。
- 液晶画面の使用や再生/早送り/巻き戻しなどを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
  高容量バッテリー「NP-FP71/FP90(別売り)」のご使用をおすすめします。
- 本機で撮影や再生中は、こまめに電源スイッチを切るようにしましょう。撮影スタンバイ状態や再生一時停止中でもバッテリーは消耗しています。
- 撮影には予定撮影時間の2〜3倍の予備バッテリーを準備して、事前にためし撮りをしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。ぬらさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再び満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし、長時間高温で使ったり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安として使ってください。
- バッテリー残量時間が約5〜10分でも、ご使用状況や周囲の温度環境によってはバッテリー残量が残り少なくなったことを警告する マークが点滅することがあります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取り外して、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、 基本設定メニューで[自動電源オフ]を[なし]に設定し、電源が切れるまで撮影スタンバイにしてください(67ページ)。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

i.LINK(アイリンク)について

本機のHDV/DV端子はi.LINKに準拠した端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

- i.LINKケーブルで本機と接続できる機器は通常１台だけです。複数接続できるHDV/DV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
- IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、次の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。

最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbps とは？

「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のi.LINK端子付きビデオとつないでダビングする方法については74ページをご覧ください。
また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK対応機器（パーソナルコンピューターVAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。
なお、デジタルテレビ、DVD、MICROMV、HDVなどの映像機器には、i.LINK端子を搭載しながらも、本機とは対応できない仕様のものがあります。接続の際はあらかじめHDV/DV対応の有無をご確認ください。
接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

必要なi.LINKケーブル

ソニー製i.LINKケーブルを使ってください。
4ピン↔4ピン（HDV/DVダビング時）

取り扱い上のご注意とお手入れ

使用や保管場所について

使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。

- 異常に高温、低温または多湿になる場所
  炎天下や熱器具の近く、夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動や強力な磁気のある場所
  故障の原因になります。
- 強力な電波を出す場所や放射線のある場所
  正しく撮影できないことがあります。
- TV、ラジオやチューナーの近く
  雑音が入ることがあります。
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  砂がかかると故障の原因になるほか、修理できなくなることもあります。
- 液晶画面やファインダー、レンズが太陽に向いたままとなる場所（窓際や室外など）
  液晶画面やファインダー内部を傷めます。

■ 長時間使用しないときは

- 3分間ほど再生するなどして、ときどき電源を入れてください。
- バッテリーは使い切ってから、保管してください。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、[💧⏏結露しています カセットを取り出してください]または[💧結露しています 約1時間放置してください]と警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

■ 結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、⌐OPEN/EJECTつまみ以外は働きません。
電源を切ってカセットカバーを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても💧や⏏が点滅しなければ使えます。
結露気味のときは、本機が結露を検出できないことがあります。このようなときは、カセットカバーを開けてから約10秒間カセットが出てこないことがありますが、故障ではありません。
カセットが出てくるまでカセットカバーを閉めないでください。

■ 結露が起こりやすいのは

次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

■ 結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドについて

HDV規格で記録したテープを再生すると、まれに再生中の画像と音声が一瞬（約0.5秒）停止することがあります。
テープやビデオヘッドに付着物があるなどしてHDV規格の信号をテープに正しく記録、再生できなかった時に起こる現象で、カセットによってはごくまれに、新品またはご利用期間が短いにもかかわらず発生することがあります。
再生時に起きたときは、テープを少し送って巻き戻すと問題なく見ることができる場合がありますが、記録時に起きたときは、その部分を修復することはできません。

次のページへつづく➡

このような事態を予防するためにもソニー製ミニDVカセットのご使用をおすすめします。

- 以下のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットDVM-12CLDを10秒間再生してビデオヘッドをきれいにしてください。
  - 再生画面の一部が動かない。
  - 再生画像が出ない。
  - 音声が途切れる。
  - 録画中に[⊗ ヘッドが汚れています クリーニングカセットを使ってください]が表示される。
  - HDV規格のときに以下の現象が起こる。




再生画像が一時停止する　再生画像が消える（青1色の画面）

  - DV規格のときに以下の現象が起こる。




四角いノイズが出る。



再生画像が消える（青1色の画面）

- ビデオヘッドは長時間使うと摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

液晶画面について

- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、異常ではありません。
- 使用中に液晶画面のまわりが熱くなりますが、故障ではありません。

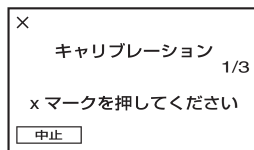
■ お手入れ

液晶画面に指紋やゴミが付いて汚れたときは、柔らかい布などで拭いてください。別売りの液晶クリーニングキットを使うときは、クリーニングリキッドを直接液晶画面にかけず、必ずクリーニングペーパーに染み込ませて使ってください。

■ 画面調節（キャリブレーション）について

タッチパネルのボタンを押したとき、反応するボタンの位置にずれが生じることがあります。
このような症状になったときは、次の操作を行ってください。本機とコンセントを、付属のACアダプターでつないで電源を取ってください。

① 電源スイッチを「見る / 編集」にする。
② 本機からACアダプター以外のケーブル類を外し、カセットと"メモリースティック デュオ"を取り出す。
③ P.メニュー→[メニュー]→ 基本設定 →[キャリブレーション]→ OK をタッチ。



④ "メモリースティック　デュオ"の角のような先の細いものを使って、画面に表示される×マークを押す。×マークの位置は変わります。
解除するには[中止]をタッチ。

正しい位置を押さなかった場合、やり直しになります。

- 液晶画面を外側に向けたときは、キャリブレーションできません。

本機表面のお手入れについて

- 汚れのひどいときは、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。
- 本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、次のことは避けてください。
  - シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、殺虫剤、日焼け止めのような化学薬品類。
  - 上記が手に付いたまま本機を扱う。
  - ゴムやビニール製品との長時間接触。

レンズのお手入れと保管について

- レンズ面に指紋などが付いたときや、高温多湿の場所や海岸など塩の影響を受ける環境で使ったときは、必ず柔らかい布などでレンズの表面をきれいに拭いてください。
- 風通しの良いゴミやほこりの少ない場所に保管してください。
- カビの発生を防ぐために、上記のお手入れは定期的に行ってください。また本機を良好な状態で長期にわたって使っていただくためにも、月に1回程度、本機の電源を入れて操作することをおすすめします。

内蔵の充電式電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために、充電式電池を内蔵しています。充電式電池は本機がACアダプターでコンセントにつながっているか、バッテリーが入っている限り常に充電されています。ACアダプターで電源につながない、またはバッテリーを入れないままで**3か月**近くまったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使ってください。

ただし、充電式電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使えます。

■ **充電方法**

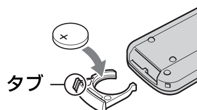
本機を付属のACアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切(充電)」にして24時間以上放置する。

リモコンの電池を交換するには

① タブを内側に押し込みながら、溝に爪をかけて電池ケースを引出す。

② ＋面を上にして新しい電池を入れる。

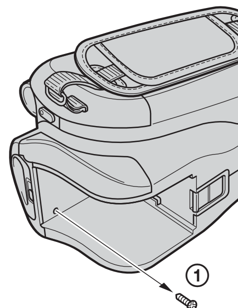
③ 電池ケースを「カチッ」というまで差し込む。



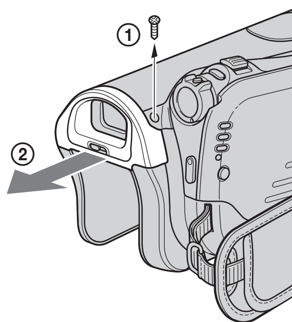
- リモコンには、ボタン型リチウム電池(CR2025)が内蔵されています。CR2025以外の電池を使用しないでください。

ファインダーのお手入れについて

1 アイカップを外す。

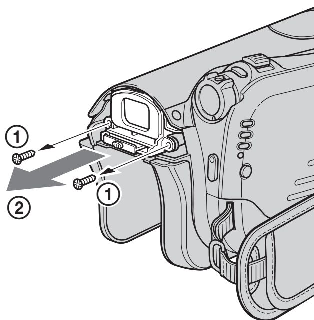


その他



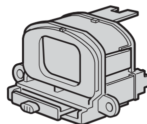
① ファインダーの下と右側の2本のネジをドライバを使って外す。
② 矢印の方向にアイカップをずらして外す。

2 **ファインダーレンズブロックを外す。**



① ファインダーレンズブロックの右下と左下の2本のネジをドライバを使って外す。
② 矢印の方向にファインダーレンズブロックをずらして外す。

3 **ファインダーレンズブロックについているゴミをカメラレンズ用のブロワーブラシなどで取り除く。**



- ファインダーレンズブロックは精密部品のため、これ以上分解しないでください。
- ファインダーレンズブロックののぞき窓部やレンズ部には触れないでください。

4 **本体のファインダーレンズブロック取り付け部についているゴミをカメラ用のブロワーブラシで取り除く。**

- 精密部品のため、本機をこれ以上分解しないでください。

5 **手順1～4を逆手順で行い、組み立てる。**

取り扱い上のご注意

必要以上のネジを外さないでください。

“メモリースティック　デュオ”を廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による［フォーマット］や［削除］では、“メモリースティック　デュオ”内のデータは完全には消去されないことがあります。廃棄/譲渡の際は、“メモリースティック　デュオ”本体を物理的に破壊するか、市販のパソコンによるデータ消去専用ソフトなどを使って“メモリースティック　デュオ”内のデータを完全に消去することをおすすめします。

主な仕様

システム

録画方式（HDV）	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録画方式（DV）	回転2ヘッドヘリカルスキャン
静止画記録方式	Exif Ver.2.2*1
録音方式（HDV）	回転ヘッド MPEG-1 Audio Layer2 16ビット48kHz（ステレオ） 転送レート 384kbps
録音方式（DV）	回転ヘッド 12ビット32kHz （ステレオ1、ステレオ2） 16ビット48kHz（ステレオ）
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式 1080/60i方式
使用可能カセット	Mini DV マークのついたミニDVカセット
テープ速度（HDV）	約18.81mm/秒
テープ速度（DV）	SP：約18.81mm/秒 LP：約12.56mm/秒
録画/再生時間（HDV）	60分（DVM60使用時）
録画/再生時間（DV）	SP：60分（DVM60使用時） LP：90分（DVM60使用時）
早送り、巻き戻し時間	バッテリー使用時： 約2分40秒（DVM60使用時） ACアダプター使用時： 約1分45秒（DVM60使用時）
ファインダー	電子ファインダー：カラー
撮像素子	5.9mm（1/3型）CMOSセンサー 記録画素数：静止画時最大400万画素相当*2（2 304×1 728）（4:3モード） 総画素数：約210万画素 動画時有効画素数（4:3モード）：約108 万画素 動画時有効画素数（16:9モード）：約143万画素 静止画時有効画素数（4:3モード）：約199万画素 静止画時有効画素数（16:9モード）：約149万画素
ズームレンズ	カール ツァイス　バリオゾナーT* 10倍（光学）、20倍、80倍（デジタル） f=5.1～51mm 35mmカメラ換算では 「撮る－テープ」時*3： 41.3～485mm（16:9モード） （4:3モードでは50.5～594mm） 「撮る－メモリー」時： 37～370mm（4:3モード） （16:9モードでは40.4～404mm） F1.8～2.9 フィルター径30mm
色温度切り換え	[オート]、[ワンプッシュ]、 [屋内]（3 200K）、 [屋外]（5 800K）
最低被写体照度	11 lx（ルクス）（F1.8） 0 lx（ルクス）（NightShot時）

*1 （社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画用のファイルフォーマット。

*2 ソニー独自のクリアビットCMOSセンサーの画素配列と画像処理システム新エンハンスドイメージジングプロセッサーにより、有効画素に対して2倍の静止画記録サイズを実現しています。

*3 広角画素読み出しによる実動作値

出力端子

A/V OUT端子	10ピン特殊コネクター 映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡 Y出力　1Vp-p、75Ω不平衡 C出力　0.286Vp-p、75Ω不平衡 音声：327mV（47 kΩ負荷時）、出力インピーダンス2.2 kΩ以下
コンポーネントビデオ端子	D1/D3映像：コンポーネントビデオ端子 Y：1Vp-p、75Ω不平衡 PB/PR. CB/CR：±350mVp-p
HDMI OUT端子	タイプA（19ピン）

その他

入/出力端子

LANC端子	ステレオミニミニジャック（ø 2.5）
USB端子	mini-B
HDV/DV端子	i.LINK（IEEE1394　4ピンコネクター　S100）

液晶画面

画面サイズ	6.9cm（2.7型、アスペクト比16:9）
総ドット数	211 200ドット 横960×縦220

電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力7.2V DC端子入力8.4V
消費電力	ファインダー使用時、明るさ標準： HDV記録時 4.1W DV記録時 3.9W 液晶画面使用時、明るさ標準： HDV記録時 4.4W DV記録時 4.2W
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	－20℃～+60℃
外形寸法	82×78×139mm （最大突起部を除く）（幅×高さ×奥行き）
本体質量	約500g（本体のみ）
撮影時総質量	約600g（バッテリーNP-FP60、テープ（DVM60）含む。）
付属品	12ページをご覧ください。

ACアダプター　AC-L200

電源	AC100～240V、50/60Hz
消費電力	18W
定格出力	DC8.4V *
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	－20℃～+60℃
外形寸法	約48×29×81mm（最大突起部をのぞく）（幅×高さ×奥行き）
質量	約170g（本体のみ）

* その他の仕様については AC アダプターのラベルをご覧ください。

リチャージャブルバッテリーパック NP-FP60

最大電圧	DC8.4V
公称電圧	DC7.2V
容量	7.2Wh（1 000mAh）
最大外形寸法	約31.8×33.3×45.0mm （幅×高さ×奥行き）
質量	約80g
使用温度	0℃～+40℃
使用電池	Li-ion

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入と記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。

このデジタルHDビデオカメラレコーダーは国内仕様です。海外で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスとその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

■ 調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

■ それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

■ 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■ 部品の保有期間について

当社はデジタルHDビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

■ 部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。




火災

感電

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はテクニカルインフォメーションセンターにご依頼ください。


分解禁止

内部に水や異物（金属類や燃えやすい物など）を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り外してください。ACアダプターや充電器などもコンセントから抜いて、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。


禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。


禁止

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。


禁止

指定以外の電池、ACアダプター、充電器を使わない

火災やけがの原因となることがあります。


禁止

機器本体や付属品、記録メディアは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池などの付属品や"メモリースティック"などを飲み込む恐れがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。


禁止

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。


指示

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。


禁止

フラッシュ、ビデオライトご使用上の注意

- 点灯したまま放置しない。
- 使用中に紙や布などの燃えやすいものを近づけない。
- ビデオライトの点灯中及び消灯直後のランプに触らない。
- 指定以外のランプを使用しない。火災ややけどの原因になります。
- 可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュまたは、ビデオライトを使用しない。


禁止

フラッシュ、ビデオライトなどの撮影補助光を至近距離で人に向けない

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。







下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。



ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。



不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブル、AV接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。



通電中のACアダプター、充電器、充電中のバッテリーや製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。



長期間使用しないときは、電源を外す

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから外したり、電池を本体から外して保管してください。火災の原因となることがあります。



フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を手で覆ったまま発光しないでください。発光後も発光部に手を触れないでください。やけどの原因となります。



次のページへつづく→

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。



電池や付属品、記録メディア、アクセサリーなどを取り外すときは、手をそえる

電池や"メモリースティック"などが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。



⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

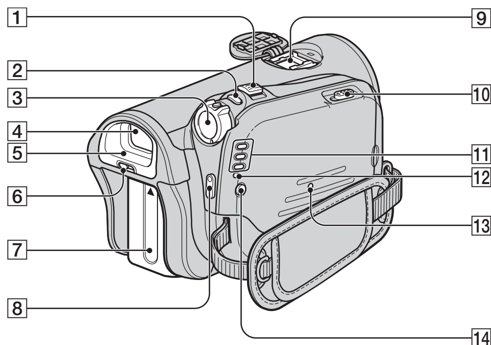
漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがや**やけど、火災**などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険	●バッテリーパックは指定された充電器以外で充電しない。 ●電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。 ●電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。 ●電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。 ●電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体で濡らさない。濡れた電池を充電したり、使用したりしない。	 禁止
⚠警告	●電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。 ●ボタン電池は充電しないでください。	 禁止
⚠注意	●電池を使い切ったときや、長時間使用しない場合は機器から取り外しておく。	 指示

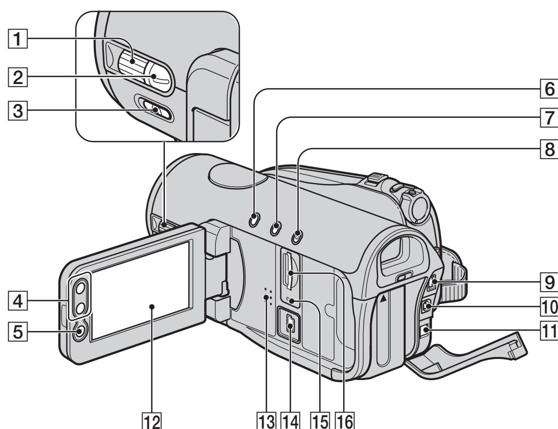
お願い	リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったこれらの電池は、金属部分にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。  Li-ion  Li-ion Ni リチウムイオン電池 **充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店については** 有限責任中間法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

各部のなまえ

（　）内は参照ページです。



1 ズームレバー（30）
2 フォトボタン（28）
3 電源スイッチ（17）
4 ファインダー（18）
5 アイカップ（119）
6 視度調整つまみ（18）
7 バッテリーパック / バッテリー端子カバー（13）
8 スタート/ストップボタン（28）
9 アクティブインターフェースシュー Active Interface Shoe （81）
10 OPEN/EJECT つまみ（21）
11 撮る－テープ、撮る－メモリー、見る/編集ランプ（17）
12 充電ランプ（13）
13 RESET（リセット）ボタン（33）
14 （フラッシュ）ボタン（31）



1 カメラコントロールダイヤル（31）

2 マニュアルボタン（31）

3 NIGHTSHOT スイッチ（31）

4 ズームボタン（30）

5 スタート/ストップボタン（28）

6 逆光補正ボタン（31）

7 画面表示/バッテリーインフォボタン（32）

8 シンプルボタン（24）

9 COMPONENT OUT 端子（81）

10 A/V OUT 端子（81）

11 DC IN 端子（81）

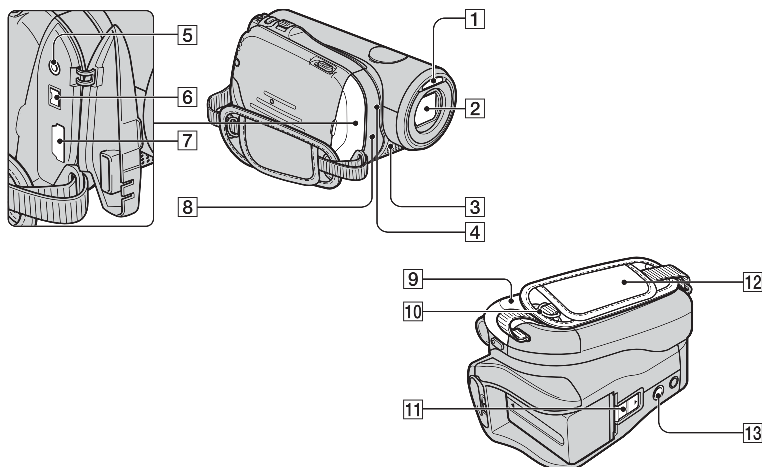
12 液晶画面/タッチパネル（4、19）

13 スピーカー（33）

14 ψ（USB）端子（81）

15 アクセスランプ（22、113）

16 "メモリースティック　デュオ"スロット（22）



1 フラッシュ発光部

2 レンズ（カールツァイスレンズ搭載）（4）

3 内蔵ステレオマイク（33）

4 録画ランプ（33）

5 LANC 端子（81）

6 HDV/DV 端子（i.LINK）（81）

7 HDMI OUT 端子（81）

8 リモコン受光部（33）

9 カセットカバー（21）

10 ショルダーベルト取り付け部（32）

11 BATT（バッテリー取り外し）つまみ（14）

12 グリップベルト（17）

13 三脚用ネジ穴（32）

索引

次のページへつづく➡

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

次のページへつづく➡

数字

商標について

- “ハンディカム”、HANDYCAMはソニー株式会社の登録商標です。
- “Memory Stick”、“メモリースティック”、“MEMORY STICK™”、“メモリースティック　デュオ”、“MEMORY STICK DUO”、“メモリースティック PRO　デュオ”、“MEMORY STICK PRO DUO”、“マジックゲート”、“MAGICGATE”、“MagicGate Memory Stick”、“マジックゲート　メモリースティック”、“MagicGate Memory Stick Duo”、“マジックゲート　メモリースティック　デュオ”はソニー株式会社の商標です。
- InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。
- i.LINK、i.LINKロゴはソニー株式会社の商標です。
- Mini DV Digital Video Cassetteは商標です。
- Microsoft、Windows、Windows MediaはMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSはApple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- HDVおよびHDVロゴは、ソニー株式会社と日本ビクター株式会社の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。

その他の各社名および各商品名は各社の登録商標または商標です。なお、本文中ではTM、®マークは明記していません。

ライセンスに関する注意

個人的使用以外の目的で、MPEG-2規格に合致した本製品をパッケージメディア向けビデオ情報をエンコードするために使用する場合、MPEG-2 PATENT PORTFOLIOの特許に関するライセンスを取得する必要があります。尚、当該ライセンスは、MPEG LA. L.L.C.,（住所：250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206）より取得可能です。